

4 少子高齢化への取組について

問17 あなたは、つくば市には安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると思いますか。 < は1つ >

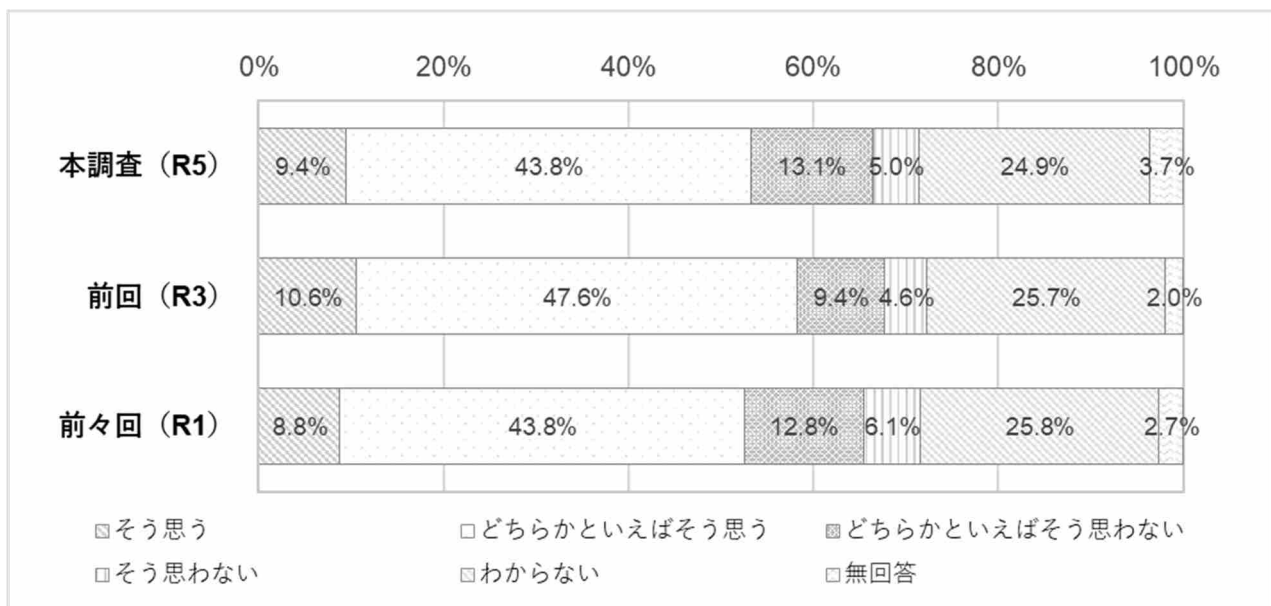
全体集計の結果

子育て環境が整っているかについては、「そう思う/どちらかといえばそう思う」が約5割

- ・つくば市に安心して子どもを産み育てられる環境が整っているかについては、「どちらかといえばそう思う」が634人(43.8%)で最も多く、「わからない」が361人(24.9%)、「どちらかといえばそう思わない」が190人(13.1%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
そう思う	136	9.4%	10.6%	8.8%
どちらかといえばそう思う	634	43.8%	47.6%	43.8%
どちらかといえばそう思わない	190	13.1%	9.4%	12.8%
そう思わない	73	5.0%	4.6%	6.1%
わからない	361	24.9%	25.7%	25.8%
無回答	53	3.7%	2.0%	2.7%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

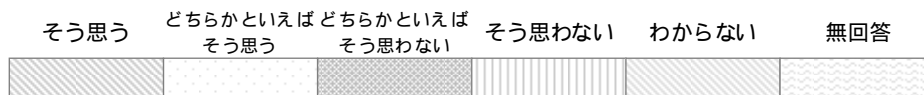
< 過年度調査との比較 >



4 少子高齢化への取組について

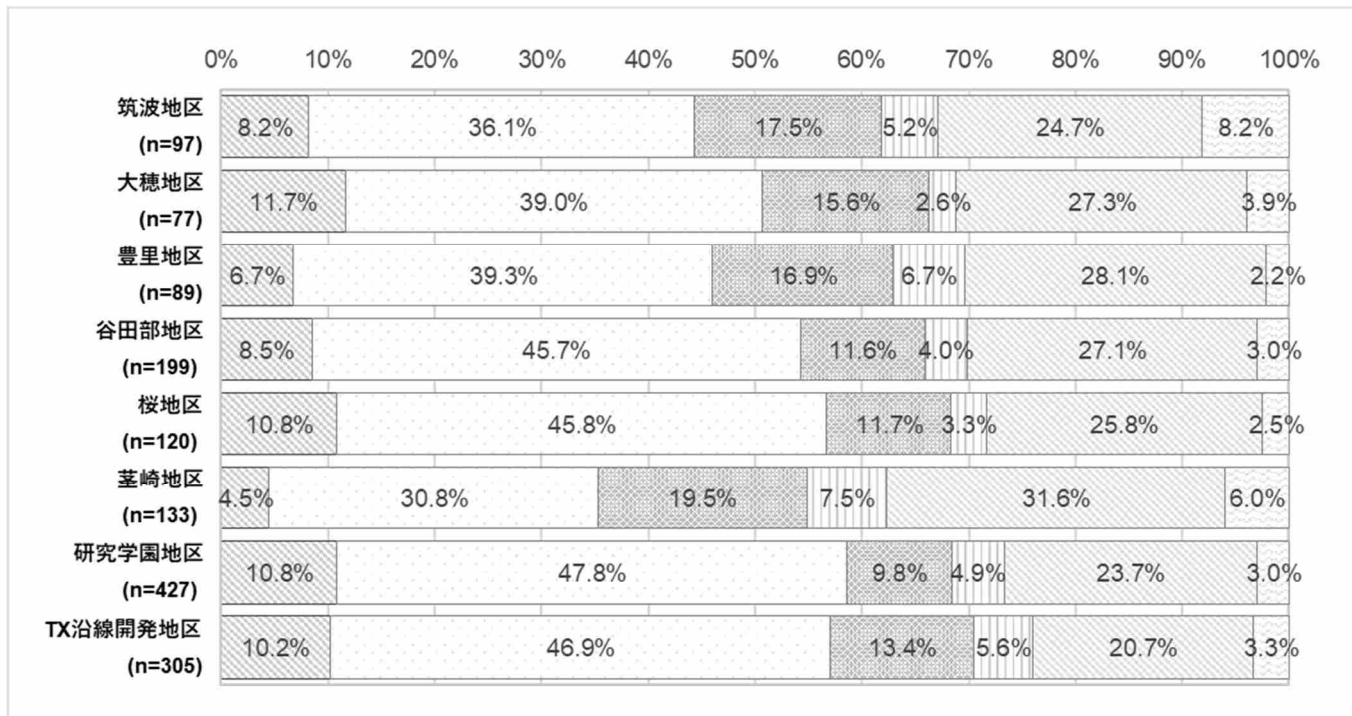
問 17 あなたは、つくば市には安心して子どもを生み育てられる環境が整っていると思いますか。 < は1つ >

クロス集計



【地区別】

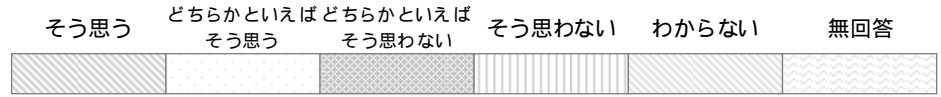
- ・ 荃崎地区を除いた全ての地区で「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が40%を超えている。
- ・ 荃崎地区では、「そう思う/どちらかといえばそう思う」は35.3%であった。



【年齢別】

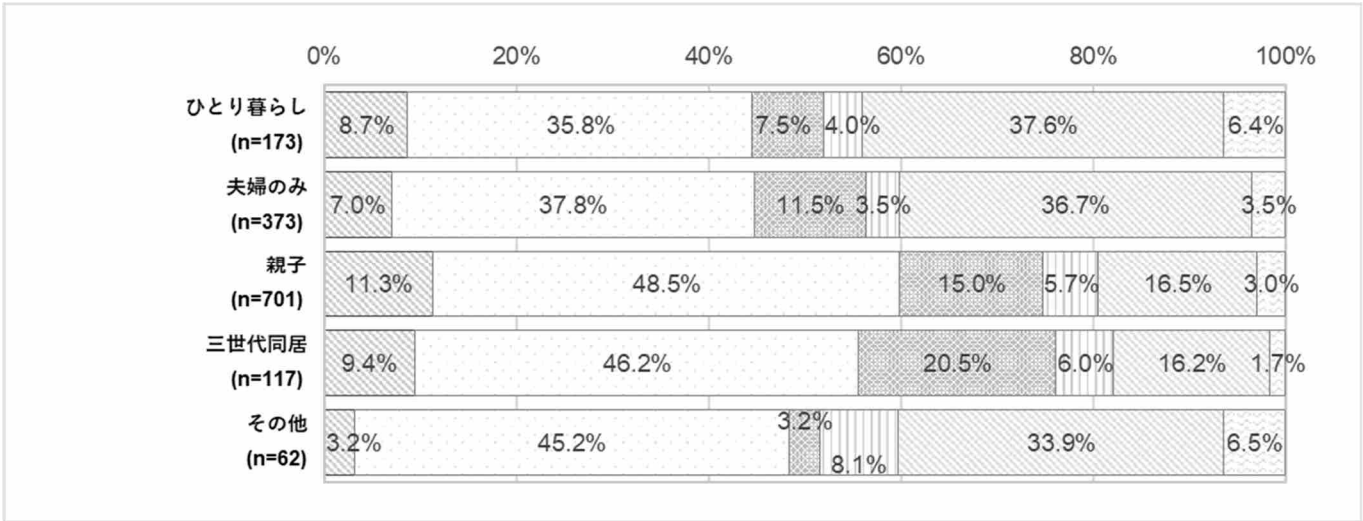
- ・ 10歳代、30歳代、50歳代、60～64歳では「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が55%を超えている。
- ・ 70～74歳では「どちらかといえばそう思わない/そう思わない」の割合が24.3%で最も多く、次いで30歳代及び40歳代が21.2%となっている。





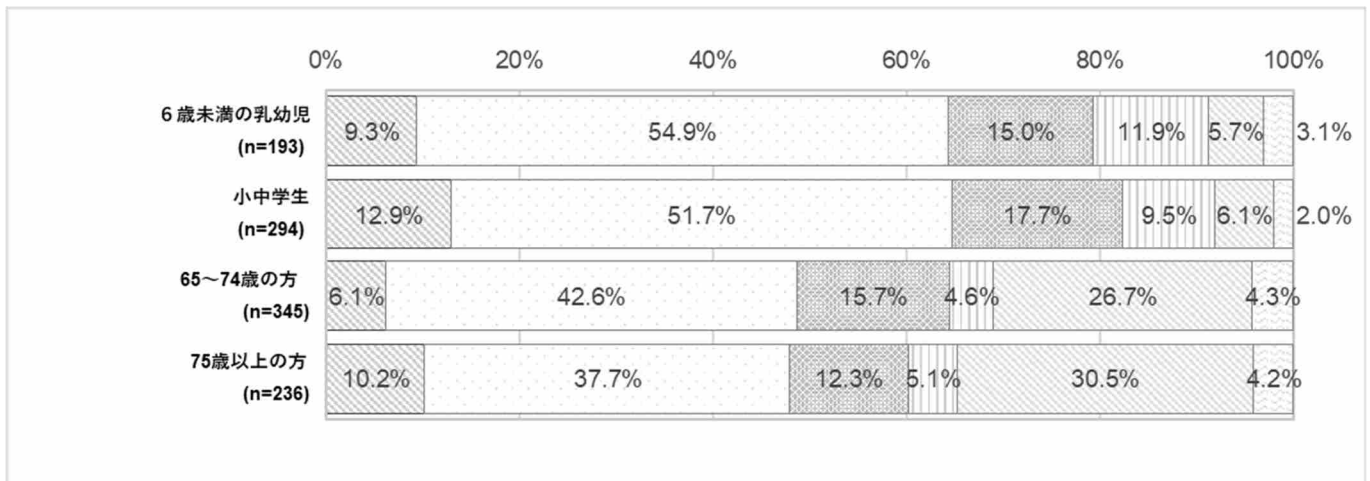
【世帯構成別】

・親子、三世帯同居では「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が55%を超えている。



【世帯に含む人別】

・6歳未満の乳幼児、小中学生を含む世帯では「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が60%を超えている。



4 少子高齢化への取組について

問 18 安心して子どもを産み育てられる環境として、つくば市で充実していると思うものと不足していると思うものは何ですか。 < は1つずつ >

子育て環境について、充実していると思うものは「子育て世帯への経済的支援」が3割超え、不足していると思うものは「産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000」が3割近く

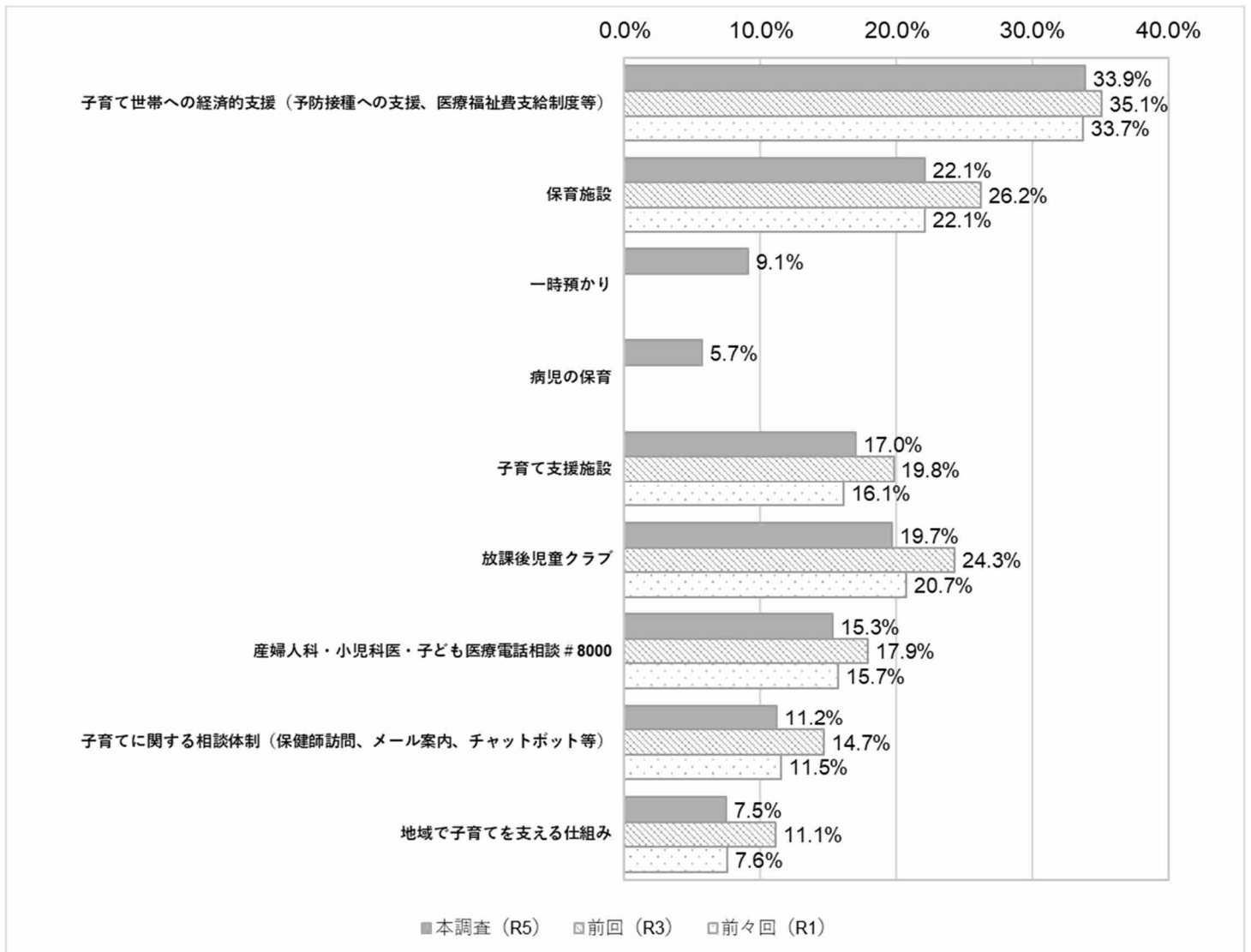
< 充実していると思うもの >

全体集計の結果

・つくば市で子育て環境で充実していると思うものについては、「子育て世帯への経済的支援」が491人(33.9%)と最も多く、「保育施設」が320人(22.1%)、「放課後児童クラブ」が285人(19.7%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
1 子育て世帯への経済的支援(予防接種への支援、医療福祉費支給制度等)	491	33.9%	35.1%	33.7%
2 保育施設	320	22.1%	26.2%	22.1%
3 一時預かり	132	9.1%	-	-
4 病児の保育	83	5.7%	-	-
5 子育て支援施設	246	17.0%	19.8%	16.1%
6 放課後児童クラブ	285	19.7%	24.3%	20.7%
7 産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000	222	15.3%	17.9%	15.7%
8 子育てに関する相談体制(保健師訪問、メール案内、チャットボット等)	162	11.2%	14.7%	11.5%
9 地域で子育てを支える仕組み	108	7.5%	11.1%	7.6%
全体(有効回答数)	1,447			

< 過年度調査との比較(項目順) >



クロス集計

【地区別】

- ・筑波地区を除く全ての地区で「子育て世帯への経済的支援」、筑波地区では「保育施設」が最も多くなっている。
- ・全ての地区で「保育施設」「放課後児童クラブ」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
筑波地区 (n=97)	保育施設		子育て世帯への経済的支援		放課後児童クラブ		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	26	26.8%	25	25.8%	13	13.4%	11	11.3%	10	10.3%
大穂地区 (n=77)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	27	35.1%	21	27.3%	20	26.0%	11	14.3%	10	13.0%
豊里地区 (n=89)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設		一時預かり/産婦人科・小児科医・子ども医療電 話相談#8000/子育てに関する相談体制/地域 で子育てを支える仕組み	
	32	36.0%	19	21.3%	14	15.7%	13	14.6%	7	7.9%
谷田部地区 (n=199)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		子育て支援施設	
	65	32.7%	47	23.6%	41	20.6%	37	18.6%	34	17.1%
桜地区 (n=120)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設		一時預かり	
	36	30.0%	28	23.3%	25	20.8%	23	19.2%	16	13.3%
荃崎地区 (n=133)	子育て世帯への経済的支援		放課後児童クラブ		保育施設		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000/子育て に関する相談体制	
	31	23.3%	17	12.8%	16	12.0%	13	9.8%	11	8.3%
研究学園地区 (n=427)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		子育て支援施設	
	150	35.1%	96	22.5%	91	21.3%	80	18.7%	78	18.3%
TX沿線開発地区 (n=305)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	125	41.0%	67	22.0%	64	21.0%	63	20.7%	53	17.4%

【年齢別】

- ・全ての年齢で「子育て世帯への経済的支援」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
10歳代 (n=18)	子育て世帯への経済的支援		保育施設/放課後児童クラブ		一時預かり/子育てに関する相談体制/ 地域で子育てを支える仕組み					
	8	44.4%	6	33.3%	4	22.2%				
20歳代 (n=116)	子育て世帯への経済的支援		放課後児童クラブ		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		子育て支援施設		保育施設	
	32	27.6%	25	21.6%	19	16.4%	18	15.5%	14	12.1%
30歳代 (n=227)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		子育てに関する相談体制		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		子育て支援施設	
	90	39.6%	64	28.2%	58	25.6%	49	21.6%	47	20.7%
40歳代 (n=279)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		子育て支援施設		放課後児童クラブ		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	123	44.1%	83	29.7%	75	26.9%	70	25.1%	64	22.9%
50歳代 (n=281)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	109	38.8%	66	23.5%	56	19.9%	51	18.1%	47	16.7%
60～64歳 (n=134)	子育て世帯への経済的支援		放課後児童クラブ		保育施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		子育て支援施設	
	41	30.6%	23	17.2%	18	13.4%	11	8.2%	10	7.5%
65～69歳 (n=122)	子育て世帯への経済的支援		放課後児童クラブ		保育施設		子育て支援施設		一時預かり	
	28	23.0%	26	21.3%	23	18.9%	16	13.1%	11	9.0%
70～74歳 (n=136)	子育て世帯への経済的支援/放課後児童クラブ		保育施設		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000			
	26	19.1%	20	14.7%	15	11.0%	12	8.8%		
75歳以上 (n=119)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設/産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000			
	28	23.5%	23	19.3%	19	16.0%	10	8.4%		

4 少子高齢化への取組について

【世帯構成別】

- ・全ての世帯構成で「子育て世帯への経済的支援」が最も多く、「保育施設」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
ひとり暮らし (n=173)	子育て世帯への経済的支援		放課後児童クラブ		保育施設		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	29	16.8%	23	13.3%	20	11.6%	17	9.8%	16	9.2%
夫婦のみ (n=373)	子育て世帯への経済的支援		放課後児童クラブ		保育施設		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	71	19.0%	51	13.7%	48	12.9%	30	8.0%	25	6.7%
親子 (n=701)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	317	45.2%	204	29.1%	172	24.5%	165	23.5%	150	21.4%
三世帯同居 (n=117)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	47	40.2%	35	29.9%	29	24.8%	25	21.4%	22	18.8%
その他 (n=62)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		子育て支援施設		放課後児童クラブ／子育てに関する相談体制			
	21	33.9%	11	17.7%	9	14.5%	8		12.9%	

【世帯に含む人別】

- ・全ての世帯で「子育て世帯への経済的支援」が最も多く、「保育施設」が上位に入っている。
- ・6歳未満の乳幼児を含む世帯では「子育てに関する相談体制」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
6歳未満の乳幼児 (n=193)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		子育てに関する相談体制		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	104	53.9%	73	37.8%	68	35.2%	61	31.6%	57	29.5%
小中学生 (n=294)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	152	51.7%	110	37.4%	94	32.0%	87	29.6%	85	28.9%
65～74歳の方 (n=345)	子育て世帯への経済的支援		放課後児童クラブ		保育施設		子育て支援施設		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	
	87	25.2%	72	20.9%	66	19.1%	42	12.2%	34	9.9%
75歳以上の方 (n=236)	子育て世帯への経済的支援		保育施設		放課後児童クラブ		子育て支援施設		一時預かり	
	63	26.7%	46	19.5%	33	14.0%	28	11.9%	24	10.2%

問 18 安心して子どもを産み育てられる環境として、つくば市で充実していると思うものと不足していると思うものは何ですか。 < は1つずつ >

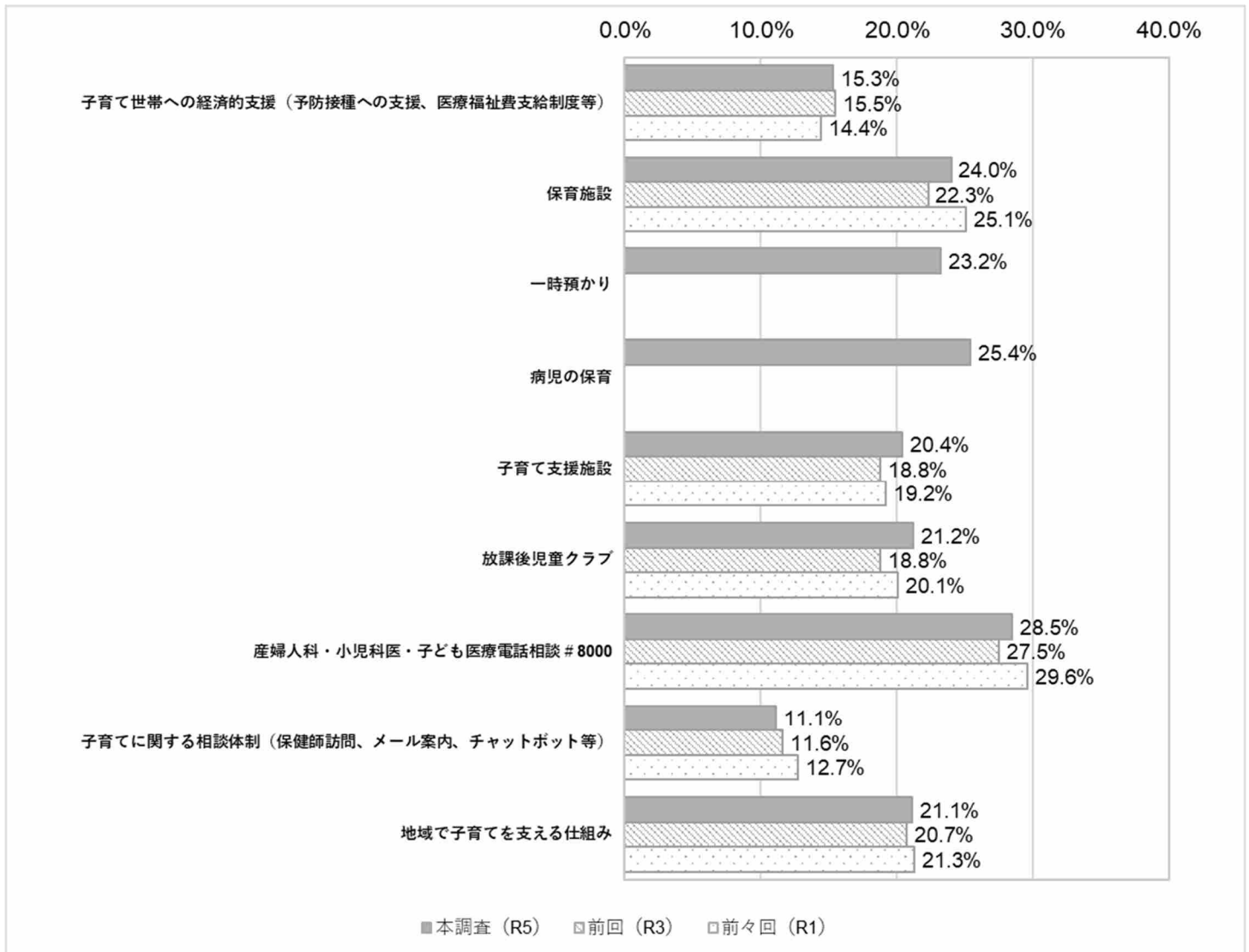
<不足していると思うもの>

全体集計の結果

- ・つくば市で子育て環境で不足していると思うものについては、「産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000」が412人(28.5%)と最も多く、「病児の保育」が367人(25.4%)、「保育施設」が347人(24.0%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
1 子育て世帯への経済的支援(予防接種への支援、医療福祉費支給制度等)	222	15.3%	15.5%	14.4%
2 保育施設	347	24.0%	22.3%	25.1%
3 一時預かり	335	23.2%	-	-
4 病児の保育	367	25.4%	-	-
5 子育て支援施設	295	20.4%	18.8%	19.2%
6 放課後児童クラブ	307	21.2%	18.8%	20.1%
7 産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000	412	28.5%	27.5%	29.6%
8 子育てに関する相談体制(保健師訪問、メール案内、チャットボット等)	160	11.1%	11.6%	12.7%
9 地域で子育てを支える仕組み	306	21.1%	20.7%	21.3%
全体(有効回答数)	1,447			

<過年度調査との比較(項目順)>



4 少子高齢化への取組について

クロス集計

【地区別】

- ・大穂地区を除く全ての地区で「産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000」が最も多く、大穂地区では「病児の保育」が最も多い。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
筑波地区 (n=97)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	病児の保育／地域で子育てを支える仕組み		子育て支援施設	保育施設／一時預かり
	28 28.9%	23 23.7%	22 22.7%	21 21.6%	
大穂地区 (n=77)	病児の保育	一時預かり／産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		子育て支援施設	保育施設
	24 31.2%	19 24.7%	15 19.5%	14 18.2%	
豊里地区 (n=89)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	一時預かり／病児の保育		放課後児童クラブ	地域で子育てを支える仕組み
	37 41.6%	27 30.3%	24 27.0%	23 25.8%	
谷田部地区 (n=199)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	保育施設	病児の保育	一時預かり	子育て支援施設
	46 23.1%	45 22.6%	43 21.6%	38 19.1%	36 18.1%
桜地区 (n=120)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	地域で子育てを支える仕組み		保育施設／一時預かり	
	36 30.0%	31 25.8%	29 24.2%	26 21.7%	
荃崎地区 (n=133)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	病児の保育	保育施設	一時預かり／放課後児童クラブ	
	32 24.1%	23 17.3%	22 16.5%	21 15.8%	
研究学園地区 (n=427)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	保育施設／病児の保育		一時預かり	子育て支援施設／ 地域で子育てを支える仕組み
	114 26.7%	102 23.9%		96 22.5%	89 20.8%
TX沿線開発地区 (n=305)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	病児の保育	保育施設	一時預かり	放課後児童クラブ
	100 32.8%	96 31.5%	95 31.1%	87 28.5%	84 27.5%

【年齢別】

- ・40歳代から70～74歳では「産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000」が最も多くなっている。
- ・20歳代では「保育施設」、30歳代では「病児の保育」が最も多くなっている。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代 (n=18)	保育施設／一時預かり／子育て支援施設／放課後児童クラブ／産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000				
	3 16.7%				
20歳代 (n=116)	保育施設	一時預かり	病児の保育	地域で子育てを支える仕組み	放課後児童クラブ／ 産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談 #8000
	34 29.3%	24 20.7%	23 19.8%	22 19.0%	20 17.2%
30歳代 (n=227)	病児の保育	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	保育施設	一時預かり	放課後児童クラブ
	90 39.6%	83 36.6%	81 35.7%	78 34.4%	65 28.6%
40歳代 (n=279)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	病児の保育	一時預かり／放課後児童クラブ		地域で子育てを支える仕組み
	98 35.1%	95 34.1%	84 30.1%		80 28.7%
50歳代 (n=281)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	病児の保育	地域で子育てを支える仕組み	一時預かり／放課後児童クラブ	
	78 27.8%	68 24.2%	64 22.8%	61 21.7%	
60～64歳 (n=134)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	保育施設	子育て支援施設	一時預かり	地域で子育てを支える仕組み
	36 26.9%	31 23.1%	28 20.9%	26 19.4%	25 18.7%
65～69歳 (n=122)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	病児の保育	保育施設	一時預かり	放課後児童クラブ／地域で育 てを支える仕組み
	39 32.0%	24 19.7%	23 18.9%	22 18.0%	20 16.4%
70～74歳 (n=136)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	保育施設	病児の保育	子育て支援施設	一時預かり
	33 24.3%	27 19.9%	26 19.1%	23 16.9%	22 16.2%
75歳以上 (n=119)	地域で子育てを支える仕組み	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000	子育て支援施設	保育施設	一時預かり
	19 16.0%	18 15.1%	15 12.6%	13 10.9%	11 9.2%

【世帯構成別】

- ・ひとり暮らしを除いた全ての世帯構成で「産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000」が最も多くなっている。
- ・ひとり暮らしでは「地域で子育てを支える仕組み」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
ひとり暮らし (n=173)	地域で子育てを支える仕組み		保育施設／一時預かり／産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000				病児の保育			
	23	13.3%	21		12.1%		19		11.0%	
夫婦のみ (n=373)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		保育施設		一時預かり		病児の保育		子育て支援施設／ 放課後児童クラブ	
	76	20.4%	67	18.0%	55	14.7%	53	14.2%	52	13.9%
親子 (n=701)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		病児の保育		保育施設／一時預かり				放課後児童クラブ	
	247	35.2%	239	34.1%	209		29.8%		191	27.2%
三世同居 (n=117)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		病児の保育		放課後児童クラブ		保育施設		一時預かり	
	45	38.5%	38	32.5%	33	28.2%	32	27.4%	30	25.6%
その他 (n=62)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		保育施設／一時預かり				地域で子育てを支える仕組み		子育て支援施設	
	18	29.0%	15		24.2%		14		22.6%	

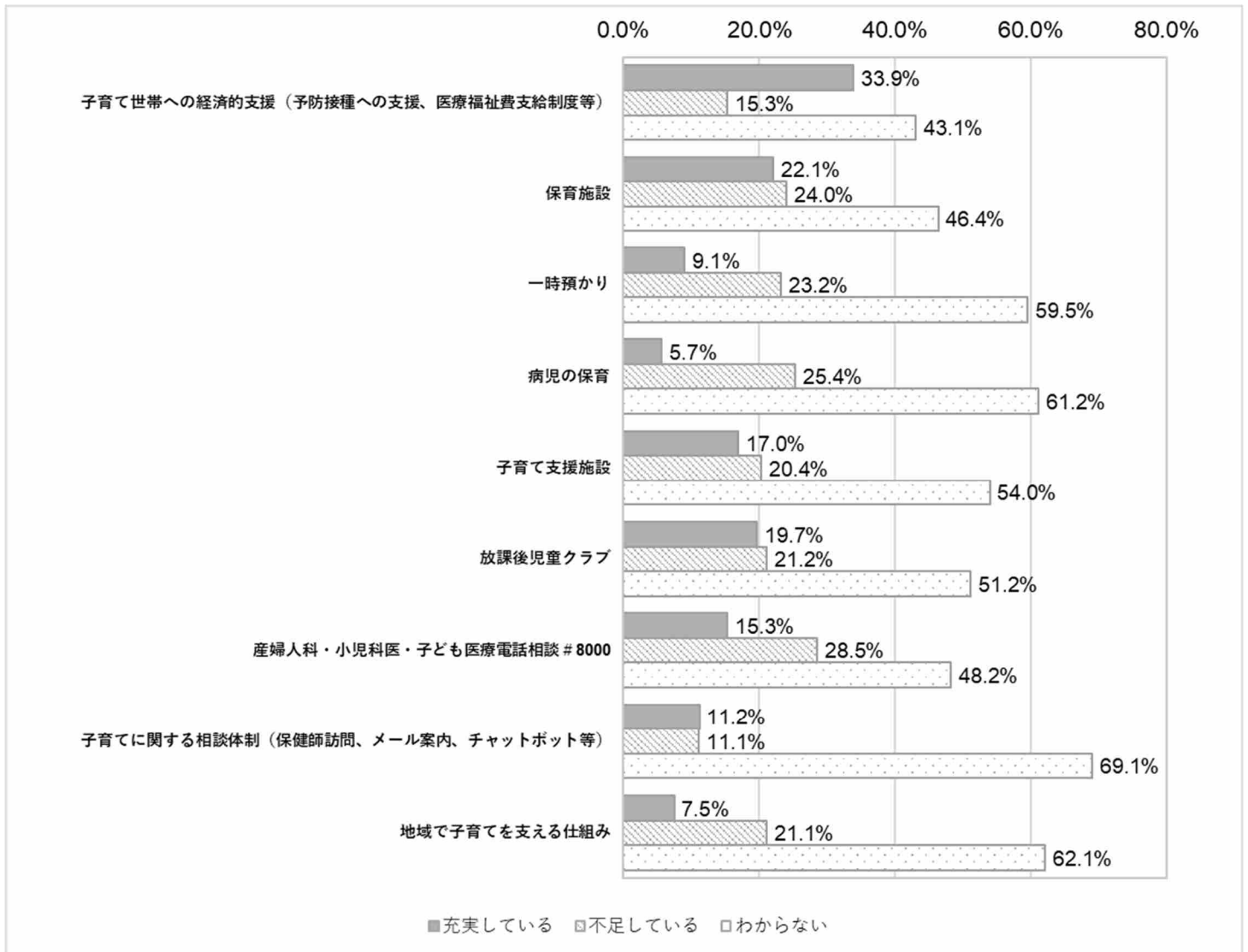
【世帯に含む人別】

- ・6歳未満の乳幼児を含む世帯では「病児の保育」が最も多くなっている。
- ・小中学生、65～74歳の方、75歳以上を含む世帯では「産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
6歳未満の乳幼児 (n=193)	病児の保育		産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		保育施設		一時預かり		放課後児童クラブ	
	107	55.4%	98	50.8%	92	47.7%	80	41.5%	74	38.3%
小中学生 (n=294)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		病児の保育		放課後児童クラブ		一時預かり		子育て支援施設	
	124	42.2%	115	39.1%	113	38.4%	104	35.4%	96	32.7%
65～74歳の方 (n=345)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		病児の保育		保育施設／一時預かり				放課後児童クラブ	
	89	25.8%	65	18.8%	61		17.7%		54	15.7%
75歳以上の方 (n=236)	産婦人科・小児科医・ 子ども医療電話相談#8000		病児の保育		保育施設／地域で子育てを支える仕組み				子育て支援施設	
	59	25.0%	41	17.4%	40		16.9%		38	16.1%

問 18 安心して子どもを産み育てられる環境として、つくば市で充実していると思うものと不足していると思うものは何ですか。 < は1つずつ >

< 充実・不足の比較（項目順） >



問 19 あなたは、つくば市には高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思いますか。 < は1つ >

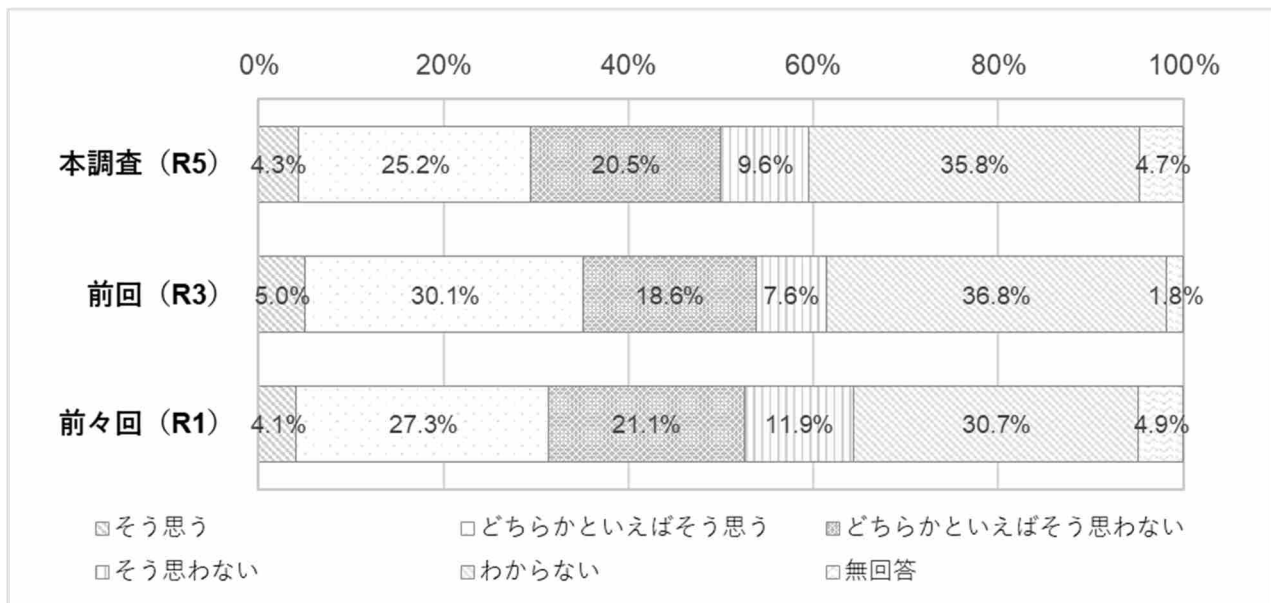
全体集計の結果

高齢者の生活環境が整っているかについては、「そう思う/どちらかといえばそう思う」が約3割

- つくば市に高齢者が安心して住み続けられる環境が整っているかについては、「わからない」が518人(35.8%)で最も多く、「どちらかといえばそう思う」が364人(25.2%)、「どちらかといえばそう思わない」が296人(20.5%)、「そう思わない」が139人(9.6%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
そう思う	62	4.3%	5.0%	4.1%
どちらかといえばそう思う	364	25.2%	30.1%	27.3%
どちらかといえばそう思わない	296	20.5%	18.6%	21.1%
そう思わない	139	9.6%	7.6%	11.9%
わからない	518	35.8%	36.8%	30.7%
無回答	68	4.7%	1.8%	4.9%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

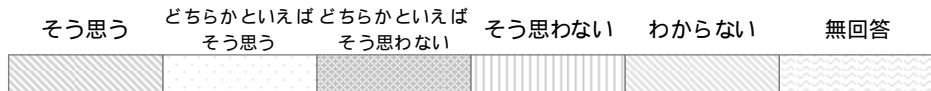
< 過年度調査との比較 >



4 少子高齢化への取組について

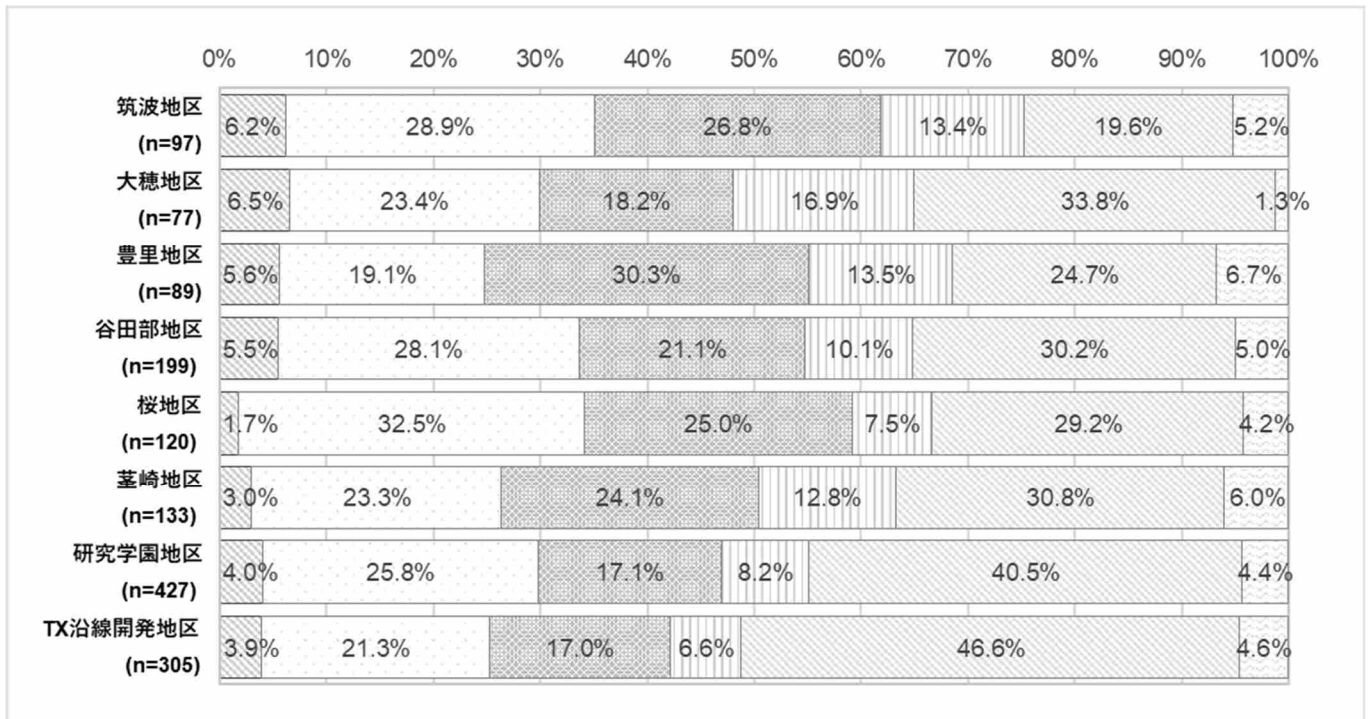
問 19 あなたは、つくば市には高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思いますか。 < は1つ >

クロス集計



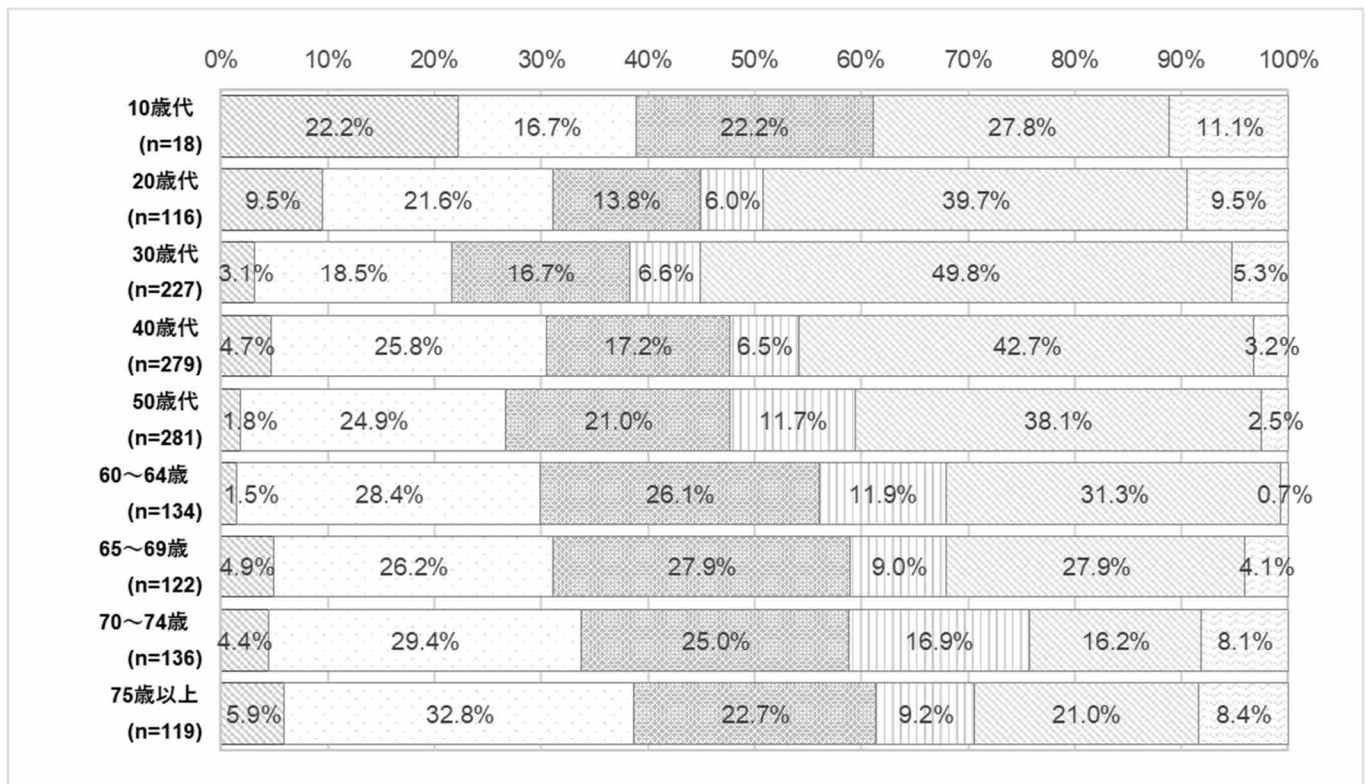
【地区別】

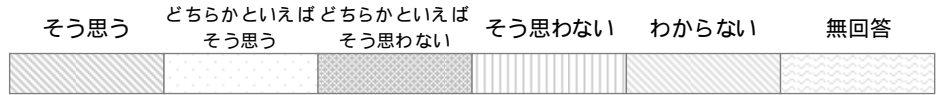
- ・筑波地区では「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が35.1%で最も多くなっている。
- ・豊里地区では「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」の割合が43.8%で最も多くなっている。



【年齢別】

- ・70～74歳、75歳以上では「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が30%を超えている。
- ・70～74歳では「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」の割合が41.9%で最も多く、次いで60～64歳が38.0%、65～69歳が36.9%と続いている。





【世帯構成別】

- ・夫婦のみ、三世帯同居、その他では「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が30%を超えている。
- ・夫婦のみ、三世帯同居では「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」の割合が30%を超えている。



【世帯に含む人別】

- ・75歳以上を含む世帯では「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が約40%となっている。
- ・6歳未満の乳幼児を含む世帯では「わからない」の割合が45%を超えている。



4 少子高齢化への取組について

問 20 高齢者が安心して住み続けられる環境として、つくば市で充実していると思うものと不足していると思うものは何ですか。
 < は1つずつ >

高齢者の生活環境について、充実していると思うものは「クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119」が2割半ば、不足していると思うものは「日常生活支援(移動・送迎、買い物等)」が3割超え

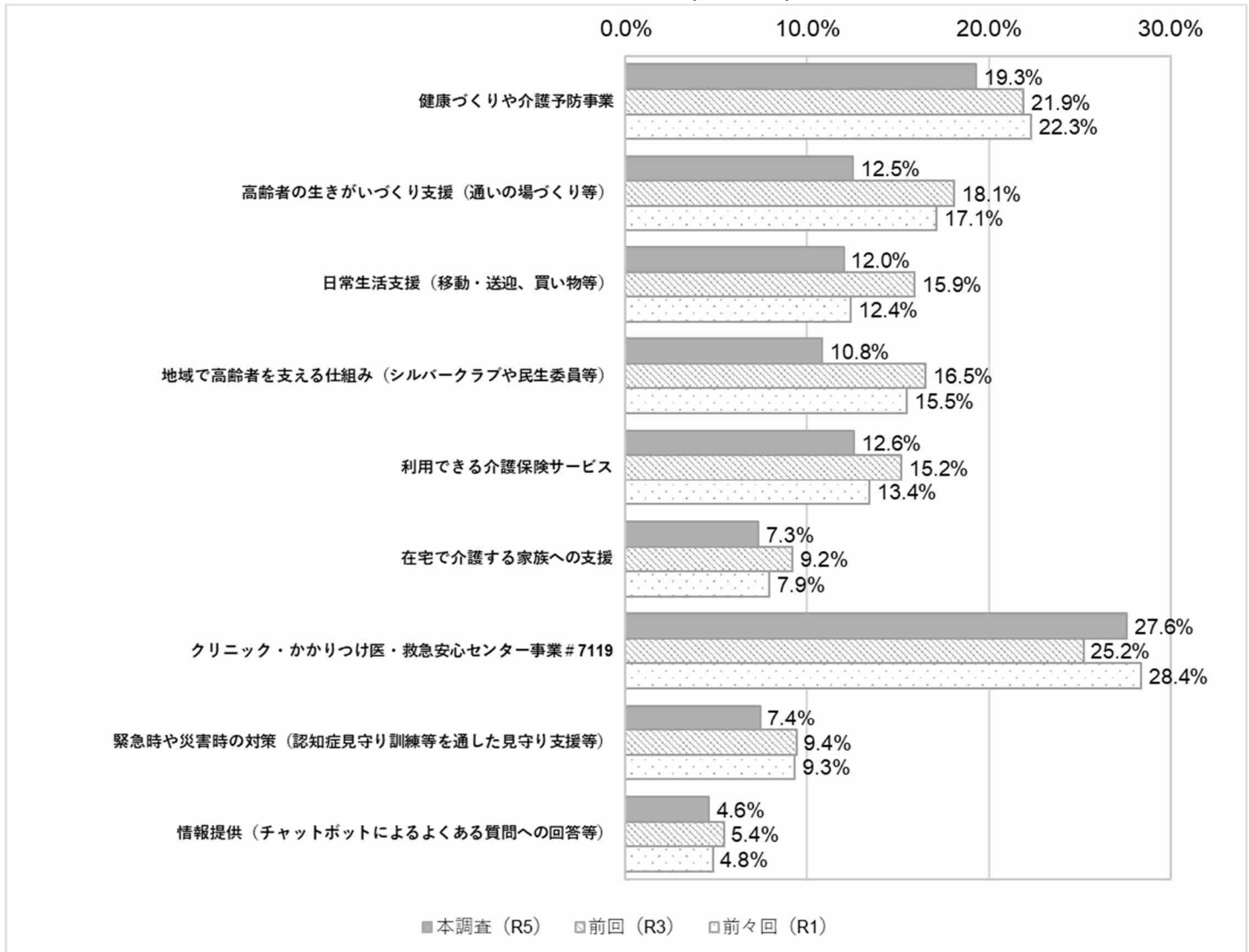
< 充実していると思うもの >

全体集計の結果

・高齢者の生活環境で充実していると思うものについては、「クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119」が400人(27.6%)で最も多く、「健康づくりや介護予防事業」が279人(19.3%)、「健康づくりや介護予防事業」が279人(19.3%)、「利用できる介護保険サービス」が182人(12.6%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
1 健康づくりや介護予防事業	279	19.3%	21.9%	22.3%
2 高齢者の生きがいづくり支援(通いの場づくり等)	181	12.5%	18.1%	17.1%
3 日常生活支援(移動・送迎、買い物等)	173	12.0%	15.9%	12.4%
4 地域で高齢者を支える仕組み(シルバークラブや民生委員等)	156	10.8%	16.5%	15.5%
5 利用できる介護保険サービス	182	12.6%	15.2%	13.4%
6 在宅で介護する家族への支援	106	7.3%	9.2%	7.9%
7 クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119	400	27.6%	25.2%	28.4%
8 緊急時や災害時の対策(認知症見守り訓練等を通じた見守り支援等)	107	7.4%	9.4%	9.3%
9 情報提供(チャットボットによるよくある質問への回答等)	66	4.6%	5.4%	4.8%
全体(有効回答数)	1,447			

< 過年度調査との比較(項目順) >



クロス集計

【地区別】

・全ての地区で「クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119」が最も多い。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
筑波地区 (n=97)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	利用できる介護保険サービス	日常生活支援	地域で高齢者を支える仕組み
	41 42.3%	26 26.8%	19 19.6%	17 17.5%	14 14.4%
大穂地区 (n=77)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	高齢者の生きがいづくり支援	日常生活支援	地域で高齢者を支える仕組み
	25 32.5%	16 20.8%	11 14.3%	10 13.0%	9 11.7%
豊里地区 (n=89)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	利用できる介護保険サービス	地域で高齢者を支える仕組み	日常生活支援／在宅で介護する家 族への支援
	34 38.2%	18 20.2%	14 15.7%	12 13.5%	10 11.2%
谷田部地区 (n=199)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	利用できる介護保険サービス	高齢者の生きがいづくり支援	日常生活支援
	61 30.7%	47 23.6%	33 16.6%	32 16.1%	24 12.1%
桜地区 (n=120)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	高齢者の生きがいづくり支援	利用できる介護保険サービス	日常生活支援
	40 33.3%	27 22.5%	19 15.8%	17 14.2%	14 11.7%
荃崎地区 (n=133)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	利用できる介護保険サービス	日常生活支援	地域で高齢者を支える仕組み
	32 24.1%	25 18.8%	22 16.5%	19 14.3%	17 12.8%
研究学園地区 (n=427)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	高齢者の生きがいづくり支援	日常生活支援	地域で高齢者を支える仕組み／ 利用できる介護保険サービス
	110 25.8%	80 18.7%	62 14.5%	51 11.9%	47 11.0%
TX沿線開発地区 (n=305)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	日常生活支援	高齢者の生きがいづくり支援	地域で高齢者を支える仕組み／ 利用できる介護保険サービス
	57 18.7%	40 13.1%	28 9.2%	24 7.9%	22 7.2%

【年齢別】

・全ての年齢で「クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119」が最も多い。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代 (n=18)	健康づくりや介護予防事業／日常生活支援／クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		利用できる介護保険サービス	高齢者の生きがいづくり支援／地域で高齢者を 支える仕組み／在宅で介護する家族への支援／ 緊急時や災害時の対策	
	7 38.9%		6 33.3%	7 38.9%	
20歳代 (n=116)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	高齢者の生きがいづくり支援／利用できる介護保険サービス	日常生活支援	
	31 26.7%	23 19.8%	17 14.7%	12 10.3%	
30歳代 (n=227)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	日常生活支援	高齢者の生きがいづくり支援	利用できる介護保険サービス
	34 15.0%	31 13.7%	27 11.9%	22 9.7%	20 8.8%
40歳代 (n=279)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	日常生活支援	高齢者の生きがいづくり支援／利用できる介護保険サービス	
	67 24.0%	47 16.8%	36 12.9%	31 11.1%	
50歳代 (n=281)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	高齢者の生きがいづくり支援	地域で高齢者を支える仕組み／利用できる介護保険サービス	
	71 25.3%	55 19.6%	40 14.2%	30 10.7%	
60～64歳 (n=134)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	利用できる介護保険サービス	高齢者の生きがいづくり支援	日常生活支援
	45 33.6%	20 14.9%	16 11.9%	14 10.4%	11 8.2%
65～69歳 (n=122)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	利用できる介護保険サービス	地域で高齢者を支える仕組み	日常生活支援
	40 32.8%	23 18.9%	15 12.3%	13 10.7%	11 9.0%
70～74歳 (n=136)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	地域で高齢者を支える仕組み／利用できる介護保険サービス	日常生活支援	
	45 33.1%	37 27.2%	22 16.2%	21 15.4%	
75歳以上 (n=119)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119	健康づくりや介護予防事業	地域で高齢者を支える仕組み／利用できる介護保険サービス	高齢者の生きがいづくり支援	
	56 47.1%	32 26.9%	23 19.3%	19 16.0%	

4 少子高齢化への取組について

【世帯構成別】

・全ての世帯構成で「クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119」が最も多い。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
ひとり暮らし (n=173)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		健康づくりや介護予防事業		地域で高齢者を支える仕組み		高齢者の生きがいづくり支援		日常生活支援	
	40	23.1%	34	19.7%	21	12.1%	20	11.6%	17	9.8%
夫婦のみ (n=373)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		健康づくりや介護予防事業		日常生活支援		高齢者の生きがいづくり支援		利用できる介護保険サービス	
	105	28.2%	64	17.2%	49	13.1%	40	10.7%	38	10.2%
親子 (n=701)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		健康づくりや介護予防事業		高齢者の生きがいづくり支援／利用できる介護保険サービス		日常生活支援			
	187	26.7%	129	18.4%	89		12.7%		80	11.4%
三世帯同居 (n=117)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		健康づくりや介護予防事業		利用できる介護保険サービス		高齢者の生きがいづくり支援		日常生活支援	
	38	32.5%	31	26.5%	23	19.7%	20	17.1%	17	14.5%
その他 (n=62)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		利用できる介護保険サービス		健康づくりや介護予防事業		高齢者の生きがいづくり支援／地域で高齢者を支える仕組み／在宅で介護する家族への支援			
	25	40.3%	16	25.8%	14	22.6%	8		12.9%	

【世帯に含む人別】

・全ての世帯で「クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119」が最も多く、次いで「健康づくりや介護予防事業」となっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
6歳未満の乳幼児 (n=193)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		健康づくりや介護予防事業		日常生活支援／利用できる介護保険サービス		地域で高齢者を支える仕組み			
	37	19.2%	28	14.5%	20		10.4%		18	9.3%
小中学生 (n=294)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		健康づくりや介護予防事業		利用できる介護保険サービス		高齢者の生きがいづくり支援		日常生活支援	
	68	23.1%	57	19.4%	38	12.9%	35	11.9%	34	11.6%
65～74歳の方 (n=345)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		健康づくりや介護予防事業		利用できる介護保険サービス		日常生活支援		地域で高齢者を支える仕組み	
	115	33.3%	70	20.3%	50	14.5%	46	13.3%	42	12.2%
75歳以上の方 (n=236)	クリニック・かかりつけ医・ 救急安心センター事業#7119		健康づくりや介護予防事業		利用できる介護保険サービス		高齢者の生きがいづくり支援／日常生活支援			
	105	44.5%	68	28.8%	57	24.2%	39		16.5%	

問 20 高齢者が安心して住み続けられる環境として、つくば市で充実していると思うものと不足していると思うものは何ですか。 < は1つずつ >

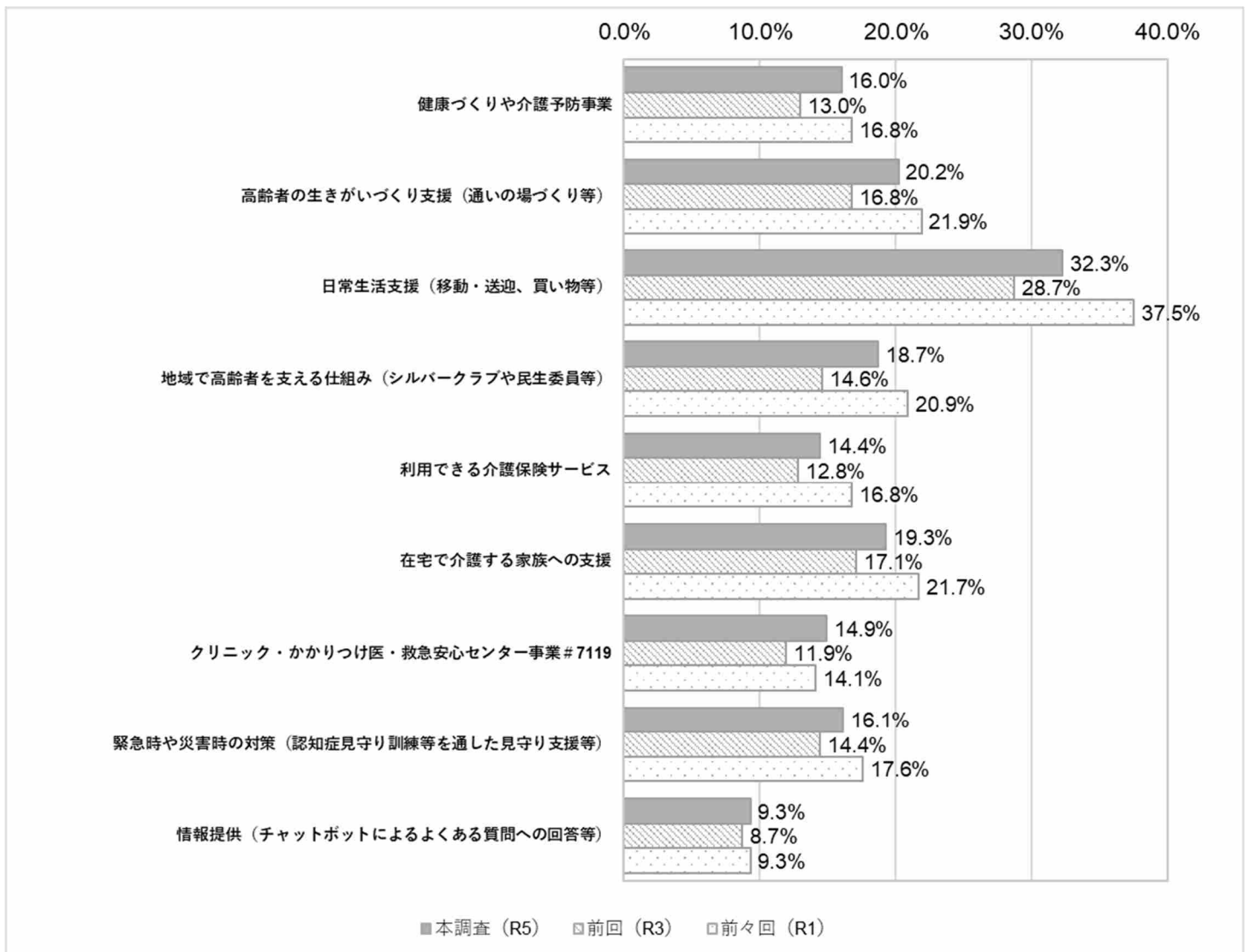
<不足していると思うもの>

全体集計の結果

- ・高齢者の生活環境で不足していると思うものについては、「日常生活支援(移動・送迎、買い物等)」が467人(32.3%)で最も多く、「高齢者の生きがいがづくり支援(通いの場づくり等)」が292人(20.2%)、「在宅で介護する家族への支援」が279人(19.3%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
1 健康づくりや介護予防事業	231	16.0%	13.0%	16.8%
2 高齢者の生きがいがづくり支援(通いの場づくり等)	292	20.2%	16.8%	21.9%
3 日常生活支援(移動・送迎、買い物等)	467	32.3%	28.7%	37.5%
4 地域で高齢者を支える仕組み(シルバークラブや民生委員等)	270	18.7%	14.6%	20.9%
5 利用できる介護保険サービス	209	14.4%	12.8%	16.8%
6 在宅で介護する家族への支援	279	19.3%	17.1%	21.7%
7 クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119	215	14.9%	11.9%	14.1%
8 緊急時や災害時の対策(認知症見守り訓練等を通じた見守り支援等)	233	16.1%	14.4%	17.6%
9 情報提供(チャットボットによるよくある質問への回答等)	134	9.3%	8.7%	9.3%
全体(有効回答数)	1,447			

<過年度調査との比較(項目順)>



4 少子高齢化への取組について

クロス集計

【地区別】

・全ての地区で「日常生活支援」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
筑波地区 (n=97)	日常生活支援		在宅で介護する家族への支援		緊急時や災害時の対策		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み	
	44	45.4%	34	35.1%	31	32.0%	30	30.9%	29	29.9%
大穂地区 (n=77)	日常生活支援		在宅で介護する家族への支援		地域で高齢者を支える仕組み		利用できる介護保険サービス		緊急時や災害時の対策	
	29	37.7%	24	31.2%	22	28.6%	20	26.0%	19	24.7%
豊里地区 (n=89)	日常生活支援		在宅で介護する家族への支援		地域で高齢者を支える仕組み		高齢者の生きがいがづくり支援／利用できる介護保険サービス			
	44	49.4%	31	34.8%	28	31.5%	27		30.3%	
谷田部地区 (n=199)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		在宅で介護する家族への支援		地域で高齢者を支える仕組み		緊急時や災害時の対策	
	80	40.2%	45	22.6%	44	22.1%	38	19.1%	35	17.6%
桜地区 (n=120)	日常生活支援		在宅で介護する家族への支援		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み		健康づくりや介護予防事業 健康づくりや介護予防事業／クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119／緊急時や災害時の対策	
	43	35.8%	30	25.0%	29	24.2%	26	21.7%	23	19.2%
荃崎地区 (n=133)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		緊急時や災害時の対策		地域で高齢者を支える仕組み		健康づくりや介護予防事業	
	50	37.6%	36	27.1%	32	24.1%	30	22.6%	29	21.8%
研究学園地区 (n=427)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み		健康づくりや介護予防事業		在宅で介護する家族への支援	
	104	24.4%	61	14.3%	58	13.6%	49	11.5%	48	11.2%
TX沿線開発地区 (n=305)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		在宅で介護する家族への支援		地域で高齢者を支える仕組み		クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119	
	73	23.9%	47	15.4%	40	13.1%	39	12.8%	37	12.1%

【年齢別】

・全ての年齢で「日常生活支援」が最も多くなっている。

・30歳代以上では「高齢者の生きがいがづくり支援」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位		
10歳代 (n=18)	健康づくりや介護予防事業／高齢者の生きがいがづくり支援／日常生活支援／地域で高齢者を支える仕組み								利用できる介護保険サービス／在宅で介護する家族への支援／クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119／緊急時や災害時の対策／情報提供		
	2								11.1%		1
20歳代 (n=116)	日常生活支援		在宅で介護する家族への支援		地域で高齢者を支える仕組み		健康づくりや介護予防事業／高齢者の生きがいがづくり支援				
	27	23.3%	17	14.7%	14	12.1%	11				9.5%
30歳代 (n=227)	日常生活支援		在宅で介護する家族への支援		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み		健康づくりや介護予防事業		
	52	22.9%	34	15.0%	26	11.5%	25	11.0%	24	10.6%	
40歳代 (n=279)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		在宅で介護する家族への支援		地域で高齢者を支える仕組み		健康づくりや介護予防事業		
	76	27.2%	44	15.8%	38	13.6%	36	12.9%	35	12.5%	
50歳代 (n=281)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み		クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119		在宅で介護する家族への支援		
	99	35.2%	56	19.9%	53	18.9%	52	18.5%	50	17.8%	
60～64歳 (n=134)	日常生活支援		在宅で介護する家族への支援		高齢者の生きがいがづくり支援		利用できる介護保険サービス		地域で高齢者を支える仕組み／緊急時や災害時の対策		
	52	38.8%	44	32.8%	39	29.1%	36	26.9%	34	25.4%	
65～69歳 (n=122)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		在宅で介護する家族への支援		緊急時や災害時の対策		健康づくりや介護予防事業		
	51	41.8%	39	32.0%	32	26.2%	30	24.6%	29	23.8%	
70～74歳 (n=136)	日常生活支援		地域で高齢者を支える仕組み		高齢者の生きがいがづくり支援		在宅で介護する家族への支援		緊急時や災害時の対策		
	53	39.0%	41	30.1%	38	27.9%	33	24.3%	32	23.5%	
75歳以上 (n=119)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み		緊急時や災害時の対策		健康づくりや介護予防事業／在宅で介護する家族への支援		
	48	40.3%	32	26.9%	31	26.1%	27	22.7%	25	21.0%	

【世帯構成別】

・全ての世帯で「日常生活支援」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
ひとり暮らし (n=173)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み		在宅で介護する家族への支援		健康づくりや介護予防事業／クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119	
	50	28.9%	39	22.5%	35	20.2%	32	18.5%	25	14.5%
夫婦のみ (n=373)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み		緊急時や災害時の対策		在宅で介護する家族への支援	
	124	33.2%	83	22.3%	77	20.6%	67	18.0%	64	17.2%
親子 (n=701)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		在宅で介護する家族への支援		地域で高齢者を支える仕組み		健康づくりや介護予防事業／緊急時や災害時の対策	
	211	30.1%	115	16.4%	111	15.8%	108	15.4%	97	13.8%
三世同居 (n=117)	日常生活支援		在宅で介護する家族への支援		高齢者の生きがいがづくり支援／利用できる介護保険サービス				地域で高齢者を支える仕組み／クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119	
	47	40.2%	45	38.5%	32		27.4%		28	23.9%
その他 (n=62)	日常生活支援		在宅で介護する家族への支援		緊急時や災害時の対策		健康づくりや介護予防事業／高齢者の生きがいがづくり支援			
	26	41.9%	22	35.5%	19	30.6%	16		25.8%	

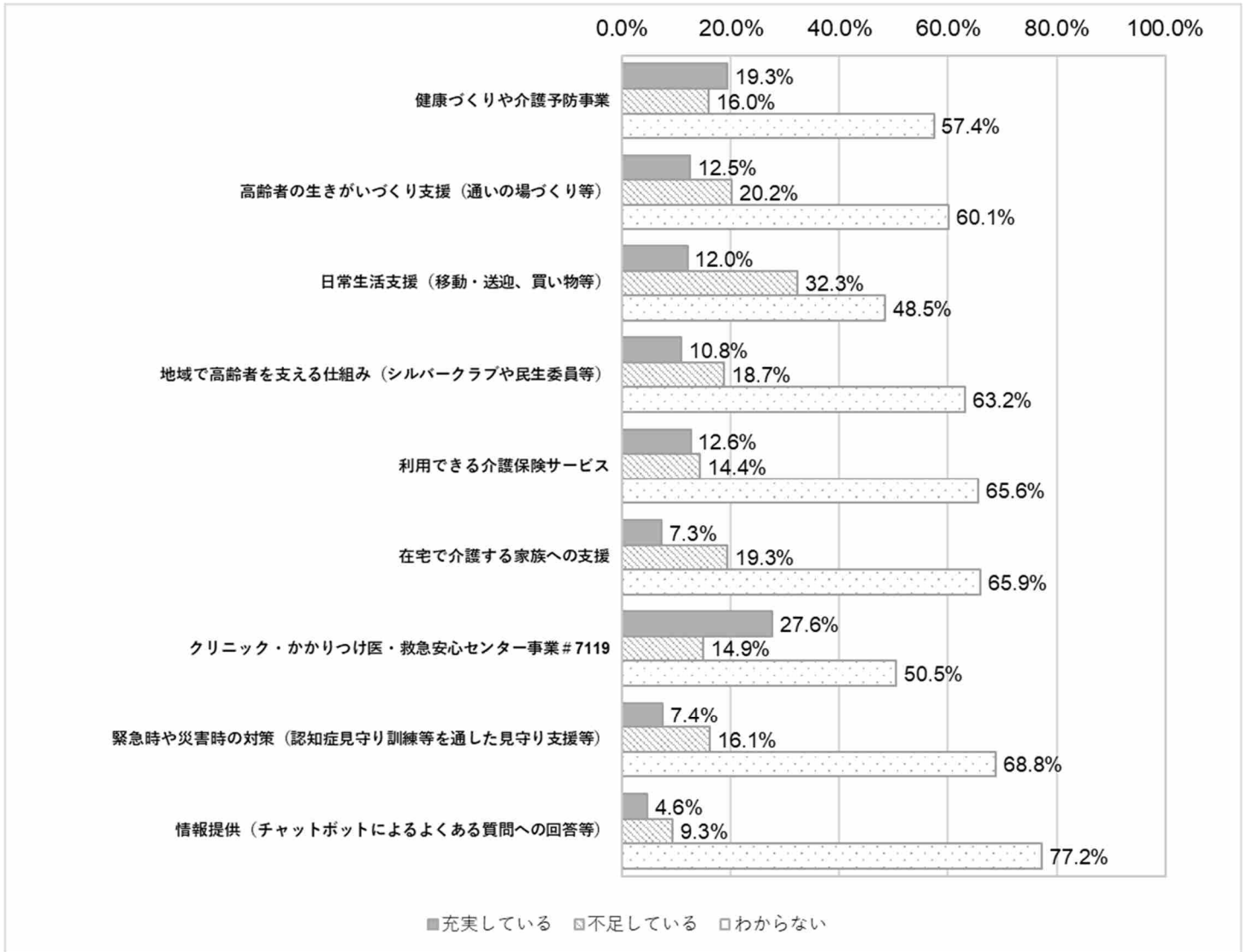
【世帯に含む人別】

- ・全ての世帯で「日常生活支援」が最も多くなっており、「高齢者の生きがいがづくり支援」が上位に入っている。
- ・6歳未満の乳幼児、小中学生を含む世帯では「在宅で介護する家族への支援」、65～74歳の方、75歳以上の方を含む世帯では「地域で高齢者を支える仕組み」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
6歳未満の乳幼児 (n=193)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援／在宅で介護する家族への支援		健康づくりや介護予防事業		地域で高齢者を支える仕組み			
	49	25.4%	26		13.5%		23	11.9%	17	8.8%
小中学生 (n=294)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援／在宅で介護する家族への支援		クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119		健康づくりや介護予防事業			
	70	23.8%	41		13.9%		35	11.9%	34	11.6%
65～74歳の方 (n=345)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み		在宅で介護する家族への支援		健康づくりや介護予防事業	
	135	39.1%	105	30.4%	91	26.4%	90	26.1%	83	24.1%
75歳以上の方 (n=236)	日常生活支援		高齢者の生きがいがづくり支援		地域で高齢者を支える仕組み		在宅で介護する家族への支援		緊急時や災害時の対策	
	108	45.8%	72	30.5%	70	29.7%	66	28.0%	58	24.6%

問 20 高齢者が安心して住み続けられる環境として、つくば市で充実していると思うものと不足していると思うものは何ですか。 < は1つずつ >

< 充実・不足の比較（項目順） >



問 21 あなたが、地域包括支援センターの次の取組のうち知っているものをお答えください。

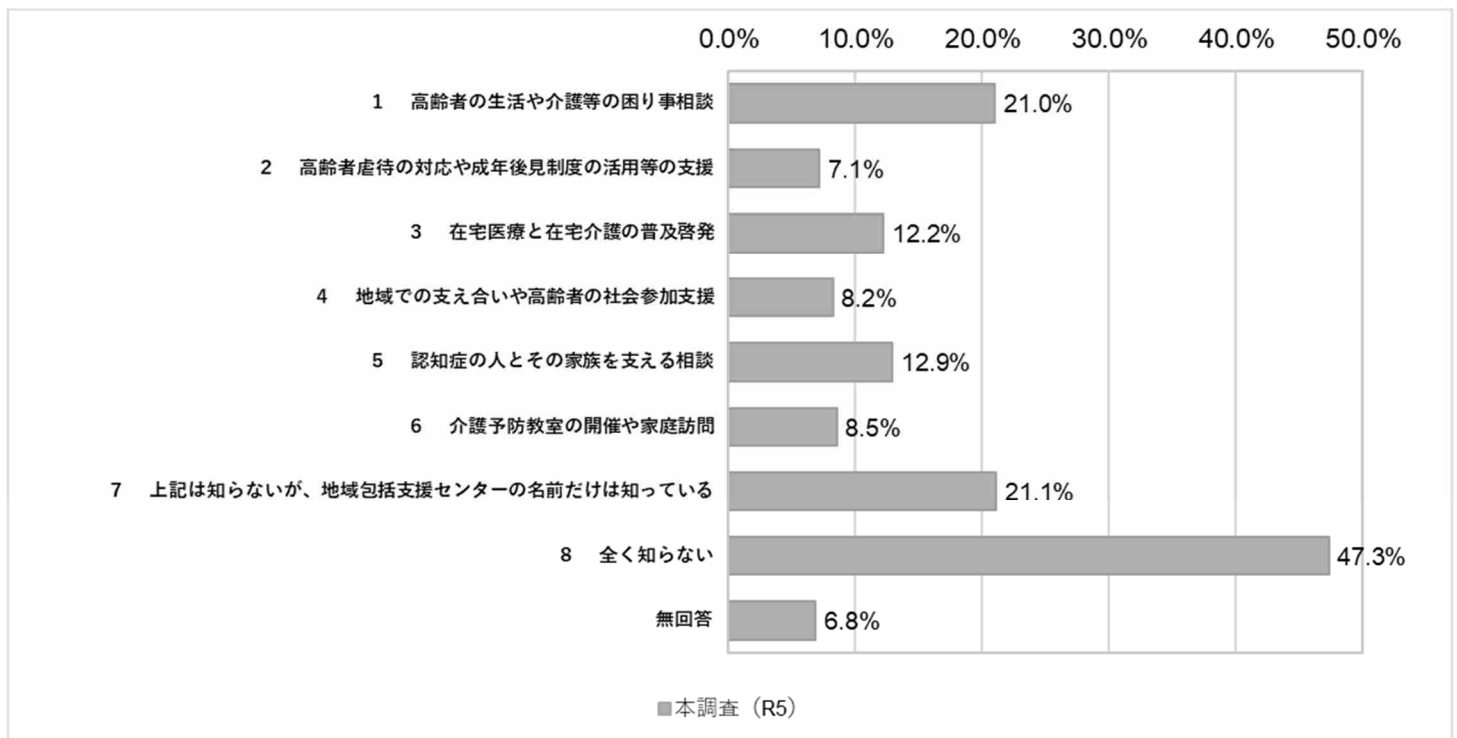
< は当てはまるものすべて >

全体集計の結果

地域包括支援センターの取組の認知状況について、「全く知らない」が4割半ば、「上記は知らないが、地域包括支援センターの名前だけは知っている」が約2割

- ・地域包括支援センターの取組の認知状況について、「全く知らない」が685人(47.3%)で最も多く、「上記は知らないが、地域包括支援センターの名前だけは知っている」が306人(21.1%)、「高齢者の生活や介護等の困り事相談」が304人(21.0%)で続いている。

選択肢	本調査 (R5)	
	回答数(人)	構成比
1 高齢者の生活や介護等の困り事相談	304	21.0%
2 高齢者虐待の対応や成年後見制度の活用等の支援	103	7.1%
3 在宅医療と在宅介護の普及啓発	177	12.2%
4 地域での支え合いや高齢者の社会参加支援	119	8.2%
5 認知症の人とその家族を支える相談	186	12.9%
6 介護予防教室の開催や家庭訪問	123	8.5%
7 上記は知らないが、地域包括支援センターの名前だけは知っている	306	21.1%
8 全く知らない	685	47.3%
無回答	98	6.8%
全体(有効回答数)	1,447	



4 少子高齢化への取組について

クロス集計

【地区別】

- ・筑波地区を除いた全ての地区で「全く知らない」が最も多くなっている。
- ・筑波地区では「高齢者の生活や介護等の困り事相談」が最も多くなっている。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
筑波地区 (n=97)	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	全く知らない	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	在宅医療と在宅介護の普及啓発	認知症の人と その家族を支える相談
	31 32.0%	26 26.8%	25 25.8%	24 24.7%	21 21.6%
大穂地区 (n=77)	全く知らない	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	在宅医療と在宅介護の普及啓発	認知症の人と その家族を支える相談
	34 44.2%	19 24.7%	18 23.4%	12 15.6%	9 11.7%
豊里地区 (n=89)	全く知らない	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	在宅医療と在宅介護の普及啓発／認知症の人とその家族を支える 相談／介護予防教室の開催や家庭訪問	
	37 41.6%	24 27.0%	16 18.0%	12 13.5%	
谷田部地区 (n=199)	全く知らない	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	認知症の人と その家族を支える相談	在宅医療と在宅介護の普及啓発
	85 42.7%	47 23.6%	45 22.6%	23 11.6%	22 11.1%
桜地区 (n=120)	全く知らない	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	在宅医療と在宅介護の普及啓発	認知症の人と その家族を支える相談
	56 46.7%	29 24.2%	28 23.3%	20 16.7%	16 13.3%
荃崎地区 (n=133)	全く知らない	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	認知症の人と その家族を支える相談	高齢者虐待の対応や成年後見制度の活用 等の支援／在宅医療と在宅介護の普及啓 発
	62 46.6%	38 28.6%	27 20.3%	16 12.0%	11 8.3%
研究学園地区 (n=427)	全く知らない	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	認知症の人と その家族を支える相談	在宅医療と在宅介護の普及啓発
	217 50.8%	89 20.8%	80 18.7%	55 12.9%	49 11.5%
TX沿線開発地区 (n=305)	全く知らない	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	認知症の人と その家族を支える相談	在宅医療と在宅介護の普及啓発／地域で の支え合いや高齢者の社会参加支援
	168 55.1%	49 16.1%	45 14.8%	34 11.1%	27 8.9%

【年齢別】

- ・10歳代から65～69歳までは「全く知らない」が最も多くなっている。
- ・70～74歳では「高齢者の生活や介護等の困り事相談」、75歳以上では「地域包括支援センターの名前だけは知っている」が最も多くなっている。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代 (n=18)	全く知らない	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	高齢者の生活や介護等の困り事相談／ 在宅医療と在宅介護の普及啓発		-
	9 50.0%	4 22.2%	1 5.6%		
20歳代 (n=116)	全く知らない	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	地域での支え合いや高齢者の社会参加支援／ 地域包括支援センターの名前だけは知っている	認知症の人とその家族を支える相談／ 介護予防教室の開催や家庭訪問	
	65 56.0%	18 15.5%	15 12.9%	14 12.1%	
30歳代 (n=227)	全く知らない	高齢者の生活や介護等の困り事相談／ 地域包括支援センターの名前だけは知っている		認知症の人と その家族を支える相談	介護予防教室の開催や家庭訪 問
	132 58.1%	32 14.1%	21 9.3%	17 7.5%	
40歳代 (n=279)	全く知らない	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	認知症の人と その家族を支える相談	在宅医療と在宅介護の普及啓発
	163 58.4%	52 18.6%	42 15.1%	32 11.5%	23 8.2%
50歳代 (n=281)	全く知らない	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	認知症の人と その家族を支える相談	在宅医療と在宅介護の普及啓発
	134 47.7%	58 20.6%	57 20.3%	43 15.3%	36 12.8%
60～64歳 (n=134)	全く知らない	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	在宅医療と在宅介護の普及啓発	認知症の人と その家族を支える相談
	54 40.3%	37 27.6%	31 23.1%	19 14.2%	16 11.9%
65～69歳 (n=122)	全く知らない	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	在宅医療と在宅介護の普及啓発／ 認知症の人とその家族を支える相談	
	50 41.0%	31 25.4%	30 24.6%	16 13.1%	
70～74歳 (n=136)	高齢者の生活や 介護等の困り事相談		在宅医療と在宅介護の普及啓発／ 地域包括支援センターの名前だけは知っている／全く知らない		認知症の人と その家族を支える相談
	52 38.2%		35 25.7%		26 19.1%
75歳以上 (n=119)	地域包括支援センターの 名前だけは知っている	全く知らない	高齢者の生活や 介護等の困り事相談	在宅医療と在宅介護の普及啓発	認知症の人と その家族を支える相談
	43 36.1%	37 31.1%	32 26.9%	18 15.1%	16 13.4%

【世帯構成別】

- ・全ての世帯構成で「全く知らない」が最も多くなっており、「高齢者の生活や介護等の困り事相談」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
ひとり暮らし (n=173)	全く知らない		高齢者の生活や 介護等の困り事相談		地域包括支援センターの 名前だけは知っている		在宅医療と在宅介護の普及啓発		認知症の人と その家族を支える相談	
	92	53.2%	32	18.5%	28	16.2%	24	13.9%	21	12.1%
夫婦のみ (n=373)	全く知らない		地域包括支援センターの 名前だけは知っている		高齢者の生活や 介護等の困り事相談		在宅医療と在宅介護の普及啓発		認知症の人と その家族を支える相談	
	157	42.1%	94	25.2%	88	23.6%	47	12.6%	46	12.3%
親子 (n=701)	全く知らない		地域包括支援センターの 名前だけは知っている		高齢者の生活や 介護等の困り事相談		認知症の人と その家族を支える相談		在宅医療と在宅介護の普及啓発	
	356	50.8%	138	19.7%	130	18.5%	90	12.8%	72	10.3%
三世帯同居 (n=117)	全く知らない		高齢者の生活や 介護等の困り事相談		地域包括支援センターの 名前だけは知っている		在宅医療と在宅介護の普及啓発		認知症の人と その家族を支える相談	
	45	38.5%	31	26.5%	28	23.9%	21	17.9%	17	14.5%
その他 (n=62)	全く知らない		高齢者の生活や 介護等の困り事相談		在宅医療と在宅介護の普及啓発/ 地域包括支援センターの名前だけは知っている				認知症の人と その家族を支える相談	
	29	46.8%	16	25.8%	10		16.1%		9	14.5%

【世帯に含む人別】

- ・75歳以上の方を含む世帯を除いた全ての世帯で「全く知らない」が最も多くなっている。
- ・75歳以上の方を含む世帯では「地域包括支援センターの名前だけは知っている」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
6歳未満の乳幼児 (n=193)	全く知らない		高齢者の生活や介護等の困り事相談/ 地域包括支援センターの名前だけは知っている				認知症の人と その家族を支える相談		在宅医療と在宅介護の普及啓発	
	111	57.5%	31		16.1%		24	12.4%	16	8.3%
小中学生 (n=294)	全く知らない		地域包括支援センターの 名前だけは知っている		高齢者の生活や 介護等の困り事相談		認知症の人と その家族を支える相談		在宅医療と在宅介護の普及啓発	
	156	53.1%	57	19.4%	56	19.0%	36	12.2%	33	11.2%
65～74歳の方 (n=345)	全く知らない		高齢者の生活や 介護等の困り事相談		地域包括支援センターの 名前だけは知っている		在宅医療と在宅介護の普及啓発		認知症の人と その家族を支える相談	
	131	38.0%	102	29.6%	78	22.6%	55	15.9%	49	14.2%
75歳以上の方 (n=236)	地域包括支援センターの 名前だけは知っている		全く知らない		高齢者の生活や 介護等の困り事相談		認知症の人と その家族を支える相談		在宅医療と在宅介護の普及啓発	
	77	32.6%	73	30.9%	66	28.0%	36	15.3%	35	14.8%

5 防災対策・防犯活動について

問22 あなたが、防災対策として実践しているものはありますか。

< は当てはまるものすべて >

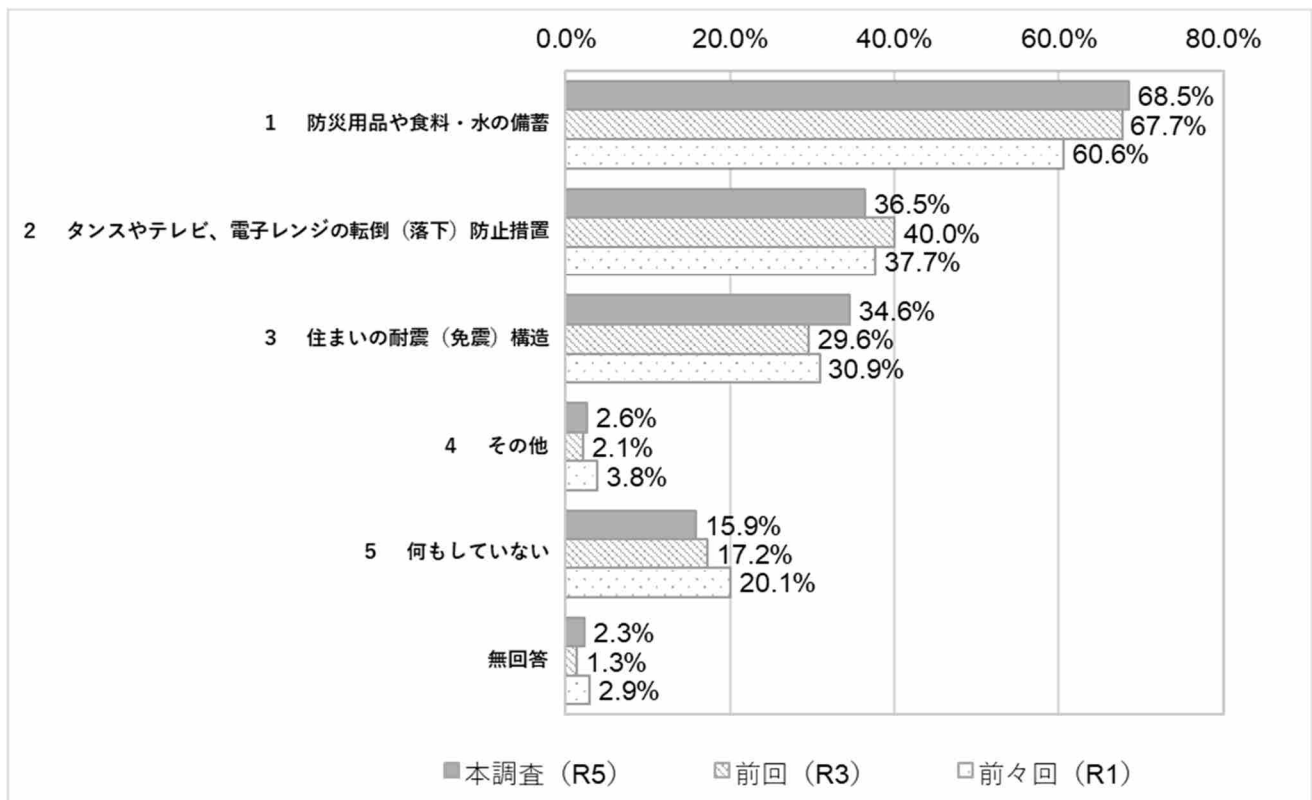
全体集計の結果

防災対策として実施しているものは、「防災用品や食料・水の備蓄」が6割半ば

- ・防災対策として実施しているものについては、「防災用品や食料・水の備蓄」が991人(68.5%)で最も多く、「タンスやテレビ、電子レンジの転倒(落下)防止措置」が528人(36.5%)、「住まいの耐震(免震)構造」が501人(34.6%)で続いている。
- ・前回と比べると、「住まいの耐震(免震)構造」が5.0ポイント上昇している。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
1 防災用品や食料・水の備蓄	991	68.5%	67.7%	60.6%
2 タンスやテレビ、電子レンジの転倒(落下)防止措置	528	36.5%	40.0%	37.7%
3 住まいの耐震(免震)構造	501	34.6%	29.6%	30.9%
4 その他	38	2.6%	2.1%	3.8%
5 何もしていない	230	15.9%	17.2%	20.1%
無回答	34	2.3%	1.3%	2.9%
全体(有効回答数)	1,447			

< 過年度調査との比較(項目順) >



問22 あなたが、防災対策として実践しているものはありますか。

< は当てはまるものすべて >

クロス集計

【地区別】

- ・全ての地区で「防災用品や食料・水の備蓄」が最も多く、「タンスやテレビ、電子レンジの転倒(落下)防止措置」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
筑波地区 (n=97)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		住まいの耐震(免震)構造		その他	
	60	61.9%	38	39.2%	17	17.5%	15	15.5%	1	1.0%
大穂地区 (n=77)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造／何もしていない					
	49	63.6%	21	27.3%	18		23.4%		-	-
豊里地区 (n=89)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	50	56.2%	31	34.8%	22	24.7%	18	20.2%	1	1.1%
谷田部地区 (n=199)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	120	60.3%	73	36.7%	72	36.2%	42	21.1%	5	2.5%
桜地区 (n=120)	防災用品や食料・水の備蓄		住まいの耐震(免震)構造		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		その他	
	77	64.2%	46	38.3%	40	33.3%	22	18.3%	6	5.0%
荻崎地区 (n=133)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		住まいの耐震(免震)構造		その他	
	85	63.9%	51	38.3%	28	21.1%	23	17.3%	6	4.5%
研究学園地区 (n=427)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	329	77.0%	170	39.8%	153	35.8%	50	11.7%	12	2.8%
TX沿線開発地区 (n=305)	防災用品や食料・水の備蓄		住まいの耐震(免震)構造		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		その他	
	221	72.5%	152	49.8%	104	34.1%	35	11.5%	7	2.3%

【年齢別】

- ・全ての年齢で「防災用品や食料・水の備蓄」が最も多く、「タンスやテレビ、電子レンジの転倒(落下)防止措置」「住まいの耐震(免震)構造」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
10歳代 (n=18)	防災用品や食料・水の備蓄		住まいの耐震(免震)構造		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		-	
	11	61.1%	7	38.9%	4	22.2%	3	16.7%	-	-
20歳代 (n=116)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	78	67.2%	28	24.1%	27	23.3%	25	21.6%	2	1.7%
30歳代 (n=227)	防災用品や食料・水の備蓄		住まいの耐震(免震)構造		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		その他	
	149	65.6%	76	33.5%	64	28.2%	44	19.4%	4	1.8%
40歳代 (n=279)	防災用品や食料・水の備蓄		住まいの耐震(免震)構造		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		その他	
	203	72.8%	120	43.0%	102	36.6%	27	9.7%	5	1.8%
50歳代 (n=281)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	202	71.9%	113	40.2%	104	37.0%	44	15.7%	9	3.2%
60～64歳 (n=134)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	101	75.4%	61	45.5%	47	35.1%	18	13.4%	3	2.2%
65～69歳 (n=122)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	84	68.9%	40	32.8%	32	26.2%	19	15.6%	5	4.1%
70～74歳 (n=136)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	89	65.4%	61	44.9%	48	35.3%	23	16.9%	4	2.9%
75歳以上 (n=119)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	67	56.3%	50	42.0%	34	28.6%	23	19.3%	5	4.2%

5 防災対策・防犯活動について

【世帯構成別】

- ・全ての世帯構成で「防災用品や食料・水の備蓄」が最も多く、「タンスやテレビ、電子レンジの転倒(落下)防止措置」が上位に入っている。
- ・ひとり暮らし、その他では、「何もしていない」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
ひとり暮らし (n=173)	防災用品や食料・水の備蓄		何もしていない		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		その他	
	94	54.3%	51	29.5%	49	28.3%	31	17.9%	2	1.2%
夫婦のみ (n=373)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	266	71.3%	148	39.7%	125	33.5%	52	13.9%	12	3.2%
親子 (n=701)	防災用品や食料・水の備蓄		住まいの耐震(免震)構造		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		その他	
	498	71.0%	295	42.1%	258	36.8%	95	13.6%	17	2.4%
三世帯同居 (n=117)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	81	69.2%	46	39.3%	31	26.5%	14	12.0%	6	5.1%
その他 (n=62)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		住まいの耐震(免震)構造		-	
	40	64.5%	20	32.3%	12	19.4%	11	17.7%	-	-

【住まい別】

- ・その他を除く全ての住まいで「防災用品や食料・水の備蓄」が最も多くなっている。
- ・その他では「何もしていない」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
一戸建(持ち家) (n=969)	防災用品や食料・水の備蓄		住まいの耐震(免震)構造		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		その他	
	655	67.6%	396	40.9%	352	36.3%	143	14.8%	29	3.0%
一戸建(借家) (n=24)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		住まいの耐震(免震)構造		何もしていない		その他	
	17	70.8%	8	33.3%	6	25.0%	4	16.7%	1	4.2%
集合住宅(分譲) (n=127)	防災用品や食料・水の備蓄		住まいの耐震(免震)構造		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		その他	
	100	78.7%	68	53.5%	52	40.9%	7	5.5%	2	1.6%
集合住宅(賃貸) (n=251)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		住まいの耐震(免震)構造		その他	
	167	66.5%	89	35.5%	58	23.1%	21	8.4%	4	1.6%
公営住宅(公社・ 県営・市営) (n=20)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		-		-	
	15	75.0%	8	40.0%	4	20.0%	-	-	-	-
社宅・官舎 (n=25)	防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの 転倒(落下)防止措置		何もしていない		住まいの耐震(免震)構造		-	
	18	72.0%	10	40.0%	6	24.0%	3	12.0%	-	-
その他 (n=10)	何もしていない		防災用品や食料・水の備蓄		タンスやテレビ、電子レンジの転倒(落下)防止措置/ 住まいの耐震(免震)構造		-		-	
	5	50.0%	4	40.0%	2	20.0%	-	-	-	-

問 23 あなたは、地域の住民が協力して行う防犯活動（防犯ボランティアなど）に参加していますか。 < は1つ >

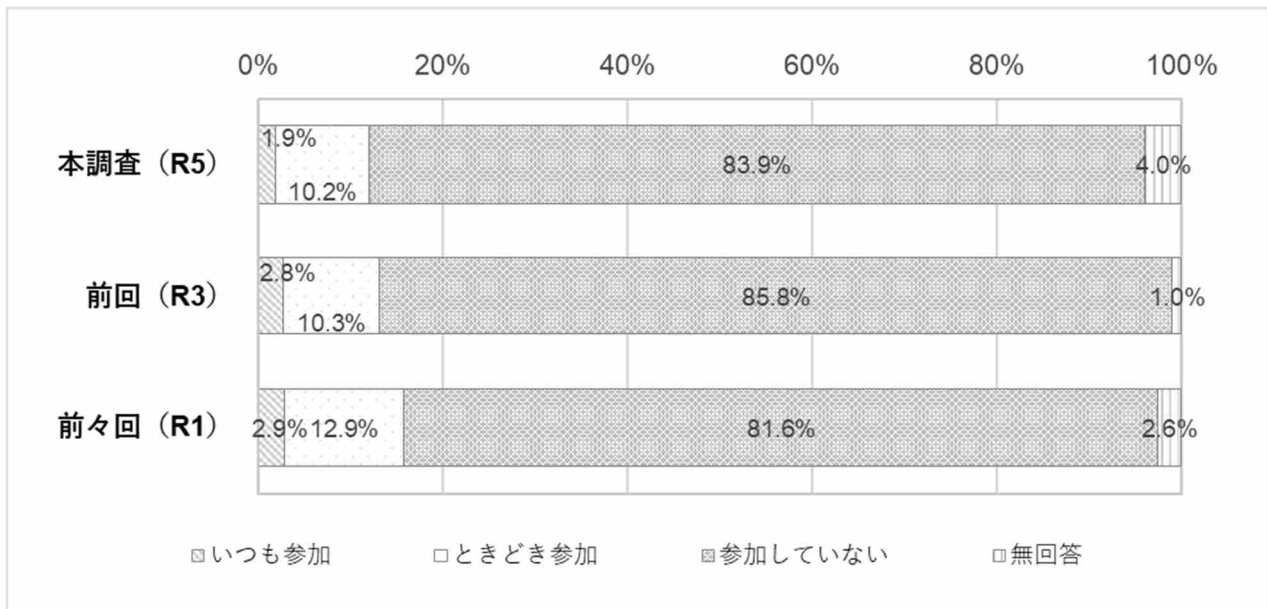
全体集計の結果

防犯活動に「参加していない」が約8割

- ・防犯活動への参加については、「参加していない」が1,214人(83.9%)で最も多く、「ときどき参加」が148人(10.2%)、「いつも参加」が27人(1.9%)で続いている。

選択肢	本調査 (R5)		前回 (R3)	前々回 (R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
いつも参加	27	1.9%	2.8%	2.9%
ときどき参加	148	10.2%	10.3%	12.9%
参加していない	1,214	83.9%	85.8%	81.6%
無回答	58	4.0%	1.0%	2.6%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



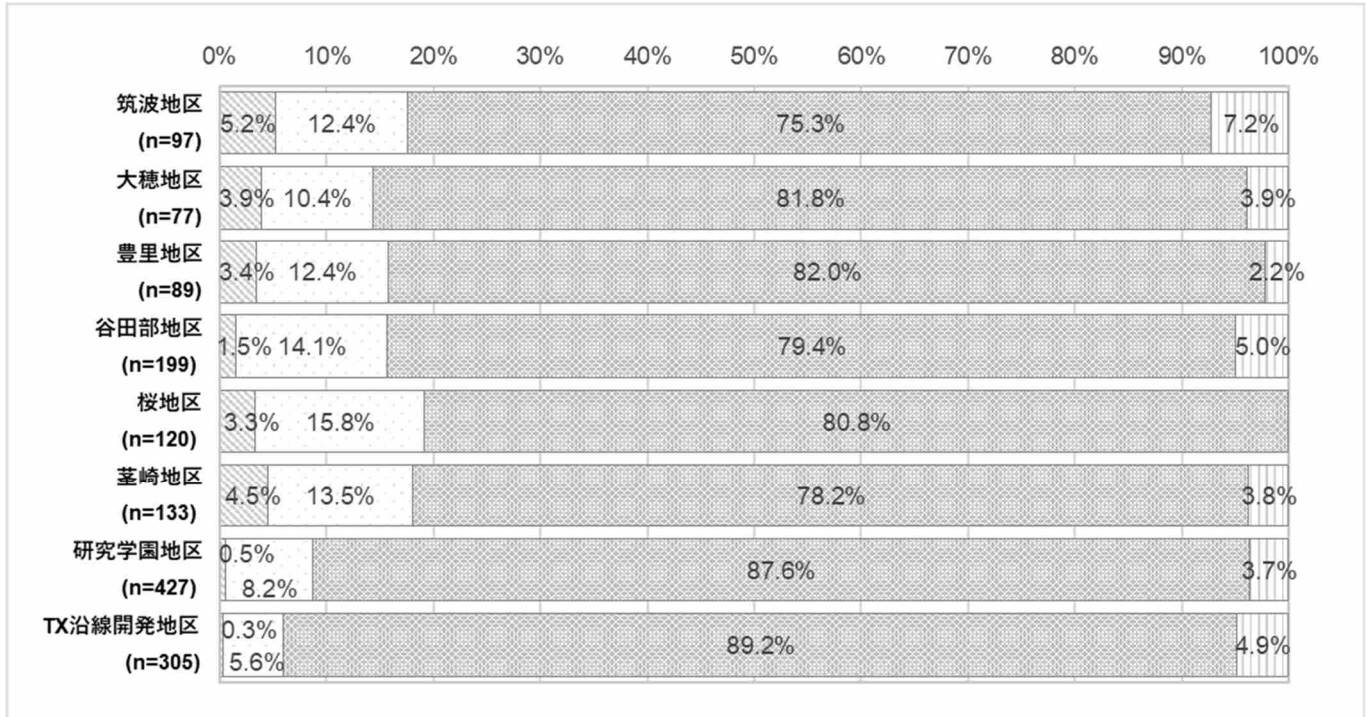
問 23 あなたは、地域の住民が協力して行う防犯活動（防犯ボランティアなど）に参加していますか。 < は1つ >

クロス集計



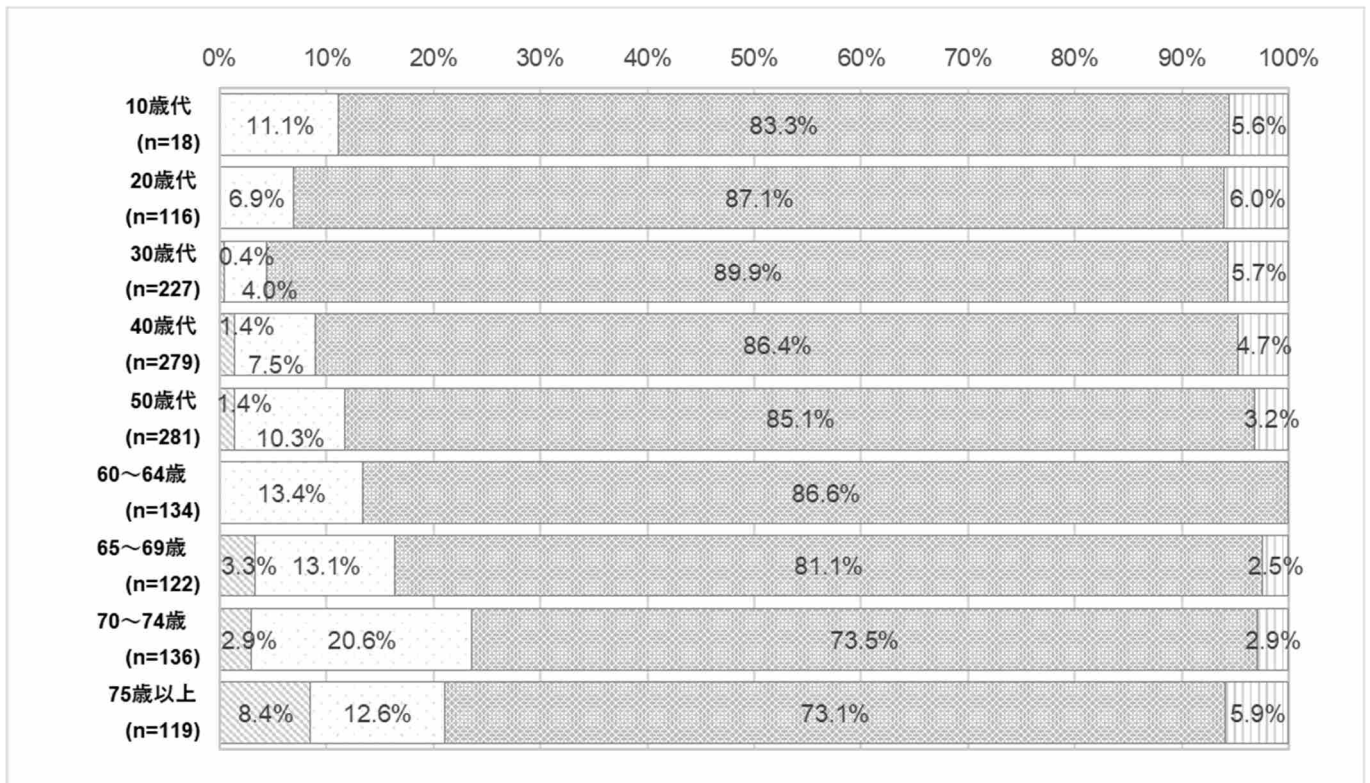
【地区別】

- ・全地区で「参加していない」の割合が75%を超えている。
- ・研究学園地区、TX沿線開発地区では「いつも参加/ときどき参加」の割合が10%を下回っている。



【年齢別】

- ・全ての年齢で「参加していない」の割合が最も多くなっている。
- ・70～74歳及び75歳以上では「いつも参加/ときどき参加」の割合が20%を超えている。
- ・20歳代、30歳代、40歳代では「いつも参加/ときどき参加」の割合が10%を下回っている。





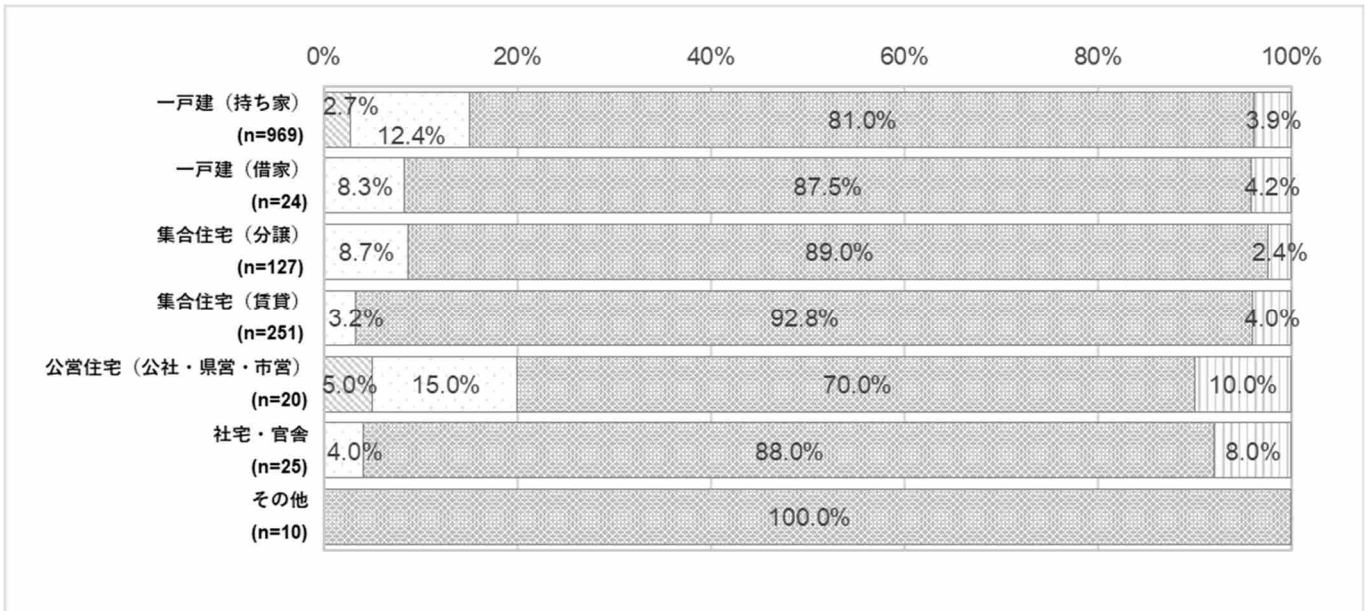
【職業別】

- ・会社員・公務員では「参加してしない」の割合が85%を超えている。
- ・農林業では「いつも参加/ときどき参加」の割合が30%を超えている。



【住まい別】

- ・その他、集合住宅（賃貸）では「参加してしない」の割合が90%を超えている。
- ・公営住宅（公社・県営・市営）では「いつも参加/ときどき参加」の割合が20.0%で最も多い。



【問 23 で「3 参加していない」とお答えの方にお聞きします】

問 24 防犯活動に参加しない理由は何ですか。

< は1つ >

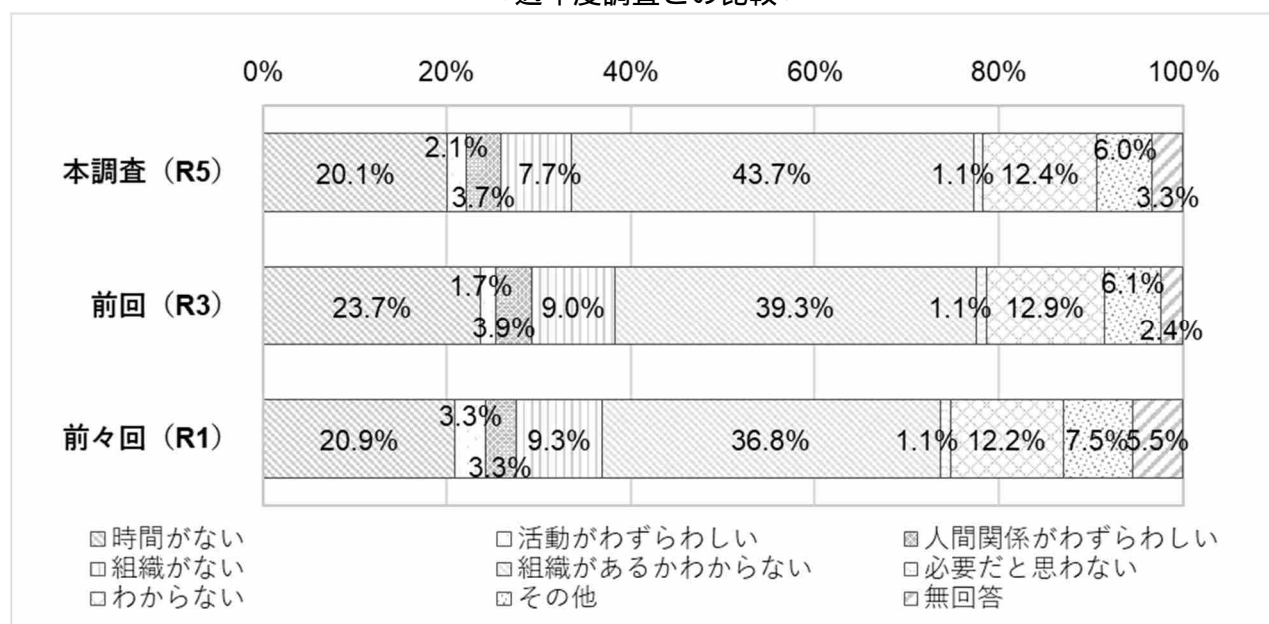
全体集計の結果

防犯活動に参加しない理由は、「組織があるかわからない」が約4割

- ・防犯活動に参加しない理由は、「組織があるかわからない」が530人(43.7%)で最も多く、「時間がない」が244人(20.1%)、「わからない」が151人(12.4%)で続いている。

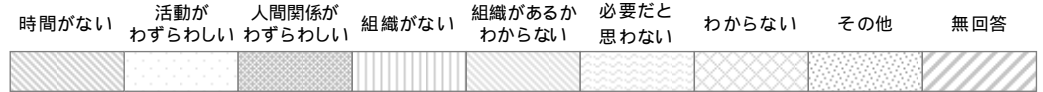
選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
時間がない	244	20.1%	23.7%	20.9%
活動がわずらわしい	25	2.1%	1.7%	3.3%
人間関係がわずらわしい	45	3.7%	3.9%	3.3%
組織がない	93	7.7%	9.0%	9.3%
組織があるかわからない	530	43.7%	39.3%	36.8%
必要だと思わない	13	1.1%	1.1%	1.1%
わからない	151	12.4%	12.9%	12.2%
その他	73	6.0%	6.1%	7.5%
無回答	40	3.3%	2.4%	5.5%
全体	1,214	100.0%	100.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



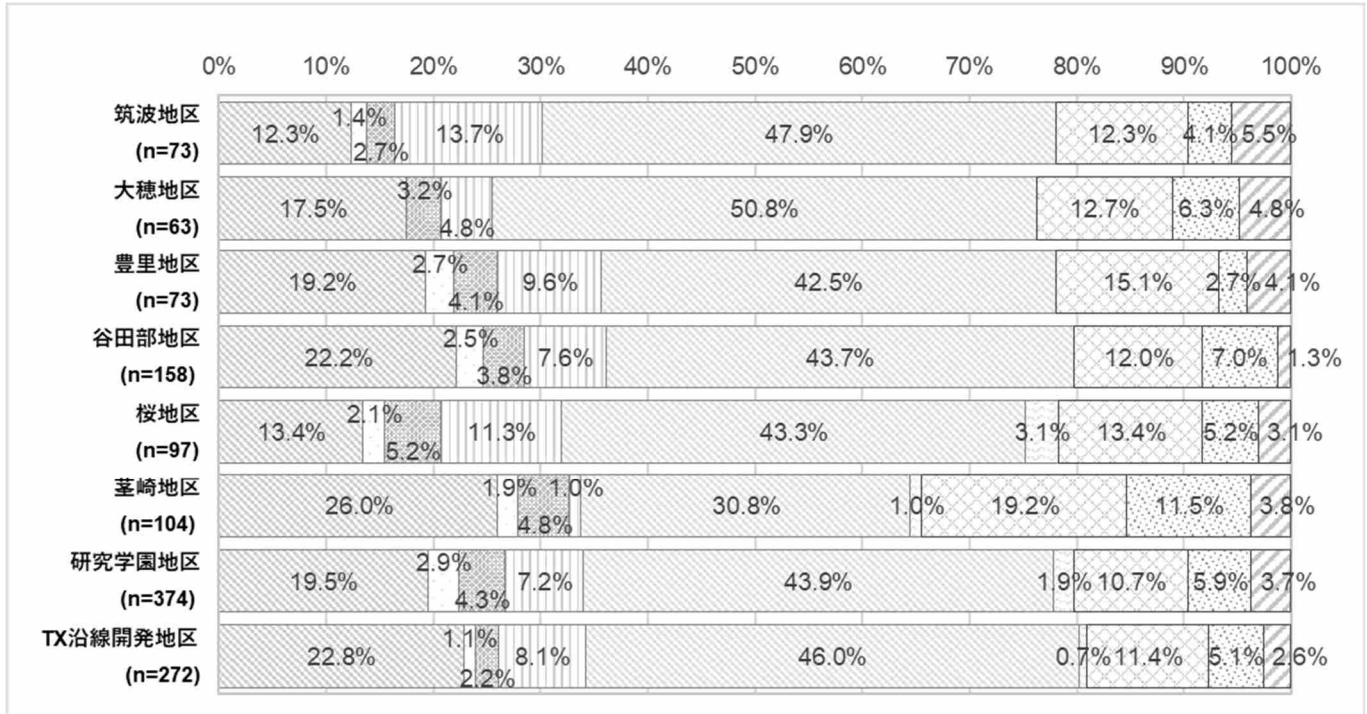
【問 23 で「3 参加していない」とお答えの方にお聞きします】
問 24 防犯活動に参加しない理由は何ですか。 < は1つ >

クロス集計



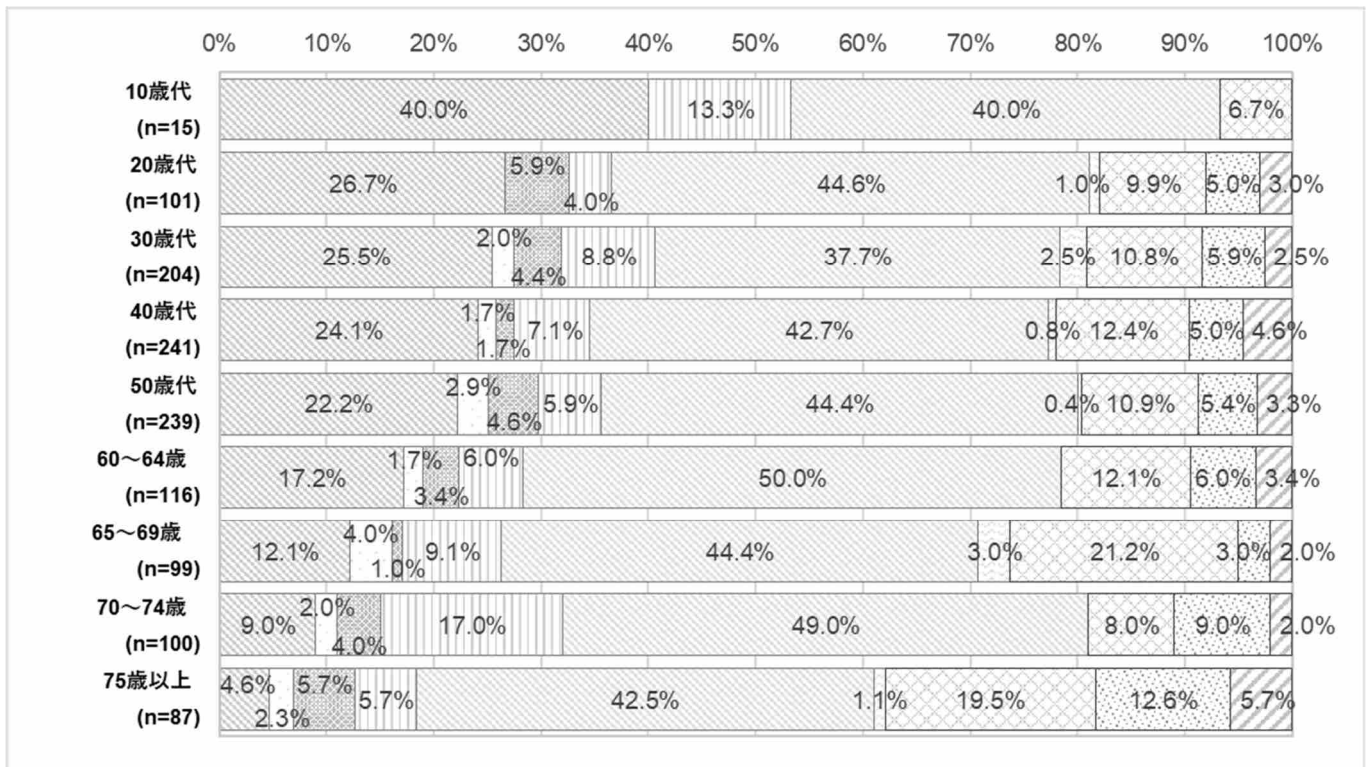
【地区別】

・全ての地区で「組織があるかわからない」の割合が最も多く、30%を超えている。

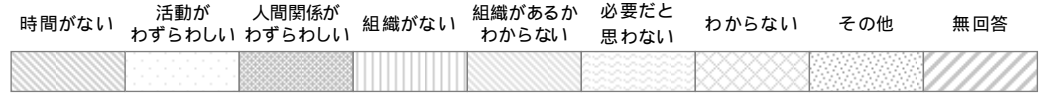


【年齢別】

・全ての年齢で「組織があるかわからない」の割合が最も多く、35%を超えている。



5 防災対策・防犯活動について



【職業別】

・全ての職業で「組織があるかわからない」の割合が最も多く、30%を超えている。



【住まい別】

・一戸建(借家)を除いた全ての住まいで「組織があるかわからない」の割合が40%を超えている。



6 交通環境について

問 25 あなたが、日常利用する交通手段は何ですか。

< は当てはまるものすべて >

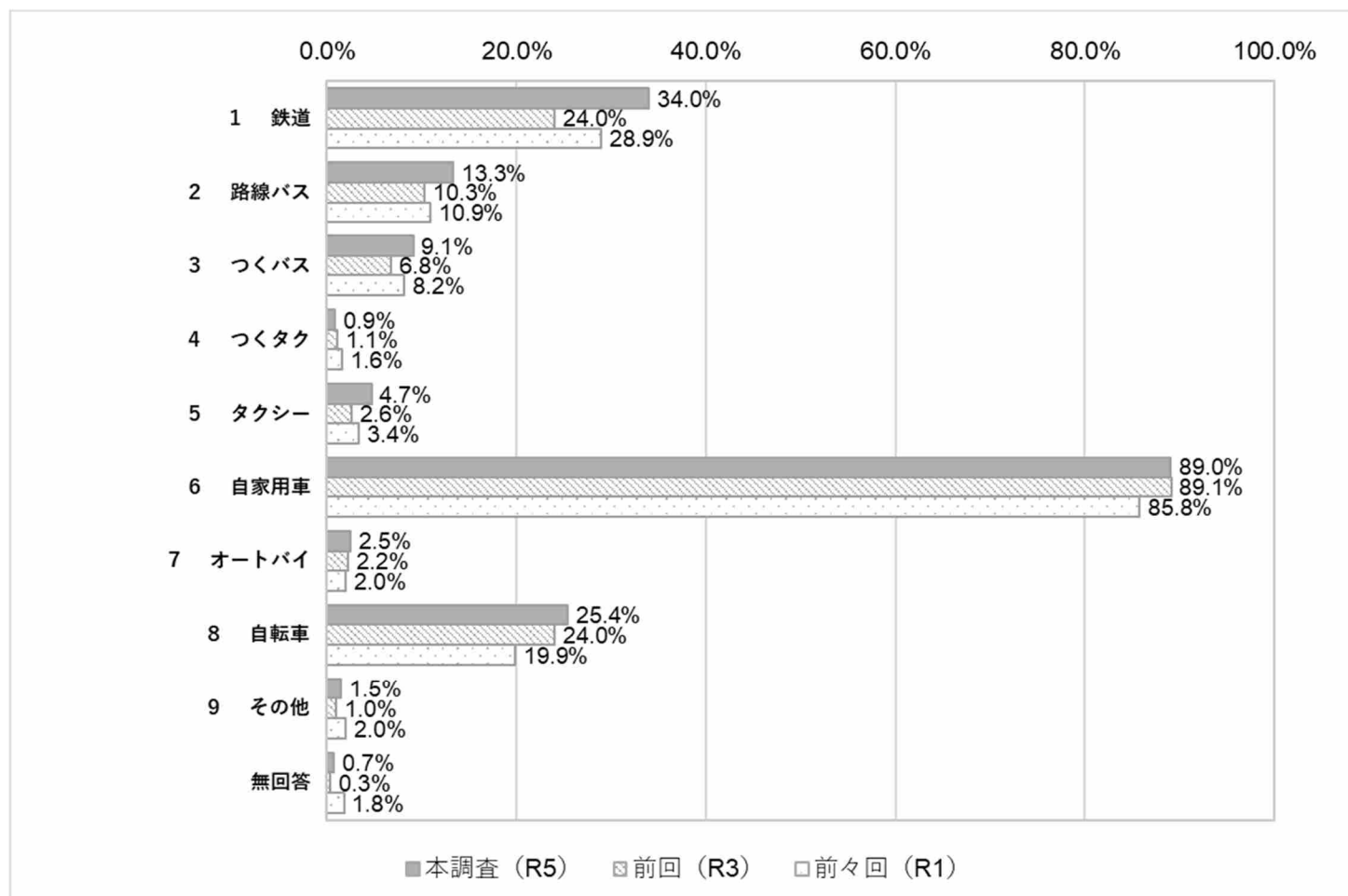
全体集計の結果

日常利用する交通手段は、「自家用車」が9割近く

・日常利用する交通手段は、「自家用車」が1,288人(89.0%)で最も多く、「鉄道」が492人(34.0%)、「自転車」が368人(25.4%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
1 鉄道	492	34.0%	24.0%	28.9%
2 路線バス	192	13.3%	10.3%	10.9%
3 つくバス	132	9.1%	6.8%	8.2%
4 つくタク	13	0.9%	1.1%	1.6%
5 タクシー	68	4.7%	2.6%	3.4%
6 自家用車	1,288	89.0%	89.1%	85.8%
7 オートバイ	36	2.5%	2.2%	2.0%
8 自転車	368	25.4%	24.0%	19.9%
9 その他	21	1.5%	1.0%	2.0%
無回答	10	0.7%	0.3%	1.8%
全体(有効回答数)	1,447			

< 過年度調査との比較 (項目順) >



6 交通環境について

問 25 あなたが、日常利用する交通手段は何ですか。 < は当てはまるものすべて >

クロス集計

【地区別】

・全ての地区で「自家用車」が最も多く、「自転車」「鉄道」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
筑波地区 (n=97)	自家用車		自転車		鉄道		つくバス		路線バス／オートバイ	
	93	95.9%	12	12.4%	10	10.3%	9	9.3%	5	5.2%
大穂地区 (n=77)	自家用車		鉄道		自転車		つくバス		路線バス	
	72	93.5%	11	14.3%	10	13.0%	5	6.5%	4	5.2%
豊里地区 (n=89)	自家用車		鉄道		自転車		つくバス		タクシー	
	86	96.6%	26	29.2%	13	14.6%	12	13.5%	5	5.6%
谷田部地区 (n=199)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	186	93.5%	47	23.6%	42	21.1%	17	8.5%	12	6.0%
桜地区 (n=120)	自家用車		自転車		鉄道		路線バス		つくバス	
	111	92.5%	28	23.3%	25	20.8%	14	11.7%	10	8.3%
荃崎地区 (n=133)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	117	88.0%	32	24.1%	24	18.0%	18	13.5%	16	12.0%
研究学園地区 (n=427)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	361	84.5%	190	44.5%	158	37.0%	109	25.5%	42	9.8%
TX沿線開発地区 (n=305)	自家用車		鉄道		自転車		つくバス		路線バス	
	262	85.9%	151	49.5%	81	26.6%	26	8.5%	22	7.2%

【年齢別】

・10歳代を除く全ての年齢で「自家用車」が最も多くなっている。
 ・10歳代は「鉄道」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
10歳代 (n=18)	鉄道		自家用車		自転車		路線バス／つくバス			
	11	61.1%	10	55.6%	9	50.0%	3	16.7%		
20歳代 (n=116)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	87	75.0%	53	45.7%	36	31.0%	18	15.5%	9	7.8%
30歳代 (n=227)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	204	89.9%	90	39.6%	64	28.2%	23	10.1%	22	9.7%
40歳代 (n=279)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	257	92.1%	116	41.6%	79	28.3%	41	14.7%	21	7.5%
50歳代 (n=281)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	253	90.0%	101	35.9%	71	25.3%	42	14.9%	20	7.1%
60～64歳 (n=134)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	125	93.3%	38	28.4%	29	21.6%	14	10.4%	10	7.5%
65～69歳 (n=122)	自家用車		自転車		鉄道		路線バス		つくバス	
	110	90.2%	26	21.3%	25	20.5%	13	10.7%	7	5.7%
70～74歳 (n=136)	自家用車		鉄道／自転車			つくバス		路線バス		
	126	92.6%	29			21.3%	20	14.7%	19	14.0%
75歳以上 (n=119)	自家用車		鉄道		自転車		つくバス		路線バス	
	104	87.4%	25	21.0%	23	19.3%	17	14.3%	15	12.6%

【職業別】

・全ての職業で「自家用車」が最も多くなっており、「自転車」「鉄道」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
会社員・公務員 (n=597)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	545	91.3%	247	41.4%	157	26.3%	89	14.9%	48	8.0%
自営業 (n=93)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス/タクシー			
	90	96.8%	23	24.7%	18	19.4%	6		6.5%	
農林業 (n=19)	自家用車		自転車		鉄道/つくバス/オートバイ					
	19	100.0%	4	21.1%	1		5.3%			
パート・アルバイト など (n=251)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	223	88.8%	76	30.3%	68	27.1%	29	11.6%	15	6.0%
専業主婦(主夫) (n=157)	自家用車		鉄道		自転車		つくバス		路線バス	
	135	86.0%	48	30.6%	44	28.0%	24	15.3%	22	14.0%
学生 (n=47)	鉄道/自家用車				自転車		路線バス		つくバス	
	28		59.6%		23	48.9%	9	19.1%	4	8.5%
無職 (n=202)	自家用車		鉄道/自転車			つくバス		路線バス		
	173	85.6%	40		19.8%		28	13.9%	26	12.9%
その他 (n=62)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	57	91.9%	26	41.9%	10	16.1%	8	12.9%	4	6.5%

【住まい別】

・全ての住まいで「自家用車」が最も多く、「鉄道」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
一戸建(持ち家) (n=969)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	893	92.2%	264	27.2%	210	21.7%	100	10.3%	85	8.8%
一戸建(借家) (n=24)	自家用車		自転車		鉄道		路線バス/つくバス			
	22	91.7%	11	45.8%	8	33.3%	2		8.3%	
集合住宅(分譲) (n=127)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		タクシー	
	106	83.5%	79	62.2%	54	42.5%	24	18.9%	12	9.4%
集合住宅(賃貸) (n=251)	自家用車		鉄道		自転車		路線バス		つくバス	
	207	82.5%	115	45.8%	72	28.7%	55	21.9%	24	9.6%
公営住宅(公社・ 県営・市営) (n=20)	自家用車		鉄道		路線バス/つくバス				タクシー	
	16	80.0%	7	35.0%	4		20.0%		2	10.0%
社宅・官舎 (n=25)	自家用車		自転車		鉄道		路線バス		オートバイ	
	21	84.0%	11	44.0%	9	36.0%	4	16.0%	3	12.0%
その他 (n=10)	自家用車		自転車		鉄道		つくバス		路線バス/つくタク	
	6	60.0%	4	40.0%	3	30.0%	2	20.0%	1	10.0%

問 26 あなたは、現在のつくば市において、歩行者と自転車と自動車と共に安全で快適に
通行できていると思いますか。

< は1つ >

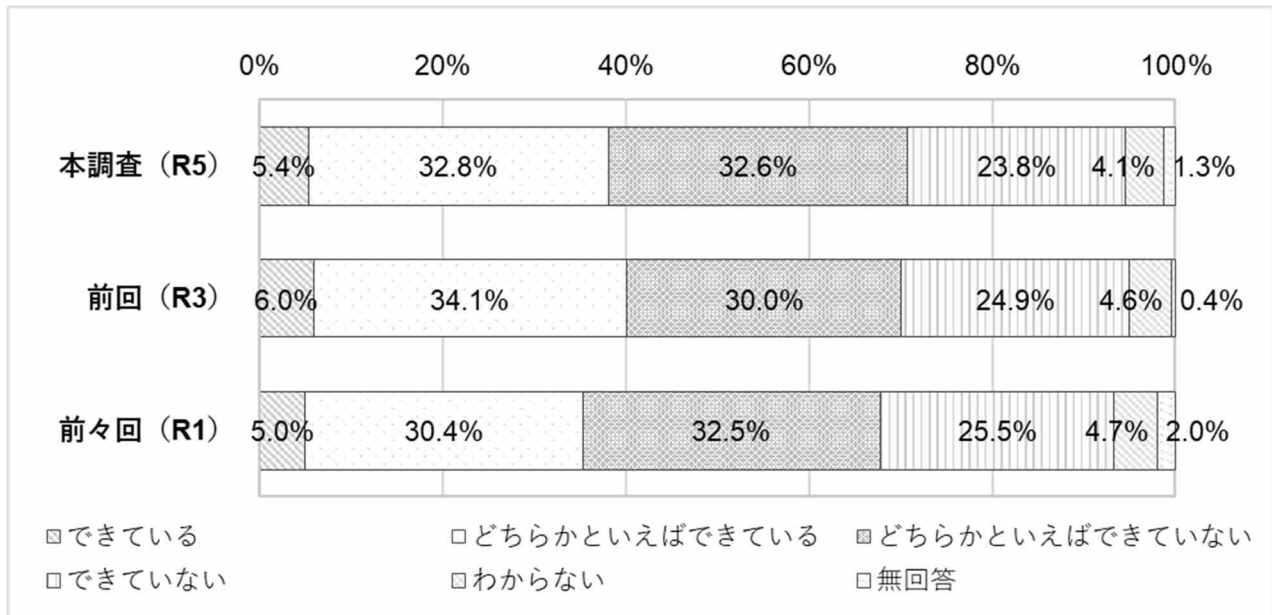
全体集計の結果

歩行者と自転車と自動車と共に安全で快適に通行できているかについては、「どちらかといえばできていない/できていない」が5割半ば

- 安全で快適に通行できているかについては、「どちらかといえばできている」が474人(32.8%)で最も多く、「どちらかといえばできていない」が471人(32.6%)、「できていない」が345人(23.8%)、「できている」が78人(5.4%)で続いている。

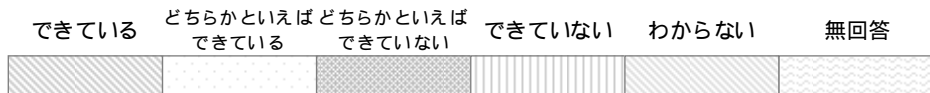
選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
できている	78	5.4%	6.0%	5.0%
どちらかといえばできている	474	32.8%	34.1%	30.4%
どちらかといえばできていない	471	32.6%	30.0%	32.5%
できていない	345	23.8%	24.9%	25.5%
わからない	60	4.1%	4.6%	4.7%
無回答	19	1.3%	0.4%	2.0%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



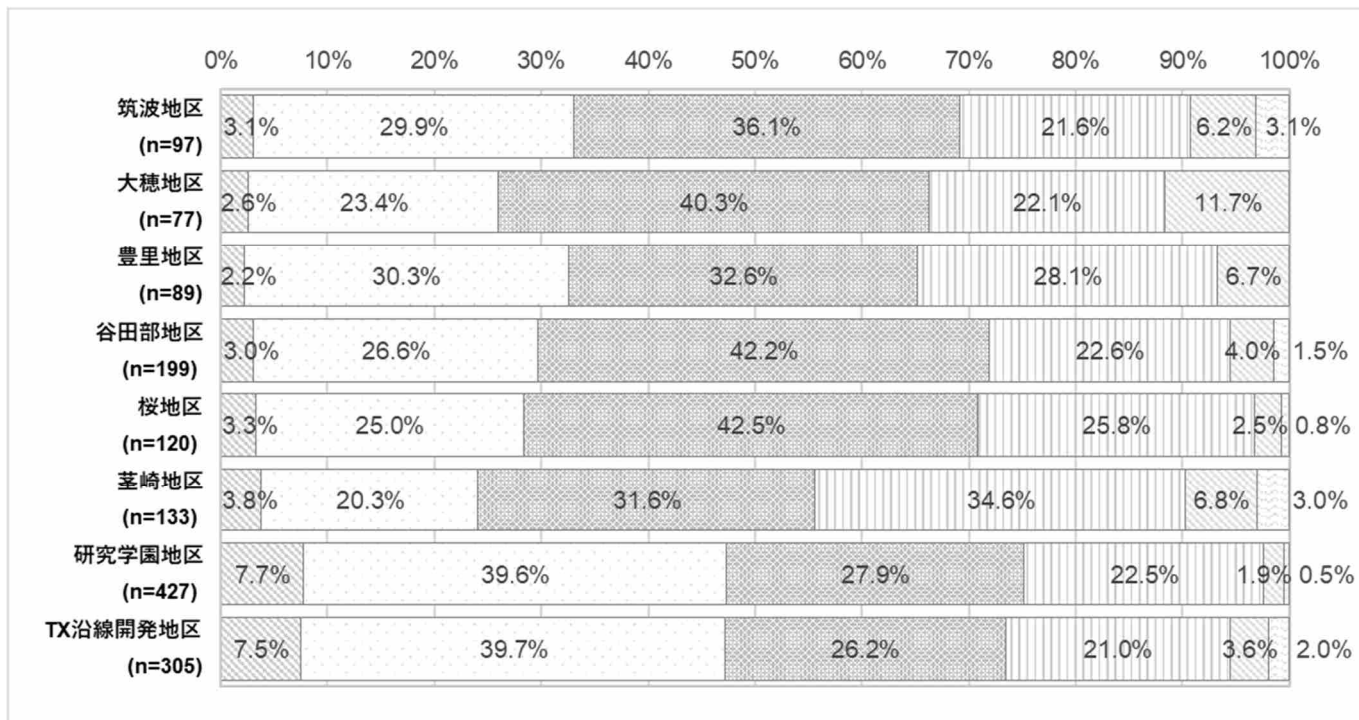
問 26 あなたは、現在のつくば市において、歩行者と自転車と自動車が共に安全で快適に
 通行できていると思いますか。 < は1つ >

クロス集計



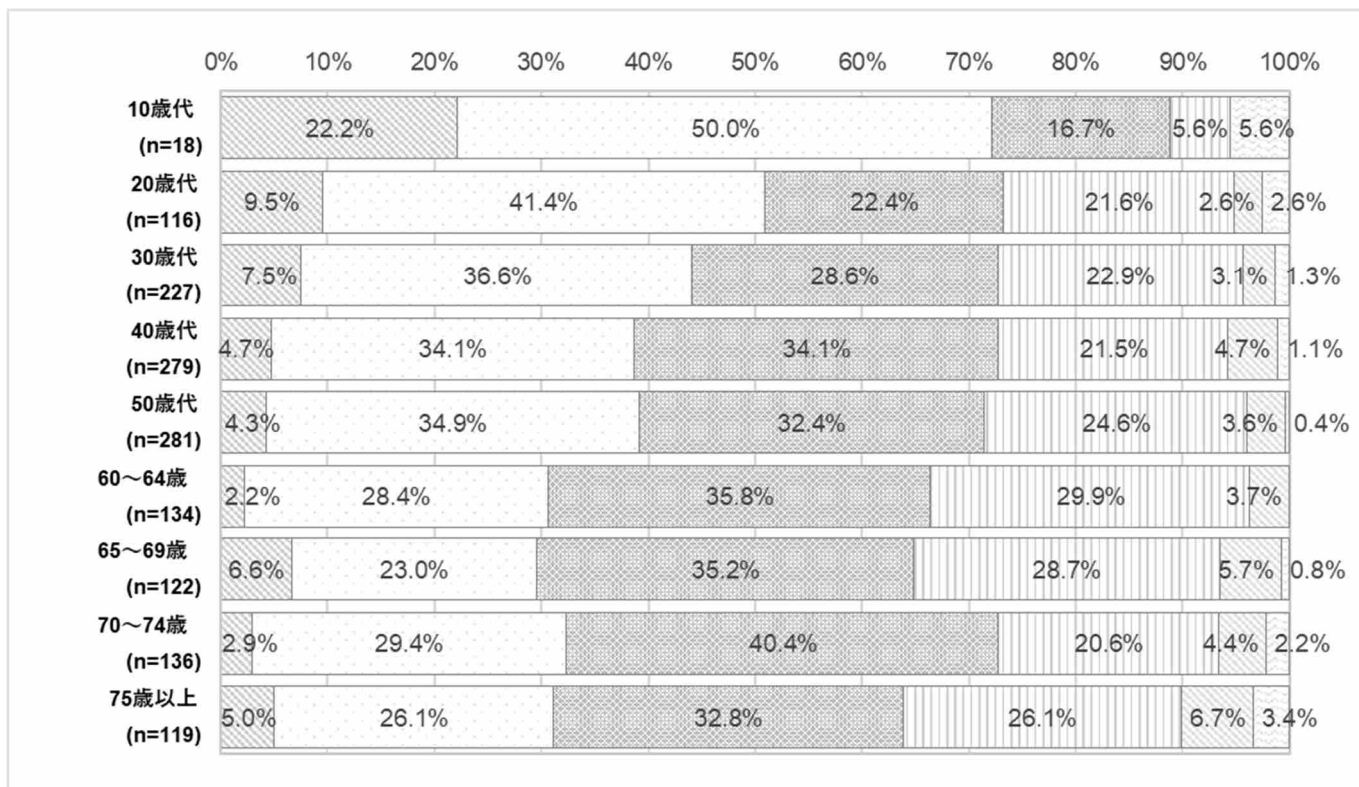
【地区別】

- ・桜地区、荃崎地区、谷田部地区、大穂地区、豊里地区では「どちらかといえばできていない/できていない」の割合が60%を超えている。
- ・研究学園地区、TX沿線開発地区では「できている/どちらかといえばできている」の割合が40%を超えている。



【年齢別】

- ・60～64歳、65～69歳、70～74歳では「どちらかといえばできていない/できていない」の割合が多く、60%を超えている。
- ・10歳代、20歳代では「できている/どちらかといえばできている」の割合が多く、50%を超えている。



問 27 あなたは、つくば市の交通環境がどのようになっていることが望ましいですか。

< は1つ >

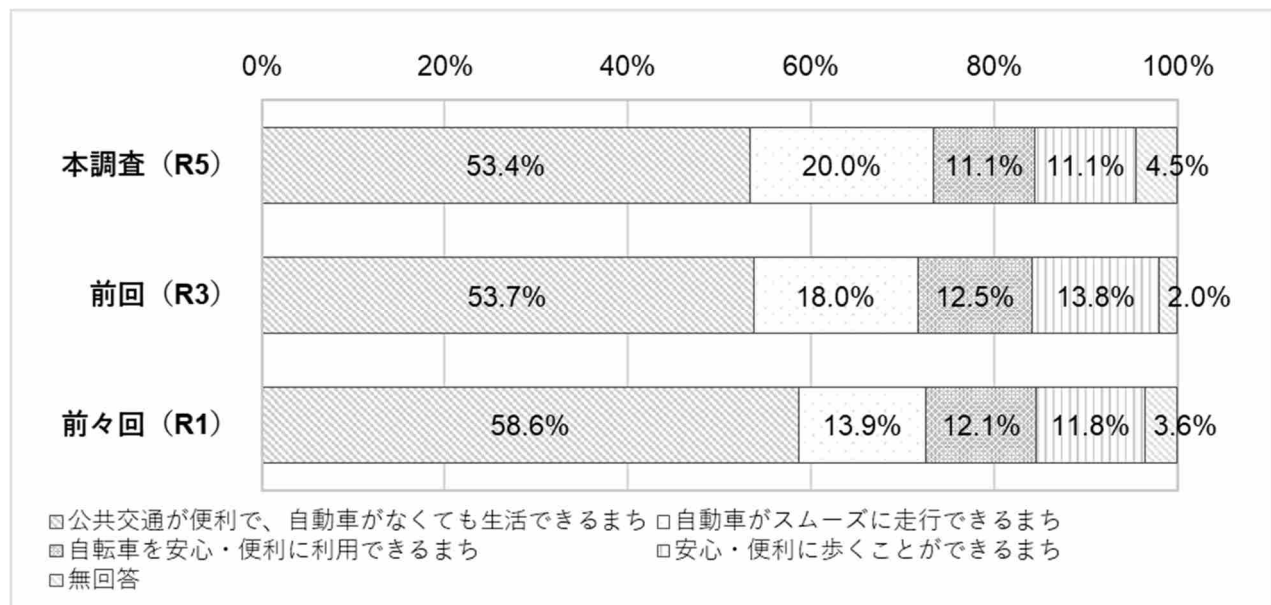
全体集計の結果

つくば市の交通環境で望ましいことについては、「公共交通が便利で、自動車がなくても生活できるまち」が約5割

- ・つくば市の交通環境で望ましいことについては、「公共交通が便利で、自動車がなくても生活できるまち」が772人(53.4%)で最も多く、「自動車がスムーズに走行できるまち」が289人(20.0%)、「安心・便利に歩くことができるまち」が161人(11.1%)、「自転車を安心・便利に利用できるまち」が160人(11.1%)が続いている。

選択肢	本調査 (R5)		前回 (R3)	前々回 (R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
公共交通が便利で、自動車がなくても生活できるまち	772	53.4%	53.7%	58.6%
自動車がスムーズに走行できるまち	289	20.0%	18.0%	13.9%
自転車を安心・便利に利用できるまち	160	11.1%	12.5%	12.1%
安心・便利に歩くことができるまち	161	11.1%	13.8%	11.8%
無回答	65	4.5%	2.0%	3.6%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



問 27 あなたは、つくば市の交通環境がどのようになっていることが望ましいですか。 < は1つ >

クロス集計

公共交通が便利で、
自動車なくても
生活できるまち

自動車がスムーズに
走行できるまち

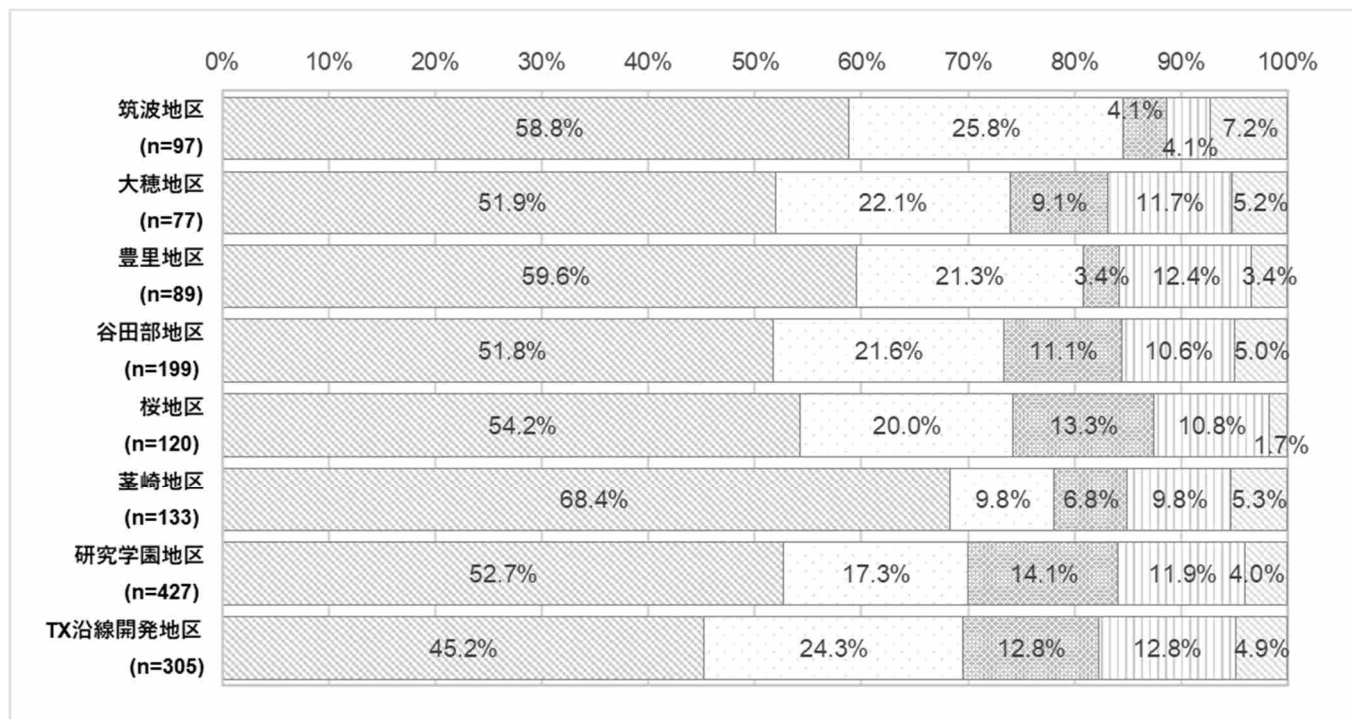
自転車を
安心・便利に
利用できるまち

安心・便利に
歩くことが
できるまち

無回答

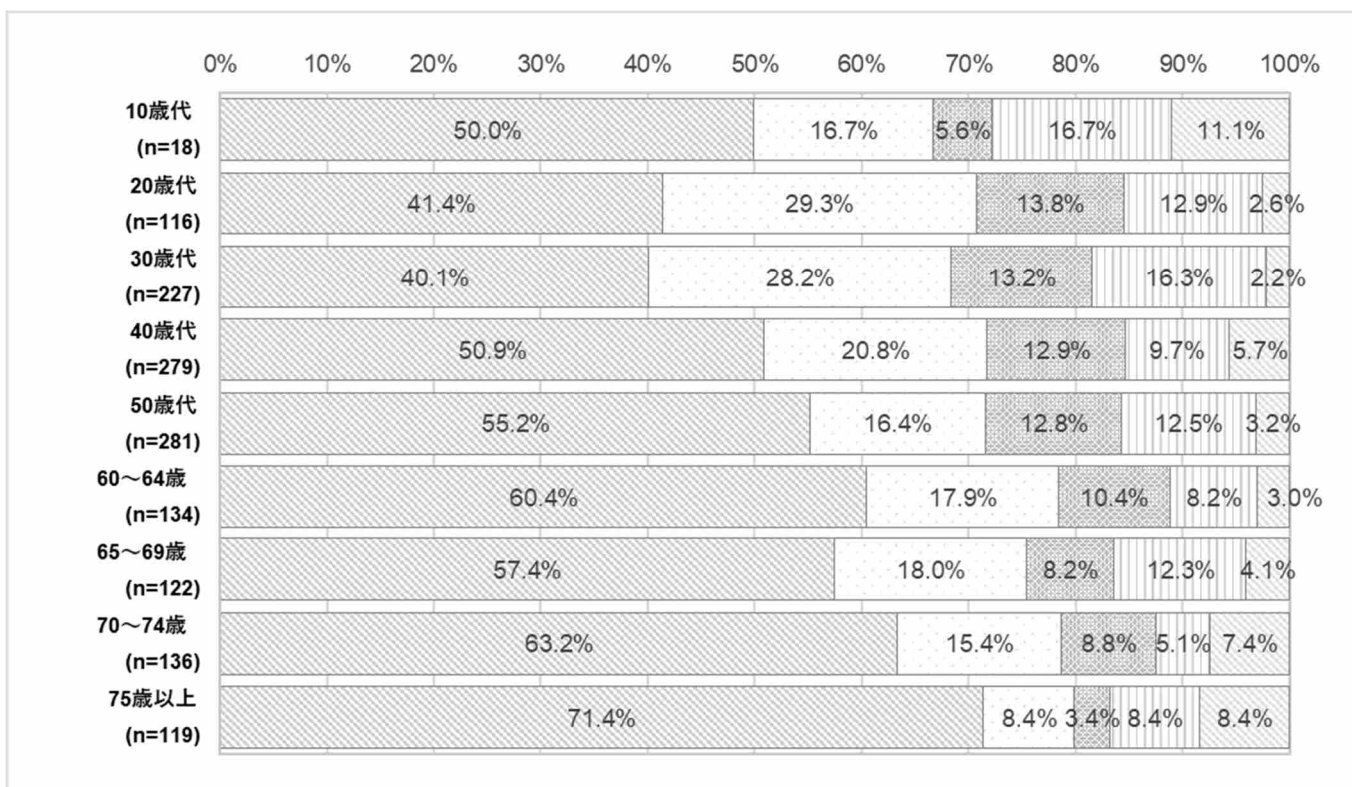
【地区別】

- ・全ての地区で「公共交通が便利で、自動車なくても生活できるまち」の割合が最も多く、荃崎地区では60%を超えている。
- ・荃崎地区では「自動車がスムーズに走行できるまち」の割合が10%を下回っている。

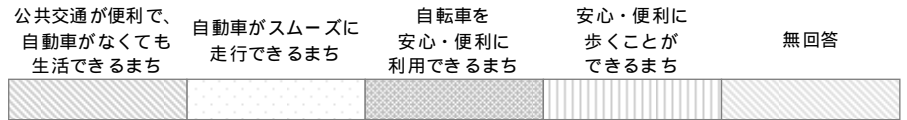


【年齢別】

- ・全ての年齢で「公共交通が便利で、自動車なくても生活できるまち」の割合が最も多くなっている。

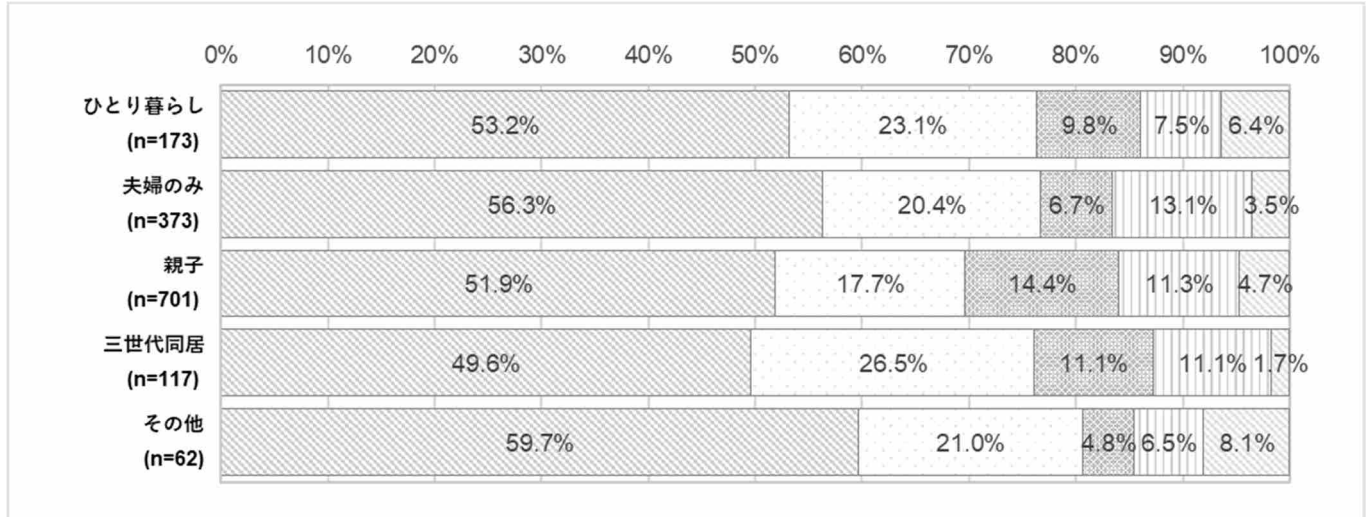


6 交通環境について



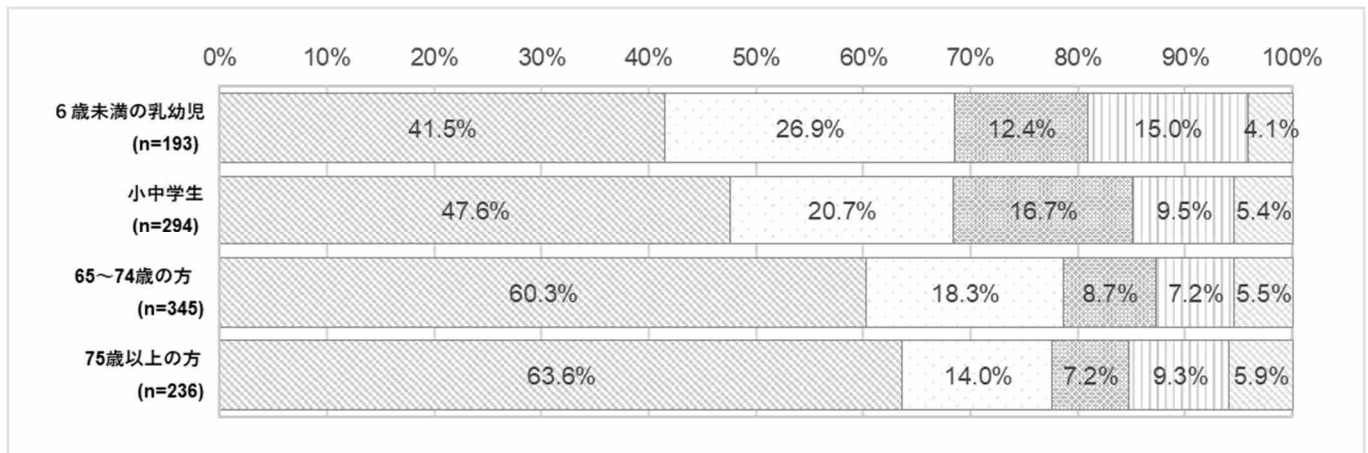
【世帯構成別】

- ・全ての世帯構成で「公共交通が便利で、自動車なくても生活できるまち」の割合が最も多く、その他では約60%となっている。
- ・三世帯同居では「自動車がスムーズに走行できるまち」の割合が25%を超えている。



【世帯に含む人別】

- ・全ての世帯で「公共交通が便利で、自動車なくても生活できるまち」の割合が最も多く、65～74歳の方、75歳以上の方を含む世帯では60%を超えている。
- ・小中学生を含む世帯では「自転車を安心・便利に利用できるまち」の割合が15%を超えている。



7 運動習慣について

問 28 あなたは、この一年間に運動やスポーツをどのくらいしましたか。なお、運動やスポーツには、散歩や軽い体操なども含まれます。 < は1つ >

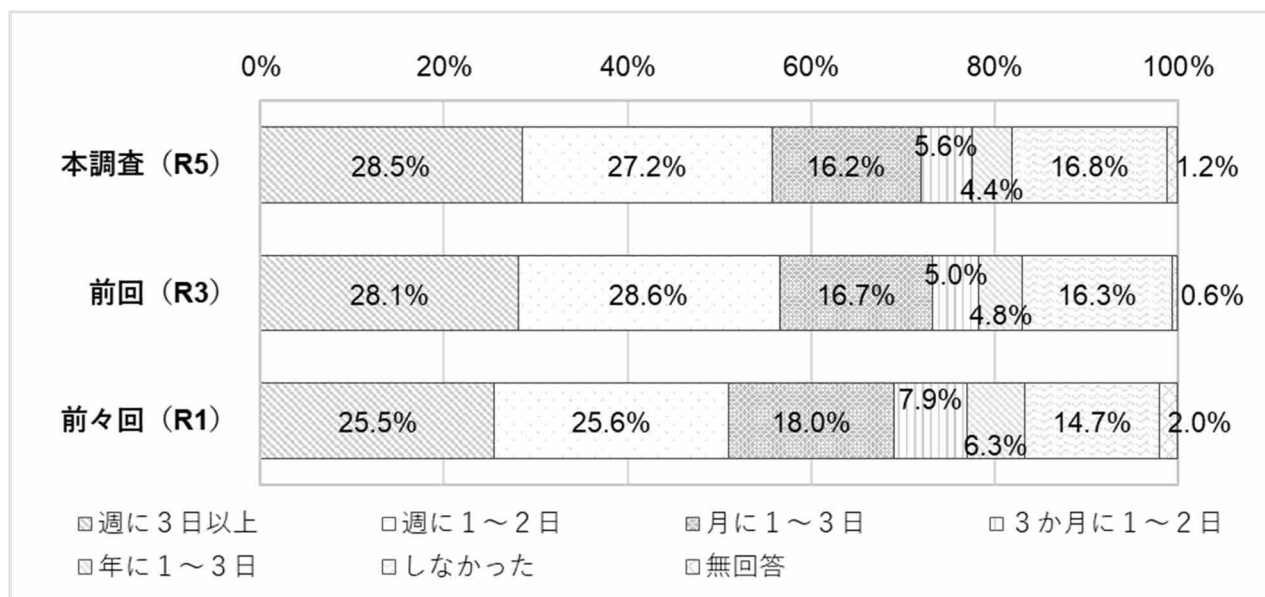
全体集計の結果

年間のスポーツ頻度は、「週に1日以上」が5割半ば

- ・一年間の運動やスポーツの頻度については、「週に3日以上」が413人(28.5%)で最も多く、「週に1～2日」が394人(27.2%)、「しなかった」が243人(16.8%)、「月に1～3日」が234人(16.2%)で続いている。
- ・「週に3日以上」と「週に1～2日」を合わせた「週に1日以上」は55.7%である。
- ・前回と比べると、「週に3日以上」の割合が0.4%上昇している。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
週に3日以上	413	28.5%	28.1%	25.5%
週に1～2日	394	27.2%	28.6%	25.6%
月に1～3日	234	16.2%	16.7%	18.0%
3か月に1～2日	81	5.6%	5.0%	7.9%
年に1～3日	64	4.4%	4.8%	6.3%
しなかった	243	16.8%	16.3%	14.7%
無回答	18	1.2%	0.6%	2.0%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



7 運動習慣について

問 28 あなたは、この一年間に運動やスポーツをどのくらいしましたか。なお、運動やスポーツには、散歩や軽い体操なども含みます。 < は1つ >

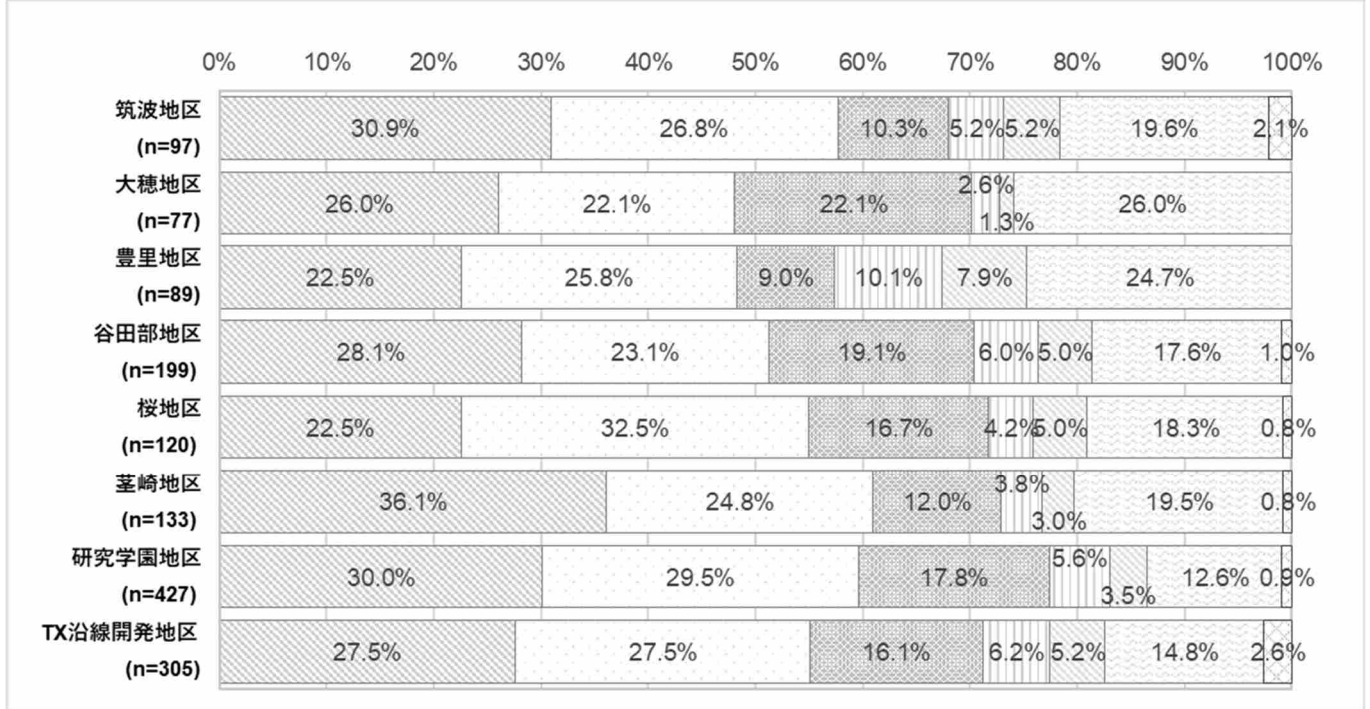
クロス集計

週に3日以上 週に1~2日 月に1~3日 3か月に1~2日 年に1~3日 しなかった 無回答



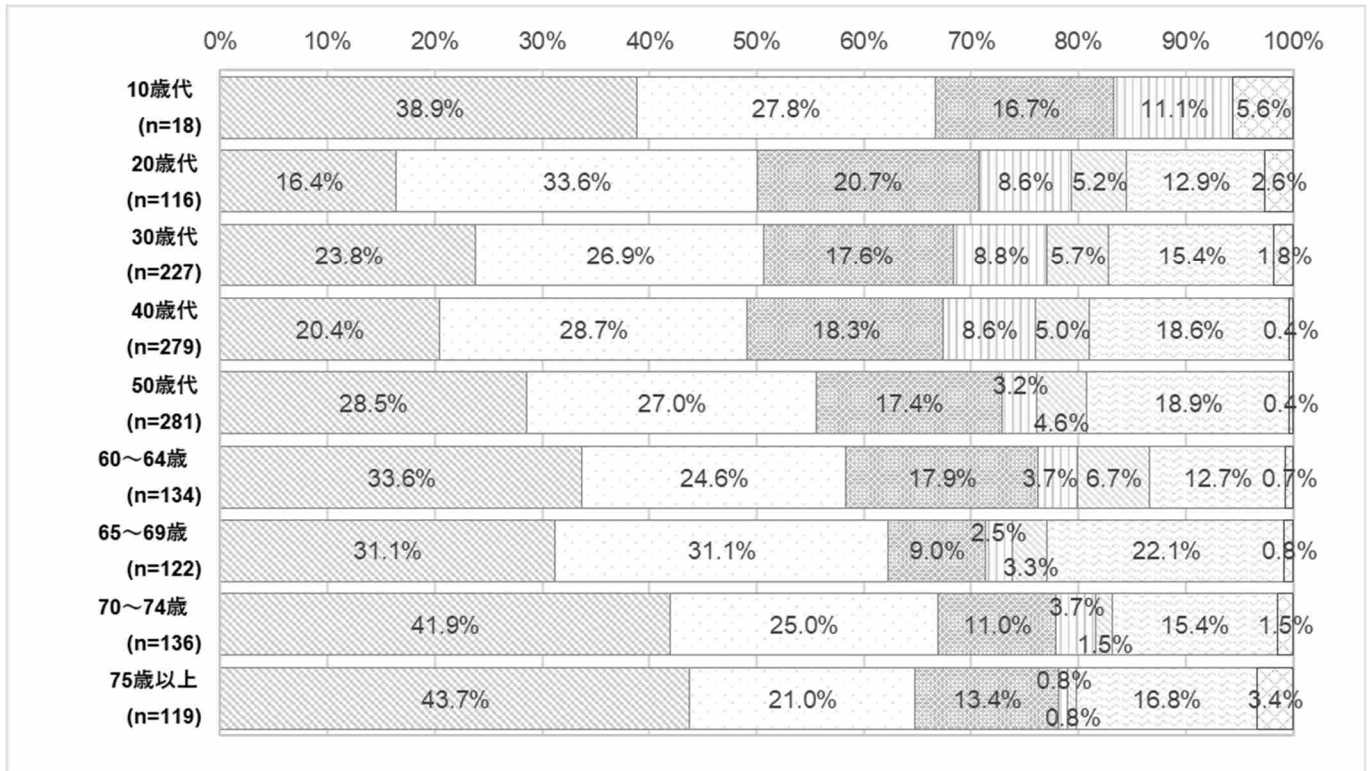
【地区別】

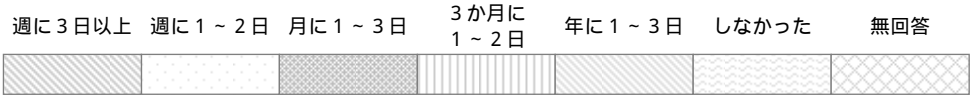
- ・筑波地区、茎崎地区では「週に3日以上」の割合が30%を超えている。
- ・大穂地区、豊里地区では「しなかった」の割合が20%を超えている。



【年齢別】

- ・70~74歳、75歳以上では「週に3日以上」の割合が40%を超えている。





【職業別】

- ・自営業、専業主婦（主夫）、学生、無職、その他では「週に3日以上」の割合が30%を超えている。
- ・農林業では「しなかった」割合が30%を超えている。



8 つくば駅周辺地区の活性化について

問 29 あなたは、どれくらい、つくばセンター地区（つくば駅周辺）を訪れますか。

< は1つ >

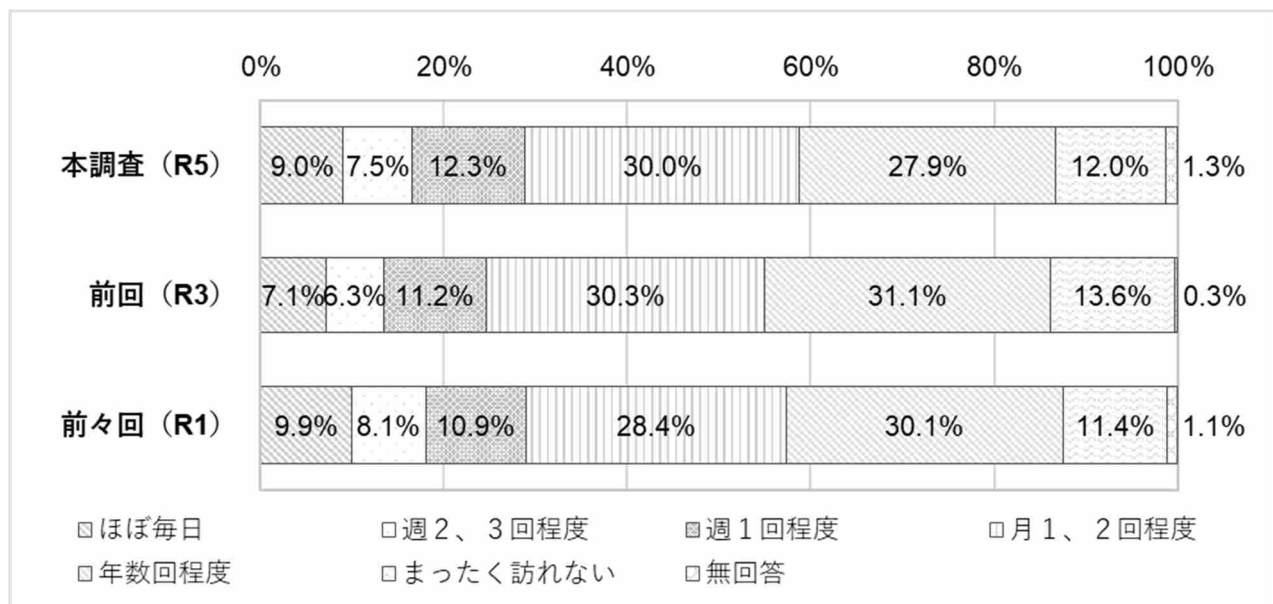
全体集計の結果

つくばセンター地区(つくば駅周辺)を訪れる頻度は、「月1、2回程度」「年数回程度」が約3割

- ・つくばセンター地区(つくば駅周辺)を訪れる頻度については、「月1、2回程度」が434人(30.0%)で最も多く、「年数回程度」が404人(27.9%)、「週1回程度」が178人(12.3%)、「まったく訪れない」が174人(12.0%)で続いている。

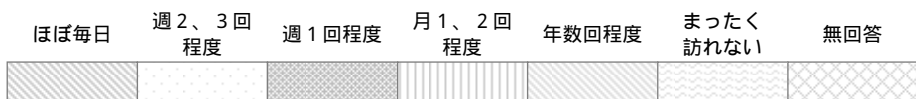
選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
ほぼ毎日	130	9.0%	7.1%	9.9%
週2、3回程度	108	7.5%	6.3%	8.1%
週1回程度	178	12.3%	11.2%	10.9%
月1、2回程度	434	30.0%	30.3%	28.4%
年数回程度	404	27.9%	31.1%	30.1%
まったく訪れない	174	12.0%	13.6%	11.4%
無回答	19	1.3%	0.3%	1.1%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



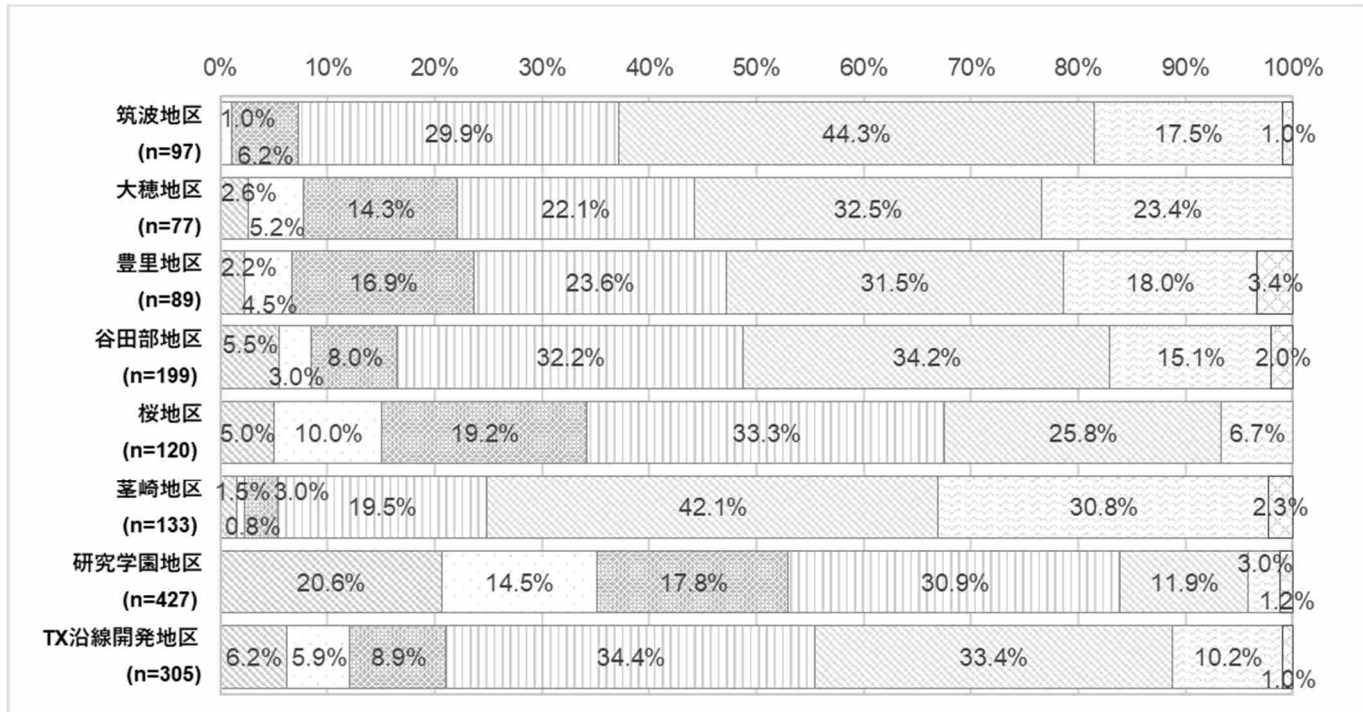
問 29 あなたは、どれくらい、つくばセンター地区（つくば駅周辺）を訪れますか。 < は1つ >

クロス集計



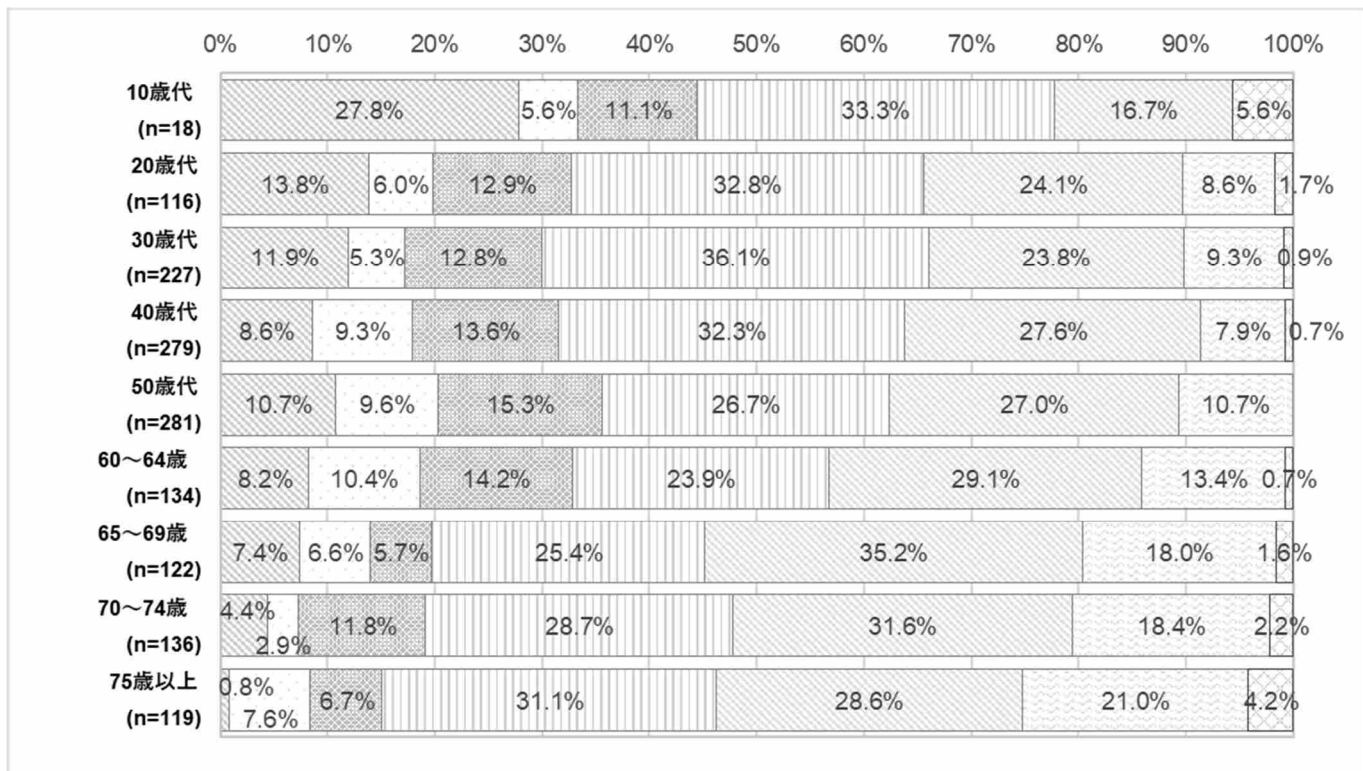
【地区別】

- ・ 研究学園地区では月1、2回以上訪れている割合が他の地区に比べて多く、80%を超えている。
- ・ 荃崎地区では「まったく訪れない」の割合が30.8%と最も多い。

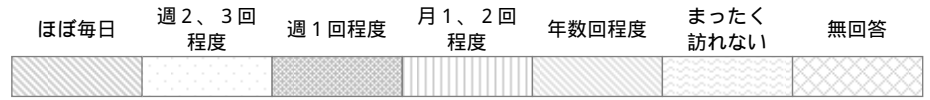


【年齢別】

- ・ 10歳代では「ほぼ毎日」の割合が25%を超えている。
- ・ 75歳以上では「まったく訪れない」の割合が20%を超えている。

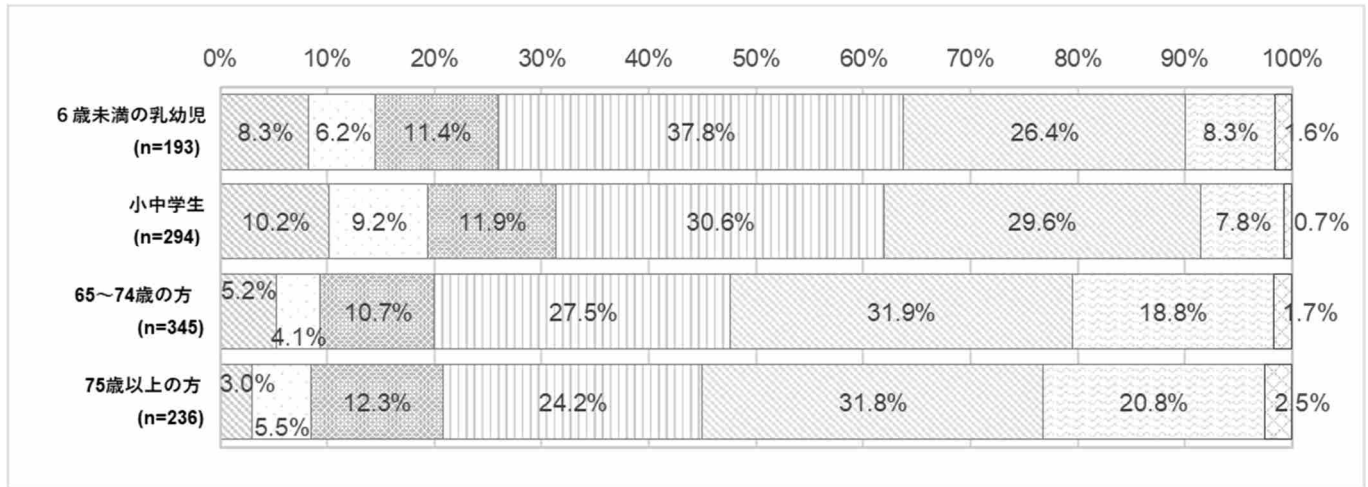


8 つくば駅周辺地区の活性化について



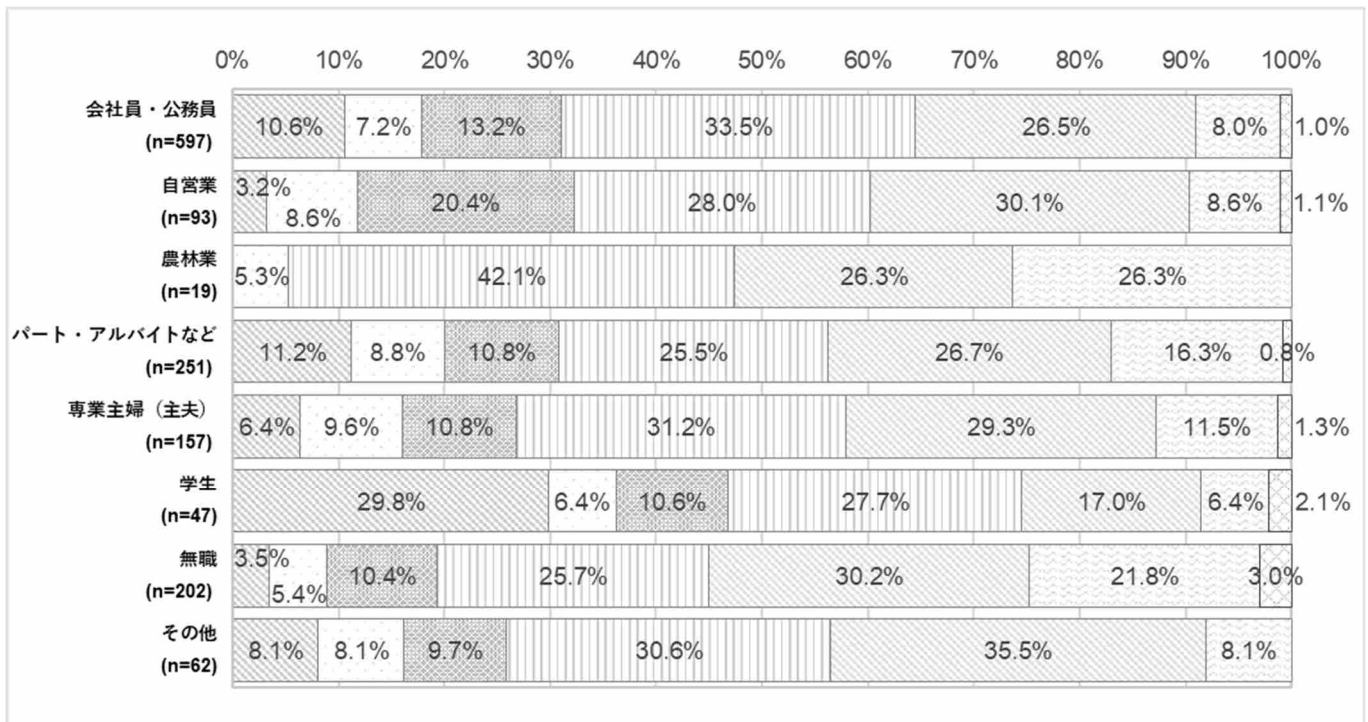
【世帯に含む人別】

- ・6歳未満の乳幼児、小中学生を含む世帯では月1、2回以上訪れている割合が60%を超えている。
- ・65～74歳の方、75歳以上の方を含む世帯では「まったく訪れない」の割合が15%を超えている。



【職業別】

- ・学生では月1、2回以上訪れている割合が70%を超えている。



【問 29 で 1～5 を選択した方にお聞きします】

問 30 主にどのような目的でつくばセンター地区を訪れますか。

< は1つ >

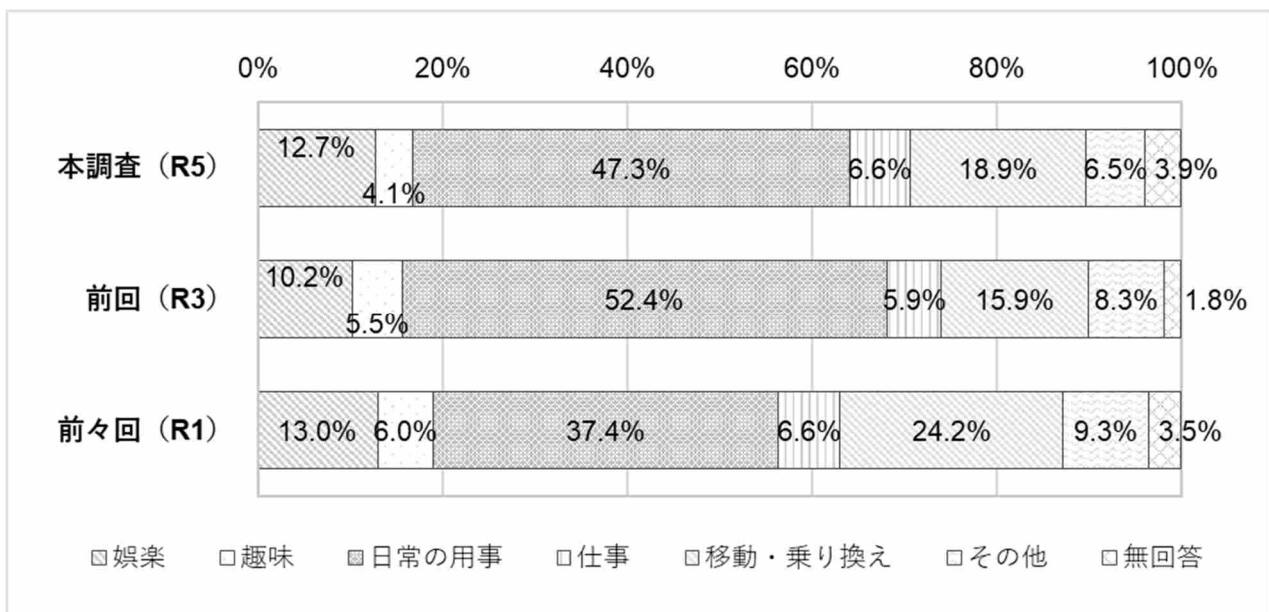
全体集計の結果

つくばセンター地区を訪れる主な目的は、「日常の用事」が4割半ば

- つくばセンター地区を訪れる主な目的は、「日常の用事」が593人(47.3%)で最も多く、「移動・乗り換え」が237人(18.9%)、「娯楽」が159人(12.7%)、「仕事」が83人(6.6%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
娯楽	159	12.7%	10.2%	13.0%
趣味	51	4.1%	5.5%	6.0%
日常の用事	593	47.3%	52.4%	37.4%
仕事	83	6.6%	5.9%	6.6%
移動・乗り換え	237	18.9%	15.9%	24.2%
その他	82	6.5%	8.3%	9.3%
無回答	49	3.9%	1.8%	3.5%
全体	1,254	100.0%	100.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



8 つくば駅周辺地区の活性化について

【問 29 で 1～5 を選択した方にお聞きします】

問 30 主にどのような目的でつくばセンター地区を訪れますか。

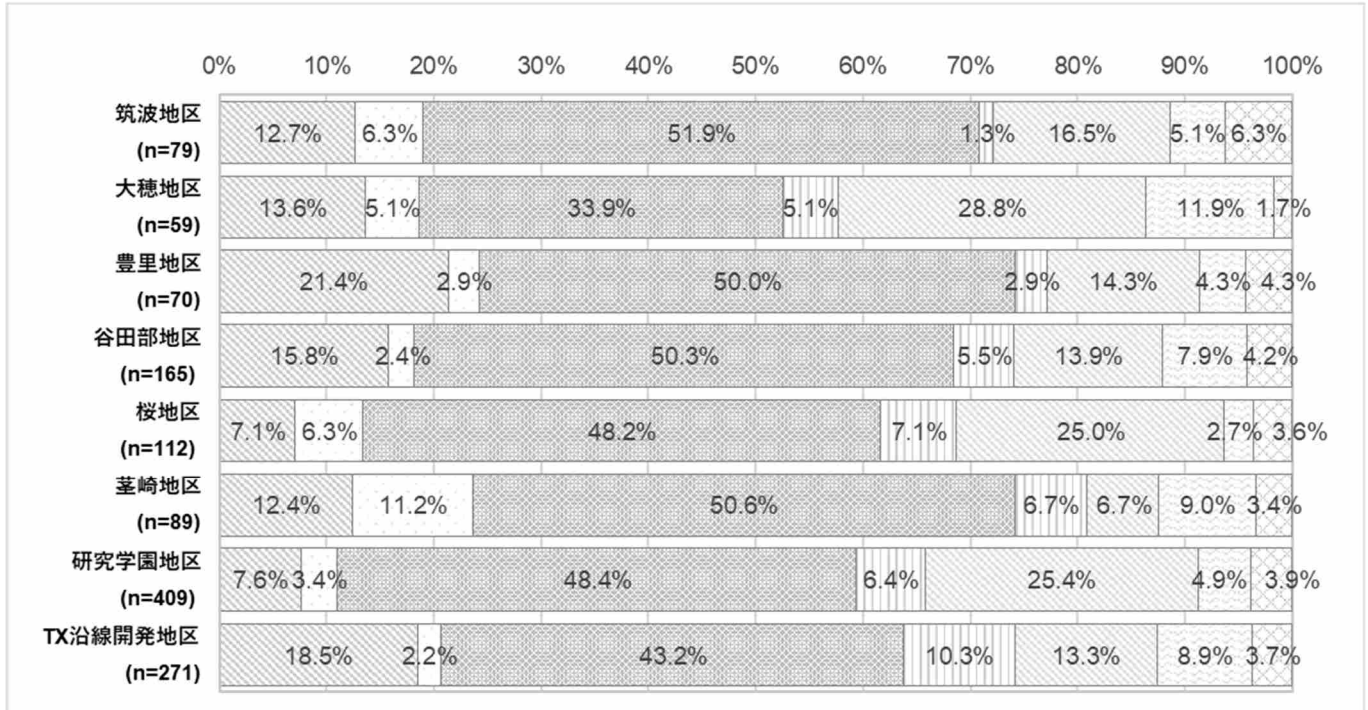
< は1つ >

クロス集計



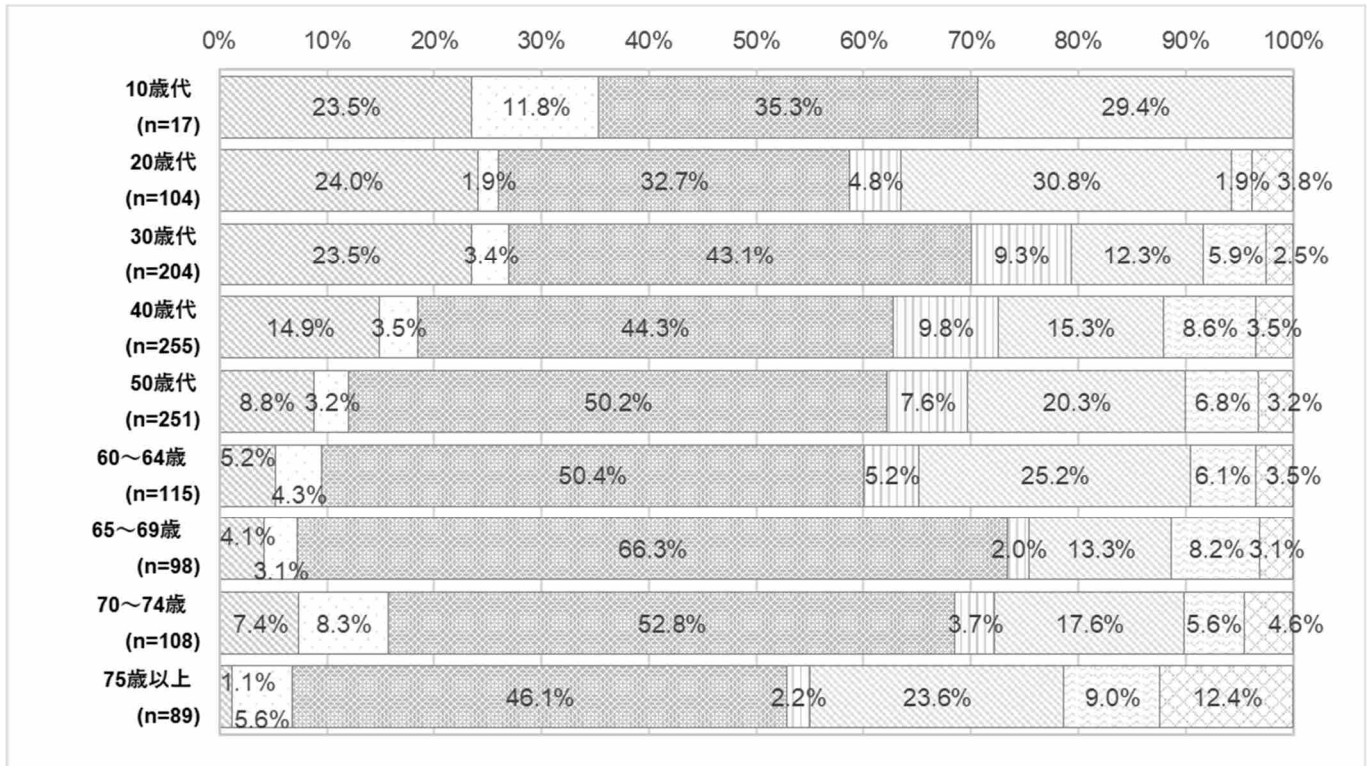
【地区別】

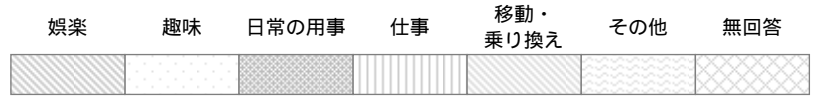
・全ての地区で「日常の用事」の割合が最も多くなっている。



【年齢別】

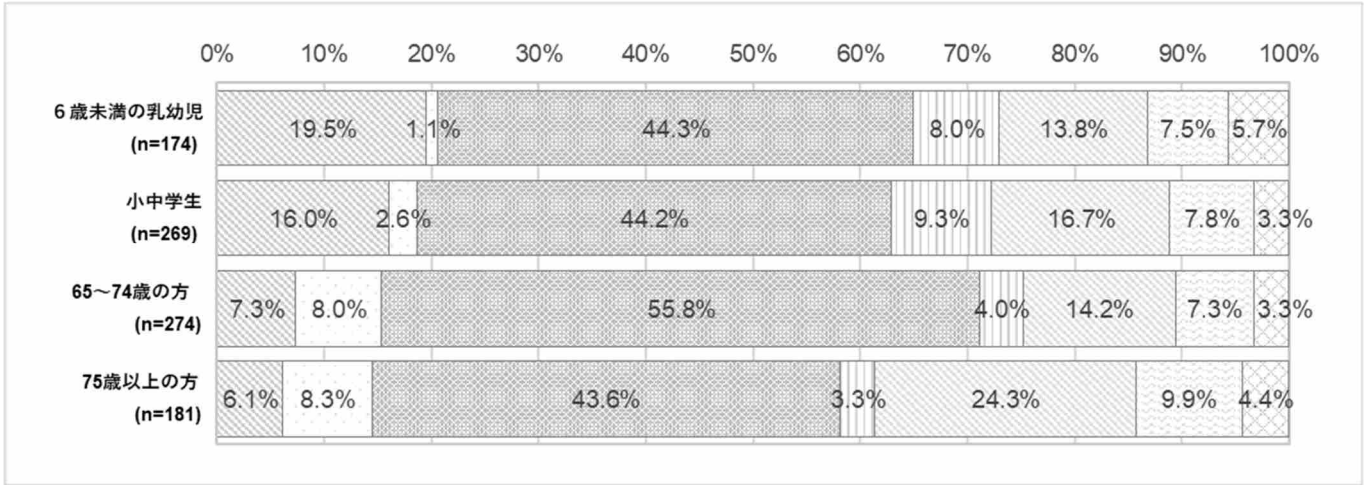
・全ての年齢で「日常の用事」が最も多くなっている。





【世帯に含む人別】

- ・全ての世帯で「日常の用事」の割合が最も多くなっている。
- ・6歳未満の乳幼児を含む世帯では「娯楽」の割合が19.5%となっている。
- ・75歳以上の方を含む世帯では「移動・乗り換え」の割合が20%を超えている。



【職業別】

- ・学生以外の全ての職業では「日常の用事」の割合が最も多くなっている。
- ・学生では「移動・乗り換え」の割合が最も多く、50%を超えている。



問 31 あなたは、にぎわいのあるつくばセンター地区（つくば駅周辺）にするためには、どのような取組が必要だと思いますか。当てはまる番号を右の回答欄に3つまで記入してください。

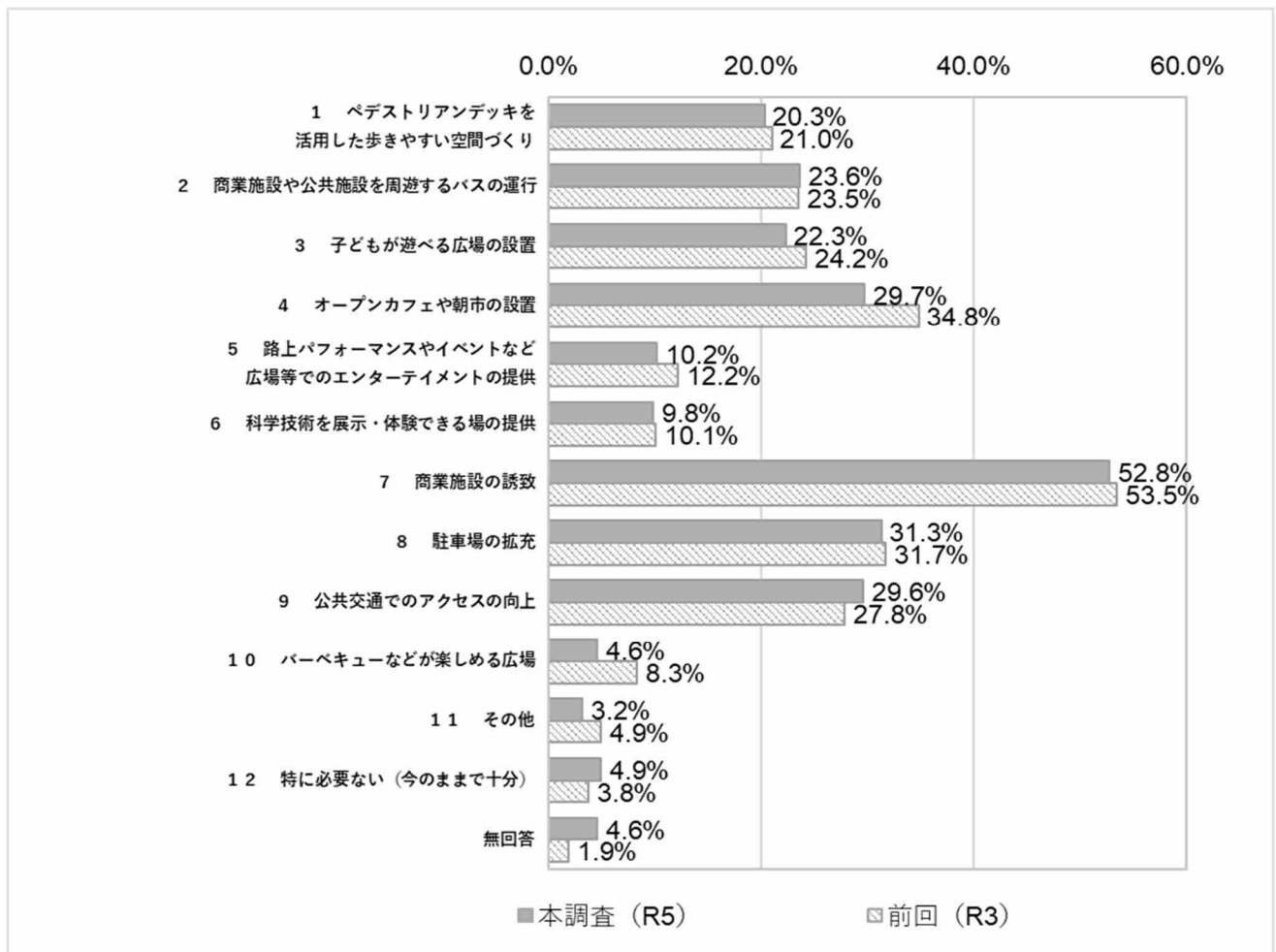
全体集計の結果

にぎわいのあるつくばセンター地区にするために必要な取組は、「商業施設の誘致」が約5割

・にぎわいのあるつくばセンター地区にするために必要な取組については、「商業施設の誘致」が764人(52.8%)で最も多く、「駐車場の拡充」が453人(31.3%)、「オープンカフェや朝市の設置」が430人(29.7%)、「公共交通でのアクセスの向上」が428人(29.6%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)
	回答数(人)	構成比	構成比
1 ペDESTリアンデッキ(歩行者・自転車専用道路)を活用した歩きやすい空間づくり	294	20.3%	21.0%
2 商業施設や公共施設を周遊するバスの運行	342	23.6%	23.5%
3 子どもが遊べる広場の設置	322	22.3%	24.2%
4 オープンカフェや朝市の設置	430	29.7%	34.8%
5 路上パフォーマンスやイベントなど広場等でのエンターテインメントの提供	148	10.2%	12.2%
6 科学技術を展示・体験できる場の提供	142	9.8%	10.1%
7 商業施設の誘致	764	52.8%	53.5%
8 駐車場の拡充	453	31.3%	31.7%
9 公共交通でのアクセスの向上	428	29.6%	27.8%
10 バーベキューなどが楽しめる広場	67	4.6%	8.3%
11 その他	47	3.2%	4.9%
12 特に必要ない(今のままで十分)	71	4.9%	3.8%
無回答	67	4.6%	1.9%
全体(有効回答数)	1,447		

< 過年度調査との比較 >



問 31 あなたは、にぎわいのあるつくばセンター地区（つくば駅周辺）にするためには、どのような取組が必要だと思いますか。当てはまる番号を右の回答欄に3つまで記入してください。

クロス集計

【地区別】

- ・ 豊里地区、谷田部地区、桜地区、研究学園地区、TX沿線開発地区では「商業施設の誘致」の割合が最も多い。
- ・ 筑波地区、大穂地区では「駐車場の拡充」の割合が最も多い。
- ・ 荃崎地区では「公共交通でのアクセスの向上」の割合が最も多い。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
筑波地区 (n=97)	駐車場の拡充		商業施設の誘致		公共交通でのアクセスの向上		オープンカフェや朝市の設置		子どもが遊べる広場の設置	
	40	41.2%	36	37.1%	26	26.8%	25	25.8%	22	22.7%
大穂地区 (n=77)	駐車場の拡充		商業施設の誘致		公共交通でのアクセスの向上		子どもが遊べる広場の設置		オープンカフェや朝市の設置	
	31	40.3%	28	36.4%	24	31.2%	20	26.0%	19	24.7%
豊里地区 (n=89)	商業施設の誘致		駐車場の拡充		商業施設や公共施設を周遊するバスの運行		公共交通でのアクセスの向上		オープンカフェや朝市の設置	
	41	46.1%	34	38.2%	31	34.8%	27	30.3%	26	29.2%
谷田部地区 (n=199)	商業施設の誘致		駐車場の拡充		公共交通でのアクセスの向上		オープンカフェや朝市の設置		商業施設や公共施設を周遊するバスの運行	
	103	51.8%	74	37.2%	53	26.6%	47	23.6%	45	22.6%
桜地区 (n=120)	商業施設の誘致		駐車場の拡充／公共交通でのアクセスの向上			商業施設や公共施設を周遊するバスの運行		オープンカフェや朝市の設置		
	73	60.8%	38			31.7%		32	26.7%	31
荃崎地区 (n=133)	公共交通でのアクセスの向上		商業施設の誘致		商業施設や公共施設を周遊するバスの運行		駐車場の拡充		オープンカフェや朝市の設置	
	50	37.6%	47	35.3%	42	31.6%	39	29.3%	32	24.1%
研究学園地区 (n=427)	商業施設の誘致		オープンカフェや朝市の設置		公共交通でのアクセスの向上		駐車場の拡充		ベデストリアンデッキを活用した歩きやすい空間づくり	
	260	60.9%	139	32.6%	134	31.4%	114	26.7%	112	26.2%
TX沿線開発地区 (n=305)	商業施設の誘致		オープンカフェや朝市の設置		子どもが遊べる広場の設置		駐車場の拡充		公共交通でのアクセスの向上	
	176	57.7%	111	36.4%	91	29.8%	83	27.2%	76	24.9%

8 つくば駅周辺地区の活性化について

【年齢別】

- ・75歳以上を除く全ての年齢で「商業施設の誘致」の割合が最も多くなっている。
- ・30歳代、40歳代では「子どもが遊べる広場の設置」が上位となっている。
- ・50歳代から70～74歳では「駐車場の拡充」が上位となっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
10歳代 (n=18)	商業施設の誘致		公共交通でのアクセスの向上		オープンカフェや朝市の設置		商業施設や公共施設を周遊するバスの運行／子どもが遊べる広場の設置／科学技術を展示・体験できる場の提供／駐車場の拡充			
	10	55.6%	6	33.3%	5	27.8%	3		16.7%	
20歳代 (n=116)	商業施設の誘致		駐車場の拡充		オープンカフェや朝市の設置		公共交通でのアクセスの向上		子どもが遊べる広場の設置	
	59	50.9%	39	33.6%	37	31.9%	36	31.0%	28	24.1%
30歳代 (n=227)	商業施設の誘致		子どもが遊べる広場の設置		オープンカフェや朝市の設置		駐車場の拡充		公共交通でのアクセスの向上	
	117	51.5%	90	39.6%	80	35.2%	65	28.6%	56	24.7%
40歳代 (n=279)	商業施設の誘致		オープンカフェや朝市の設置		子どもが遊べる広場の設置		駐車場の拡充		ペDESTリアンデッキを活用した歩きやすい空間づくり	
	153	54.8%	101	36.2%	74	26.5%	71	25.4%	63	22.6%
50歳代 (n=281)	商業施設の誘致		公共交通でのアクセスの向上		オープンカフェや朝市の設置／駐車場の拡充		商業施設や公共施設を周遊するバスの運行			
	162	57.7%	90	32.0%	84		29.9%	66		23.5%
60～64歳 (n=134)	商業施設の誘致		駐車場の拡充		商業施設や公共施設を周遊するバスの運行／公共交通でのアクセスの向上				オープンカフェや朝市の設置	
	77	57.5%	48	35.8%	40		29.9%	39		29.1%
65～69歳 (n=122)	商業施設の誘致		駐車場の拡充		公共交通でのアクセスの向上		オープンカフェや朝市の設置		ペDESTリアンデッキを活用した歩きやすい空間づくり	
	66	54.1%	45	36.9%	37	30.3%	33	27.0%	30	24.6%
70～74歳 (n=136)	商業施設の誘致		駐車場の拡充		公共交通でのアクセスの向上		商業施設や公共施設を周遊するバスの運行		ペDESTリアンデッキを活用した歩きやすい空間づくり	
	66	48.5%	53	39.0%	48	35.3%	46	33.8%	35	25.7%
75歳以上 (n=119)	公共交通でのアクセスの向上		商業施設の誘致		商業施設や公共施設を周遊するバスの運行		駐車場の拡充		ペDESTリアンデッキを活用した歩きやすい空間づくり	
	49	41.2%	48	40.3%	42	35.3%	39	32.8%	25	21.0%

9 科学のまちについて

問 32 あなたは、つくばが「科学のまち」であることの恩恵を感じることがありますか。

< は1つ >

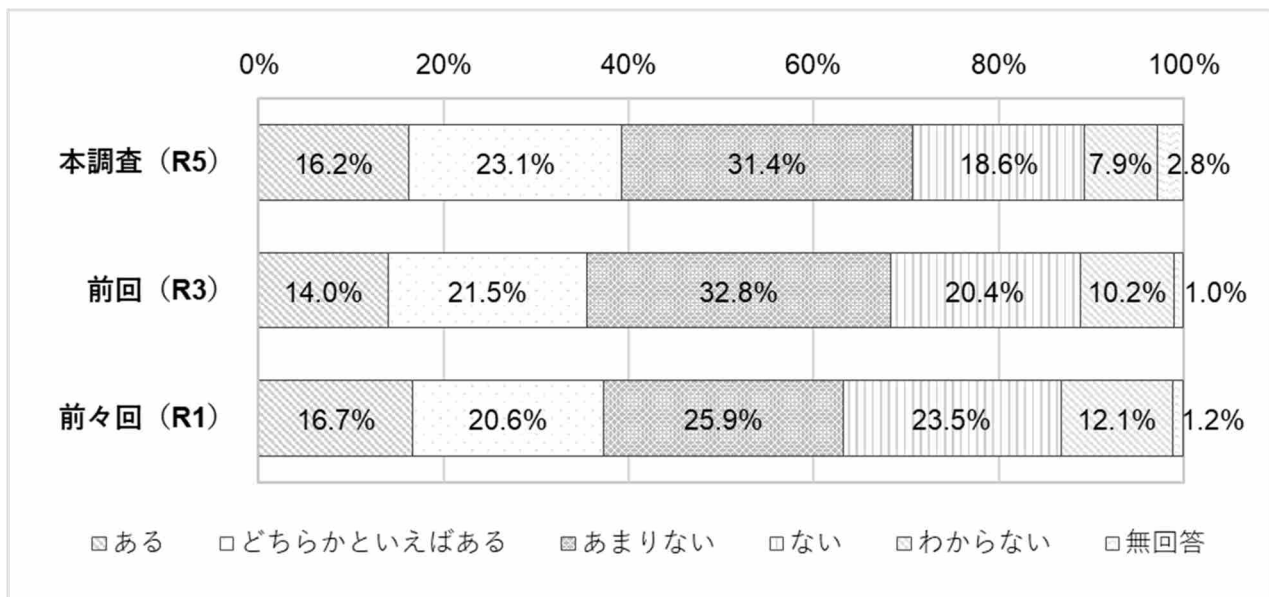
全体集計の結果

つくばが「科学のまち」であることの恩恵を感じたことは、「あまりない/ない」が5割

- ・「科学のまち」であることの恩恵を感じるかについては、「あまりない」が454人(31.4%)で最も多く、「どちらかといえばある」が334人(23.1%)、「ない」が269人(18.6%)、「ある」が234人(16.2%)で続いている。

選択肢	本調査 (R5)		前回 (R3)	前々回 (R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
ある	234	16.2%	14.0%	16.7%
どちらかといえばある	334	23.1%	21.5%	20.6%
あまりない	454	31.4%	32.8%	25.9%
ない	269	18.6%	20.4%	23.5%
わからない	115	7.9%	10.2%	12.1%
無回答	41	2.8%	1.0%	1.2%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



9 科学のまちについて

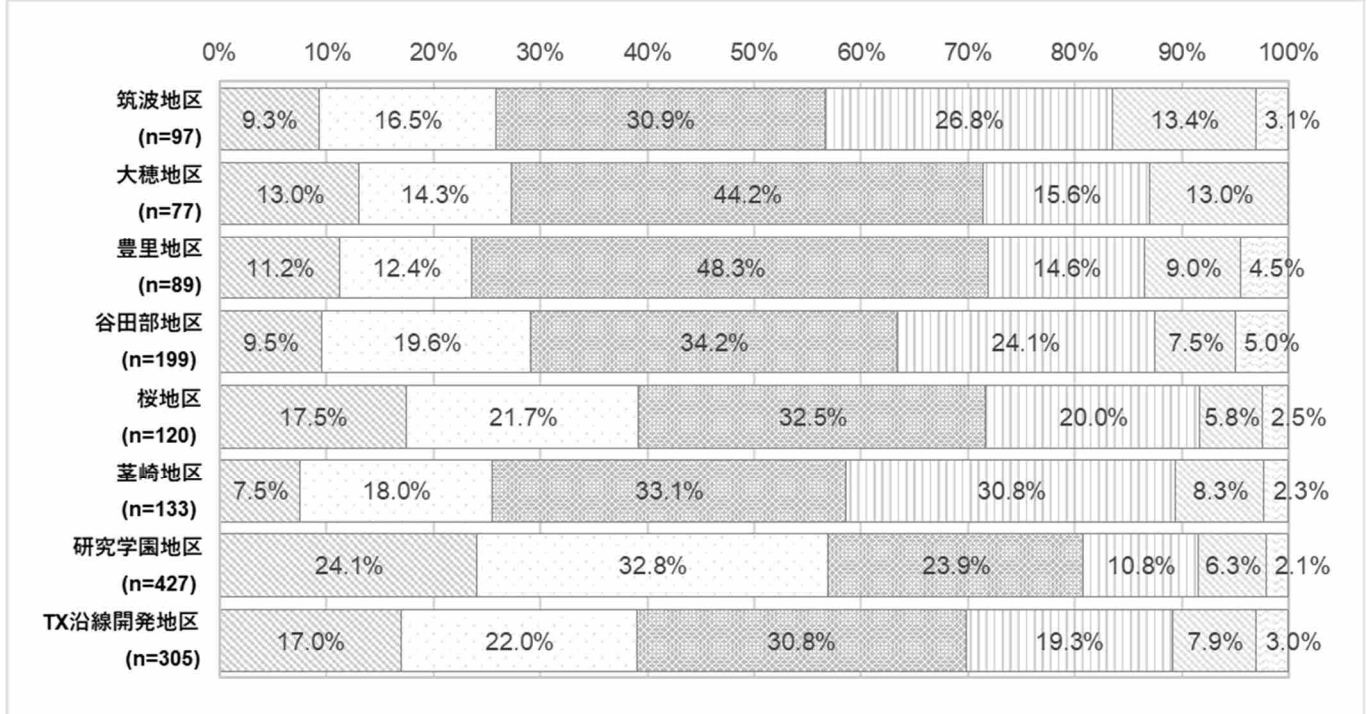
問 32 あなたは、つくばが「科学のまち」であることの恩恵を感じることはありますか。 < は1つ >

クロス集計



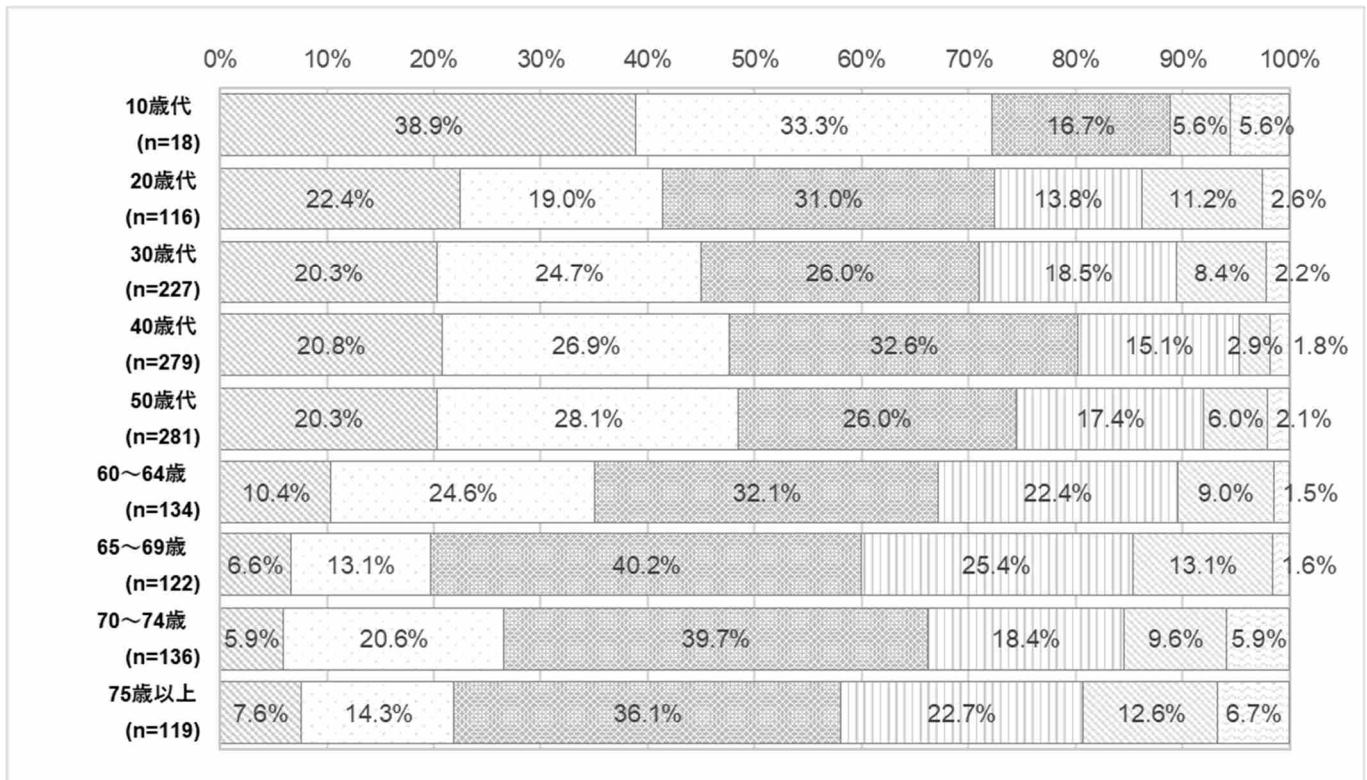
【地区別】

- ・ 研究学園地区以外の全ての地区で「あまりない/ない」の割合が50%を超えている。
- ・ 研究学園地区では「ある/どちらかといえばある」の割合が56.9%となっている。



【年齢別】

- ・ 65～69歳では「あまりない/ない」の割合が65%を超えており、10歳代では「ある/どちらかといえばある」の割合が70%を超えている。





【世帯構成別】

・全ての世帯構成で「あまりない」の割合が最も多くなっている。



【世帯に含む人別】

- ・小中学生を含む世帯では「ある/どちらかといえばある」の割合が最も多く、50%を超えている。
- ・65～74歳の方、75歳以上の方を含む世帯では「あまりない/ない」の割合が最も多く、50%を超えている。



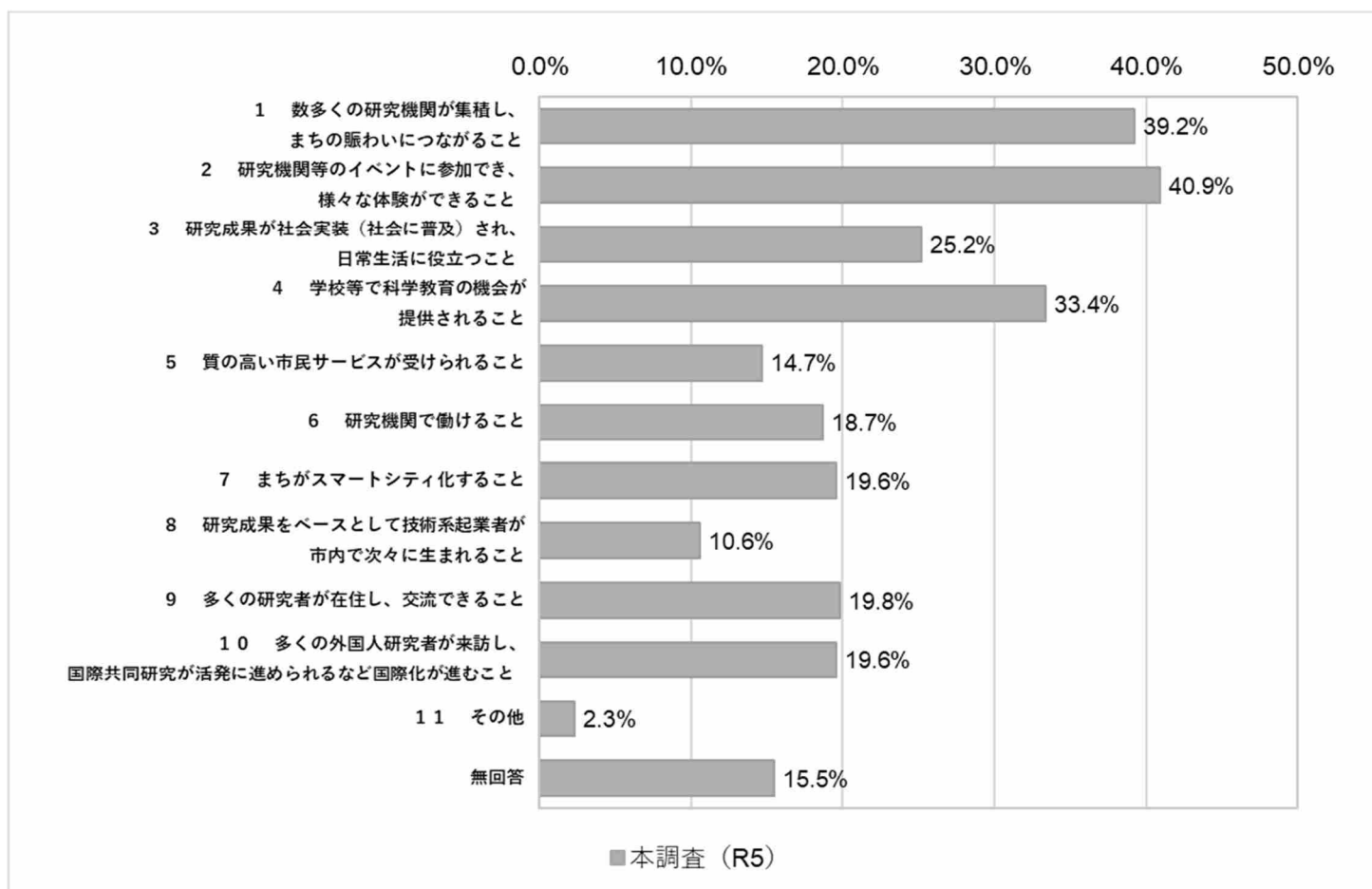
問 33 あなたにとって、つくばが「科学のまち」であることの恩恵とは何ですか。 < は当てはまるものすべて >

全体集計の結果

「科学のまち」であることの恩恵については、「研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること」が約4割

・つくばが「科学のまち」であることの恩恵については、「研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること」が592人(40.9%)で最も多く、「数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること」が567人(39.2%)、「学校等で科学教育の機会が提供されること」が484人(33.4%)、「研究成果が社会実装(社会に普及)され、日常生活に役立つこと」が364人(25.2%)で続いている。

選択肢	本調査 (R5)	
	回答数(人)	構成比
1 数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	567	39.2%
2 研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	592	40.9%
3 研究成果が社会実装(社会に普及)され、日常生活に役立つこと	364	25.2%
4 学校等で科学教育の機会が提供されること	484	33.4%
5 質の高い市民サービスが受けられること	213	14.7%
6 研究機関で働けること	270	18.7%
7 まちがスマートシティ化(先端技術を活用して地域課題を解決し、利便性が高く暮らしやすい街をつくる取組)すること	283	19.6%
8 研究成果をベースとして技術系起業者が市内で次々に生まれること	153	10.6%
9 多くの研究者が在住し、交流できること	286	19.8%
10 多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進むこと	284	19.6%
11 その他	33	2.3%
無回答	224	15.5%
全体(有効回答数)	1,447	



問 33 あなたにとって、つくばが「科学のまち」であることの恩恵とは何ですか。

< は当てはまるものすべて >

クロス集計

【地区別】

- ・谷田部地区、桜地区、荳崎地区、研究学園地区、TX 沿線開発地区では、「研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること」が最も多かった。
- ・筑波地区、大穂地区では「数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること」が最も多かった。
- ・豊里地区では「研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと」が最も多かった。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
筑波地区 (n=97)	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	学校等で科学教育の機会が提供されること	まちがスマートシティ化すること
	41 42.3%	33 34.0%	30 30.9%	27 27.8%	20 20.6%
大穂地区 (n=77)	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	学校等で科学教育の機会が提供されること	質の高い市民サービスが受けられること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと
	29 37.7%	23 29.9%	20 26.0%	14 18.2%	13 16.9%
豊里地区 (n=89)	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること／研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること		学校等で科学教育の機会が提供されること	まちがスマートシティ化すること
	34 38.2%	31 34.8%		23 25.8%	22 24.7%
谷田部地区 (n=199)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること／学校等で科学教育の機会が提供されること		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと	多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進むこと
	69 34.7%	64 32.2%		57 28.6%	38 19.1%
桜地区 (n=120)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	学校等で科学教育の機会が提供されること	多くの研究者が在住し、交流できること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと
	48 40.0%	47 39.2%	43 35.8%	33 27.5%	28 23.3%
荳崎地区 (n=133)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと	多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進むこと	学校等で科学教育の機会が提供されること
	37 27.8%	35 26.3%	33 24.8%	26 19.5%	25 18.8%
研究学園地区 (n=427)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	学校等で科学教育の機会が提供されること	研究機関で働けること	多くの研究者が在住し、交流できること
	232 54.3%	202 47.3%	169 39.6%	121 28.3%	117 27.4%
TX沿線開発地区 (n=305)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	学校等で科学教育の機会が提供されること	まちがスマートシティ化すること	多くの研究者が在住し、交流できること
	122 40.0%	118 38.7%	113 37.0%	70 23.0%	68 22.3%

【年齢別】

- ・20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60～64歳では「研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること」が最も多かった。
- ・65～69歳、70～74歳、75歳以上では「数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること」が最も多かった。
- ・10歳代では「学校等で科学教育の機会が提供されること」が最も多かった。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代 (n=18)	学校等で科学教育の機会が提供されること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること／研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること		多くの研究者が在住し、交流できること	多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進むこと
	10 55.6%	9 50.0%		4 22.2%	3 16.7%
20歳代 (n=116)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	学校等で科学教育の機会が提供されること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと	まちがスマートシティ化すること／多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進むこと
	50 43.1%	45 38.8%	40 34.5%	30 25.9%	28 24.1%
30歳代 (n=227)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	学校等で科学教育の機会が提供されること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと／まちがスマートシティ化すること	
	87 38.3%	83 36.6%	81 35.7%	53 23.3%	
40歳代 (n=279)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	学校等で科学教育の機会が提供されること	研究機関で働けること	多くの研究者が在住し、交流できること
	149 53.4%	113 40.5%	111 39.8%	71 25.4%	69 24.7%
50歳代 (n=281)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	学校等で科学教育の機会が提供されること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと	研究機関で働けること
	132 47.0%	117 41.6%	105 37.4%	76 27.0%	69 24.6%
60～64歳 (n=134)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	学校等で科学教育の機会が提供されること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと	多くの研究者が在住し、交流できること
	54 40.3%	53 39.6%	36 26.9%	29 21.6%	25 18.7%
65～69歳 (n=122)	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること／研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと		学校等で科学教育の機会が提供されること	質の高い市民サービスが受けられること／多くの研究者が在住し、交流できること
	47 38.5%	34 27.9%		28 23.0%	23 18.9%
70～74歳 (n=136)	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと	学校等で科学教育の機会が提供されること	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	まちがスマートシティ化すること
	60 44.1%	45 33.1%	44 32.4%	39 28.7%	33 24.3%
75歳以上 (n=119)	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながること	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができること	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つこと	まちがスマートシティ化すること	多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進むこと
	35 29.4%	33 27.7%	32 26.9%	27 22.7%	26 21.8%

9 科学のまちについて

【世帯構成別】

- ・ひとり暮らし、夫婦のみでは、「数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事」が最も多かった。
- ・親子、三世代同居では、「研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事」が最も多かった。
- ・その他では「研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事」が最も多かった。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
ひとり暮らし (n=173)	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事		研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		まちがスマートシティ化すること		研究機関で働ける事/多くの研究者が在住し、交流できる事	
	74	42.8%	49	28.3%	46	26.6%	44	25.4%	38	22.0%
夫婦のみ (n=373)	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事		研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		学校等で科学教育の機会が提供される事		多くの研究者が在住し、交流できる事	
	153	41.0%	137	36.7%	108	29.0%	90	24.1%	78	20.9%
親子 (n=701)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事		学校等で科学教育の機会が提供される事		数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		多くの研究者が在住し、交流できる事/多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進む事	
	336	47.9%	300	42.8%	272	38.8%	146	20.8%	143	20.4%
三世代同居 (n=117)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事		数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事/学校等で科学教育の機会が提供される事		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		質の高い市民サービスが受けられる事	
	42	35.9%	38		32.5%	37	31.6%	22	18.8%	
その他 (n=62)	研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事/研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		学校等で科学教育の機会が提供される事		質の高い市民サービスが受けられる事	
	22	35.5%	20		32.3%	18	29.0%	14	22.6%	

【世帯に含む人別】

- ・6歳未満の乳幼児、小中学生を含む世帯では、「研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事」が最も多かった。
- ・65～74歳の方、75歳以上の方を含む世帯では、「数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事」が最も多かった。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
6歳未満の乳幼児 (n=193)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事		学校等で科学教育の機会が提供される事		数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進む事	
	96	49.7%	87	45.1%	56	29.0%	45	23.3%	41	21.2%
小中学生 (n=294)	研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事		学校等で科学教育の機会が提供される事		数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事		多くの研究者が在住し、交流できる事		多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進む事	
	173	58.8%	153	52.0%	122	41.5%	72	24.5%	71	24.1%
65～74歳の方 (n=345)	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事		学校等で科学教育の機会が提供される事		まちがスマートシティ化すること	
	142	41.2%	112	32.5%	110	31.9%	98	28.4%	66	19.1%
75歳以上の方 (n=236)	数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる事		研究成果が社会実装され、日常生活に役立つ事		研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる事		学校等で科学教育の機会が提供される事		質の高い市民サービスが受けられる事	
	83	35.2%	72	30.5%	71	30.1%	56	23.7%	52	22.0%

問 34 あなたは、つくば市は科学のまちならではの先進的な製品・サービスが、いち早く暮らしの中に活かされていると思いますか。
 < は1つ >

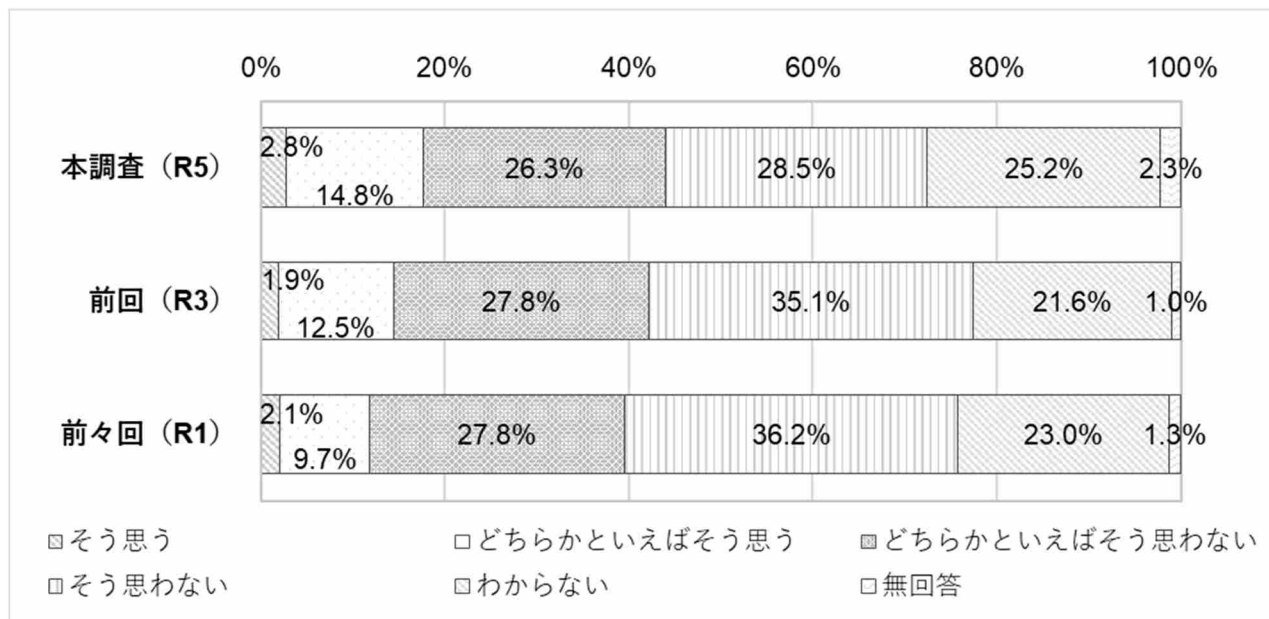
全体集計の結果

先進的な製品・サービスが暮らしの中に活かされていると思うかについては、「どちらかといえばそう思わない/そう思わない」が5割半ば

- ・先進的な製品・サービスが暮らしの中に活かされていると思うかについては、「そう思わない」が412人(28.5%)で最も多く、「どちらかといえばそう思わない」が381人(26.3%)、「わからない」が365人(25.2%)、「どちらかといえばそう思う」が214人(14.8%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
そう思う	41	2.8%	1.9%	2.1%
どちらかといえばそう思う	214	14.8%	12.5%	9.7%
どちらかといえばそう思わない	381	26.3%	27.8%	27.8%
そう思わない	412	28.5%	35.1%	36.2%
わからない	365	25.2%	21.6%	23.0%
無回答	34	2.3%	1.0%	1.3%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

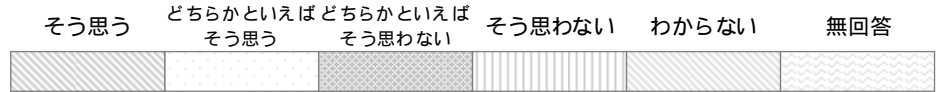
< 過年度調査との比較 >



9 科学のまちについて

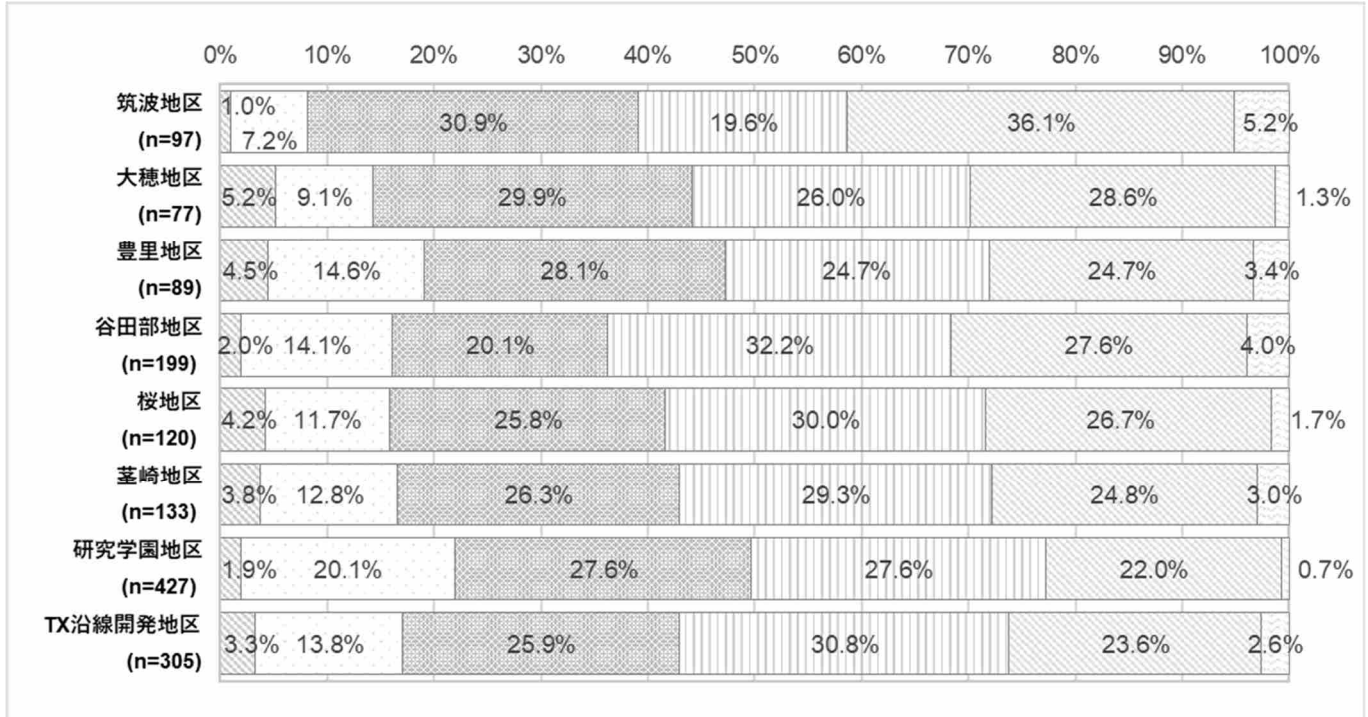
問 34 あなたは、つくば市は科学のまちならではの先進的な製品・サービスが、いち早く暮らしの中に活かされていると思いますか。 < は1つ >

クロス集計



【地区別】

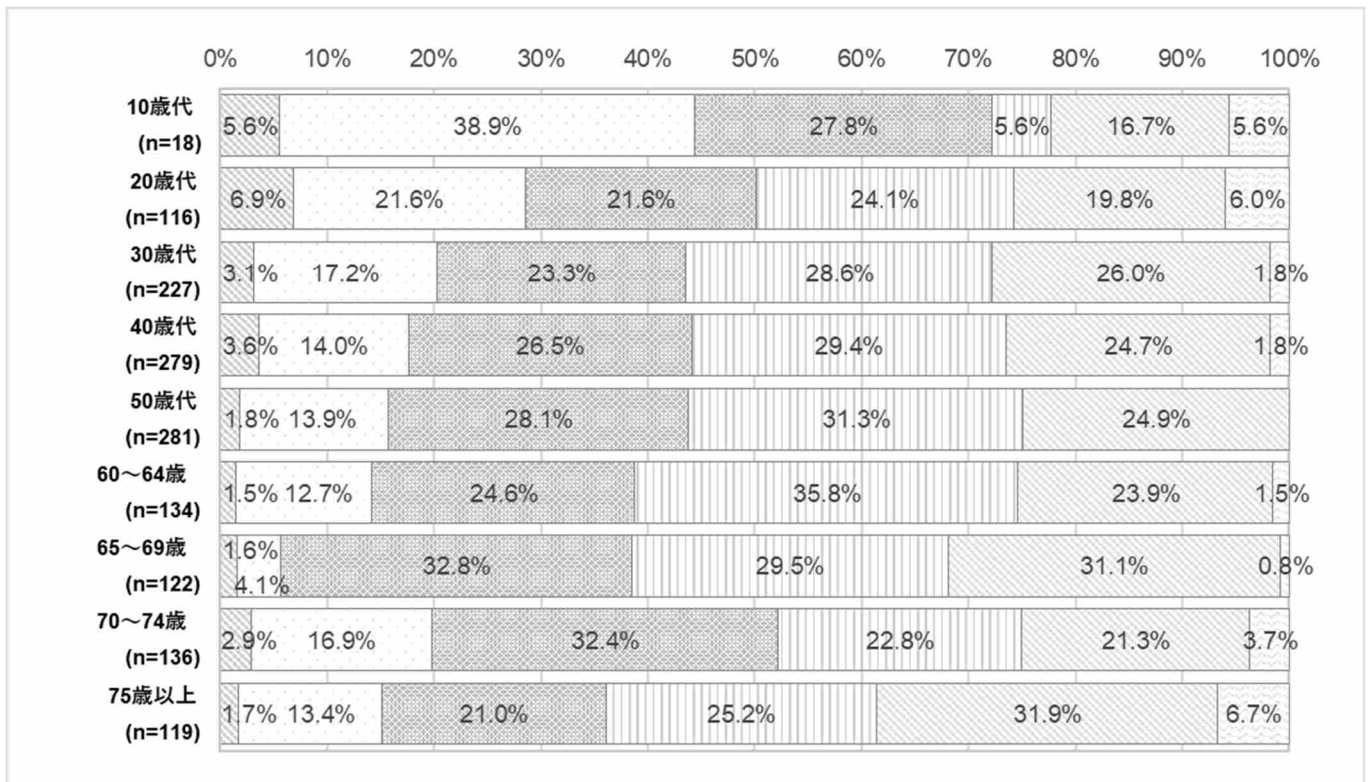
・全ての地区で「どちらかといえばそう思わない/そう思わない」の割合が50%を超えている。

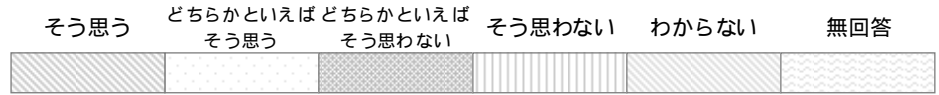


【年齢別】

・60～64歳、65～69歳で「どちらかといえばそう思わない/そう思わない」の割合が60%を超えている。

・10歳代では「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が40%を超えている。





【世帯構成別】

・全ての世帯構成で「どちらかといえばそう思わない/そう思わない」の割合が50%を超えている。



【世帯に含む人別】

- ・ 6歳未満の乳幼児を含む世帯を除く全ての世帯で「どちらかといえばそう思わない/そう思わない」の割合が50%を超えている。
- ・ 全ての世帯で「そう思う/どちらかといえばそう思う」の割合が15%を超えており、小中学生を含む世帯では20%を超えている。



問 35 あなたは以下のモバイル機器を保有していますか。

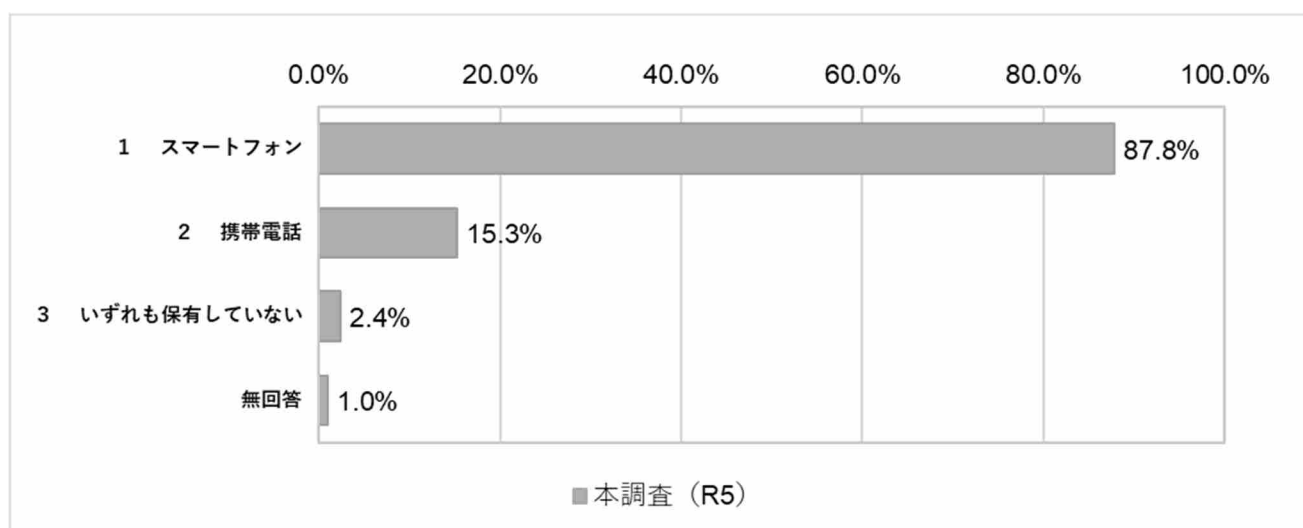
< は当てはまるものすべて >

全体集計の結果

モバイル機器の保有状況については、「スマートフォン」が8割半ば

・モバイル機器の保有状況については、「スマートフォン」が1,271人(87.8%)で最も多く、「携帯電話」が222人(15.3%)、「いずれも保有していない」が35人(2.4%)となっている。

選択肢	本調査(R5)	
	回答数(人)	構成比
1 スマートフォン	1,271	87.8%
2 携帯電話	222	15.3%
3 いずれも保有していない	35	2.4%
無回答	15	1.0%
全体(有効回答数)	1,447	



問 35 あなたは以下のモバイル機器を保有していますか。

< は当てはまるものすべて >

クロス集計

【地区別】

・全ての地区で「スマートフォン」の割合が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位	
筑波地区 (n=97)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	70	72.2%	28	28.9%	5	5.2%
大穂地区 (n=77)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	66	85.7%	17	22.1%	2	2.6%
豊里地区 (n=89)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	73	82.0%	14	15.7%	6	6.7%
谷田部地区 (n=199)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	157	78.9%	45	22.6%	7	3.5%
桜地区 (n=120)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	106	88.3%	20	16.7%	3	2.5%
荃崎地区 (n=133)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	111	83.5%	22	16.5%	6	4.5%
研究学園地区 (n=427)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	398	93.2%	54	12.6%	4	0.9%
TX沿線開発地区 (n=305)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	290	95.1%	22	7.2%	2	0.7%

【年齢別】

・全ての年齢で「スマートフォン」の割合が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位	
10歳代 (n=18)	スマートフォン		-		-	
	17	94.4%	-	-	-	-
20歳代 (n=116)	スマートフォン		携帯電話／いずれも保有していない			
	112	96.6%	2		1.7%	
30歳代 (n=227)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	222	97.8%	10	4.4%	3	1.3%
40歳代 (n=279)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	268	96.1%	27	9.7%	1	0.4%
50歳代 (n=281)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	265	94.3%	33	11.7%	3	1.1%
60～64歳 (n=134)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	121	90.3%	21	15.7%	3	2.2%
65～69歳 (n=122)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	90	73.8%	37	30.3%	5	4.1%
70～74歳 (n=136)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	98	72.1%	39	28.7%	6	4.4%
75歳以上 (n=119)	スマートフォン		携帯電話		いずれも保有していない	
	64	53.8%	51	42.9%	12	10.1%

10 国際都市つくばについて

問 36 あなたは、「国際都市」として、つくば市が今後、強化すべき取り組みは何だと思えますか。
当てはまる番号を、右の回答欄に3つまで記入してください。

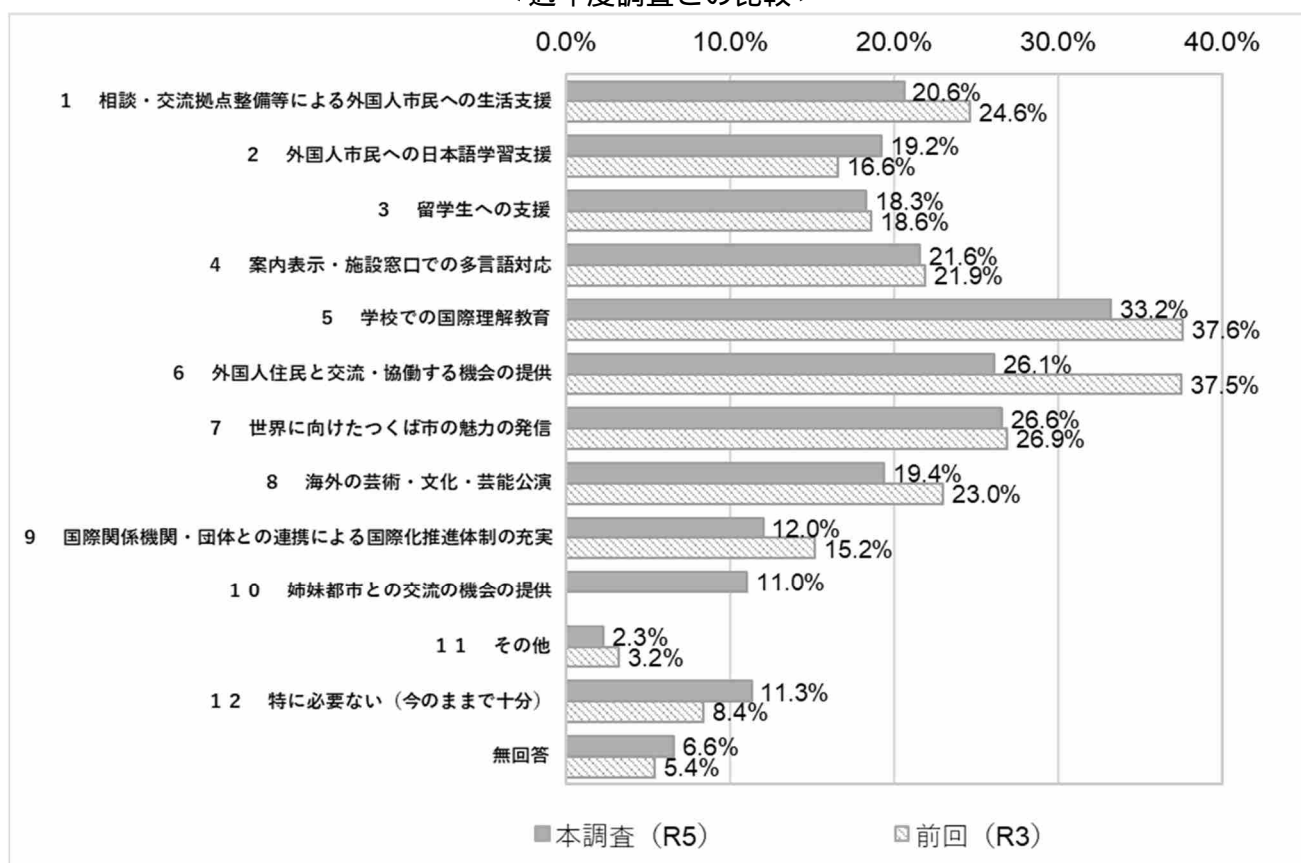
全体集計の結果

国際都市として取り組むべきことは、「学校での国際理解教育」が3割半ば

・つくば市が国際都市として取り組むべきことについては、「学校での国際理解教育」が481人(33.2%)で最も多く、「世界に向けたつくば市の魅力の発信」が385人(26.6%)、「外国人住民と交流・協働する機会の提供」が377人(26.1%)、「案内表示・施設窓口での多言語対応」が313人(21.6%)で続いている。

選択肢	本調査 (R5)		前回 (R3)
	回答数 (人)	構成比	構成比
1 相談・交流拠点整備等による外国人市民への生活支援	298	20.6%	24.6%
2 外国人市民への日本語学習支援	278	19.2%	16.6%
3 留学生への支援	265	18.3%	18.6%
4 案内表示・施設窓口での多言語対応	313	21.6%	21.9%
5 学校での国際理解教育	481	33.2%	37.6%
6 外国人住民と交流・協働する機会の提供	377	26.1%	37.5%
7 世界に向けたつくば市の魅力の発信	385	26.6%	26.9%
8 海外の芸術・文化・芸能公演	280	19.4%	23.0%
9 国際関係機関・団体との連携による国際化推進体制の充実	174	12.0%	15.2%
10 姉妹都市との交流の機会の提供	159	11.0%	-
11 その他	34	2.3%	3.2%
12 特に必要ない(今のままで十分)	163	11.3%	8.4%
無回答	96	6.6%	5.4%
全体(有効回答数)	1,447		

< 過年度調査との比較 >



問 36 あなたは、「国際都市」として、つくば市が今後、強化すべき取り組みは何だと思えますか。
 当てはまる番号を、右の回答欄に3つまで記入してください。

クロス集計

【地区別】

- ・大穂地区、桜地区を除いた全ての地区で「学校での国際理解教育」が最も多い。
- ・大穂地区では「世界に向けたつくば市の魅力の発信」、桜地区では「外国人住民と交流・協働する機会の提供」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
筑波地区 (n=97)	学校での国際理解教育		世界に向けたつくば市の魅力の発信		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		外国人市民への日本語学習支援／留学生への支援			
	41	42.3%	37	38.1%	22	22.7%	20		20.6%	
大穂地区 (n=77)	世界に向けたつくば市の魅力の発信		学校での国際理解教育／ 外国人住民と交流・協働する機会の提供				外国人市民への日本語学習支援／ 案内表示・施設窓口での多言語対応			
	24	31.2%	19		24.7%		17			
豊里地区 (n=89)	学校での国際理解教育		世界に向けたつくば市の魅力の発信		案内表示・施設窓口での多言語対応		留学生への支援		外国人市民への日本語学習支援	
	33	37.1%	29	32.6%	27	30.3%	25	28.1%	18	20.2%
谷田部地区 (n=199)	学校での国際理解教育		世界に向けたつくば市の魅力の発信		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		案内表示・施設窓口での多言語対応		外国人市民への日本語学習支援	
	66	33.2%	59	29.6%	51	25.6%	46	23.1%	39	19.6%
桜地区 (n=120)	外国人住民と交流・協働する 機会の提供		世界に向けたつくば市の魅力の発信		学校での国際理解教育		相談・交流拠点整備等による 外国人市民への生活支援		案内表示・施設窓口での多言語対応	
	35	29.2%	33	27.5%	32	26.7%	31	25.8%	30	25.0%
荻崎地区 (n=133)	学校での国際理解教育		世界に向けたつくば市の魅力の発信		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		留学生への支援		相談・交流拠点整備等による外国人市 民への生活支援／案内表示・施設窓 口での多言語対応	
	38	28.6%	37	27.8%	30	22.6%	26	19.5%	25	18.8%
研究学園地区 (n=427)	学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		相談・交流拠点整備等による 外国人市民への生活支援		世界に向けたつくば市の魅力の発信		案内表示・施設窓口での多言語対応／ 海外の芸術・文化・芸能公演	
	142	33.3%	129	30.2%	102	23.9%	99	23.2%	98	23.0%
TX沿線開発地区 (n=305)	学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		海外の芸術・文化・芸能公演		世界に向けたつくば市の魅力の発信		相談・交流拠点整備等による 外国人市民への生活支援	
	110	36.1%	76	24.9%	69	22.6%	67	22.0%	58	19.0%

【年齢別】

- ・10歳代から60～64歳では「学校での国際理解教育」が最も多くなっている。65～69歳、70～74歳、75歳以上では「世界に向けたつくば市の魅力の発信」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
10歳代 (n=18)	学校での国際理解教育		留学生への支援		案内表示・施設窓口での多言語対応／ 世界に向けたつくば市の魅力の発信				外国人市民への日本語学習支援／外国人 住民と交流・協働する機会の提供／海外 の芸術・文化・芸能公演／姉妹都市との交流 の機会の提供	
	8	44.4%	6	33.3%	4	22.2%		3		16.7%
20歳代 (n=116)	学校での国際理解教育		案内表示・施設窓口での多言語対応		留学生への支援		世界に向けたつくば市の魅力の発信／ 海外の芸術・文化・芸能公演			
	33	28.4%	28	24.1%	25	21.6%	24			
30歳代 (n=227)	学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する機会の提供／ 世界に向けたつくば市の魅力の発信				海外の芸術・文化・芸能公演		案内表示・施設窓口での多言語対応	
	91	40.1%	54		23.8%		52	22.9%	50	22.0%
40歳代 (n=279)	学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		世界に向けたつくば市の魅力の発信		海外の芸術・文化・芸能公演		外国人市民への日本語学習支援	
	106	38.0%	79	28.3%	69	24.7%	64	22.9%	61	21.9%
50歳代 (n=281)	学校での国際理解教育		相談・交流拠点整備等による 外国人市民への生活支援		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		案内表示・施設窓口での多言語対応		世界に向けたつくば市の魅力の発信	
	79	28.1%	77	27.4%	76	27.0%	74	26.3%	62	22.1%
60～64歳 (n=134)	学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		外国人市民への日本語学習支援		世界に向けたつくば市の魅力の発信		案内表示・施設窓口での多言語対応	
	43	32.1%	37	27.6%	35	26.1%	34	25.4%	32	23.9%
65～69歳 (n=122)	世界に向けたつくば市の魅力の発信		学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		案内表示・施設窓口での多言語対応		留学生への支援	
	43	35.2%	41	33.6%	35	28.7%	28	23.0%	27	22.1%
70～74歳 (n=136)	世界に向けたつくば市の魅力の発信		学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		留学生への支援		相談・交流拠点整備等による 外国人市民への生活支援	
	52	38.2%	47	34.6%	42	30.9%	34	25.0%	32	23.5%
75歳以上 (n=119)	世界に向けたつくば市の魅力の発信		学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		外国人市民への日本語学習支援		相談・交流拠点整備等による外国人市 民への生活支援／留学生への支援	
	41	34.5%	28	23.5%	26	21.8%	24	20.2%	21	17.6%

【世帯に含む人別】

- ・65～74歳の方、75歳以上の方を含む世帯で「世界に向けたつくば市の魅力の発信」が最も多くなっている。
- ・6歳未満の乳幼児、小中学生を含む世帯では「学校での国際理解教育」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
6歳未満の乳幼児 (n=193)	学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		世界に向けたつくば市の魅力の発信		案内表示・施設窓口での多言語対応		海外の芸術・文化・芸能公演	
	93	48.2%	47	24.4%	45	23.3%	42	21.8%	41	21.2%
小中学生 (n=294)	学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		世界に向けたつくば市の魅力の発信		外国人市民への日本語学習支援		案内表示・施設窓口での多言語対応	
	137	46.6%	93	31.6%	66	22.4%	61	20.7%	58	19.7%
65～74歳の方 (n=345)	世界に向けたつくば市の魅力の発信		学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		留学生への支援		案内表示・施設窓口での多言語対応	
	123	35.7%	115	33.3%	85	24.6%	74	21.4%	71	20.6%
75歳以上の方 (n=236)	世界に向けたつくば市の魅力の発信		学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		相談・交流拠点整備等による外国人市民への生活支援/ 外国人市民への日本語学習支援/留学生への支援			
	77	32.6%	71	30.1%	60	25.4%	49			

【職業別】

- ・会社員・公務員、農林業、パート・アルバイトなど、専業主婦（主夫）、学生では「学校での国際理解教育」が最も多くなっている。
- ・自営業、その他では「外国人住民と交流・協働する機会の提供」が最も多くなっている。
- ・無職では「世界に向けたつくば市の魅力の発信」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
会社員・公務員 (n=597)	学校での国際理解教育		世界に向けたつくば市の魅力の発信		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		案内表示・施設窓口での多言語対応		相談・交流拠点整備等による 外国人市民への生活支援	
	201	33.7%	156	26.1%	154	25.8%	134	22.4%	123	20.6%
自営業 (n=93)	外国人住民と交流・協働する 機会の提供		学校での国際理解教育		世界に向けたつくば市の魅力の発信/ 海外の芸術・文化・芸能公演				案内表示・施設窓口での多言語対応	
	34	36.6%	29	31.2%	24				25.8%	20
農林業 (n=19)	学校での国際理解教育		世界に向けたつくば市の魅力の発信		相談・交流拠点整備等による外国人市民への生活支援/ 海外の芸術・文化・芸能公演				外国人住民と交流・協働する機会の提供/ 国際関係機関・団体との連携による国際化 推進体制の充実/姉妹都市との交流の機 会の提供	
	8	42.1%	7	36.8%	5				26.3%	4
パート・アルバイト など (n=251)	学校での国際理解教育		世界に向けたつくば市の魅力の発信		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		相談・交流拠点整備等による 外国人市民への生活支援		案内表示・施設窓口での多言語対応	
	95	37.8%	64	25.5%	59	23.5%	53	21.1%	50	19.9%
専業主婦（主夫） (n=157)	学校での国際理解教育		外国人住民と交流・協働する 機会の提供		世界に向けたつくば市の魅力の発信		案内表示・施設窓口での多言語対応		外国人市民への日本語学習支援	
	59	37.6%	39	24.8%	37	23.6%	36	22.9%	33	21.0%
学生 (n=47)	学校での国際理解教育		留学生への支援/案内表示・施設窓口での多言語対応/ 国際関係機関・団体との連携による国際化推進体制の充実				相談・交流拠点整備等による外国人市 民への生活支援/外国人住民と交流・ 協働する機会の提供			
	14	29.8%	12				25.5%	11		23.4%
無職 (n=202)	世界に向けたつくば市の魅力の発信		学校での国際理解教育		案内表示・施設窓口での多言語対応		留学生への支援/ 外国人住民と交流・協働する機会の提供			
	66	32.7%	52	25.7%	48	23.8%	47			
その他 (n=62)	外国人住民と交流・協働する 機会の提供		世界に向けたつくば市の魅力の発信		留学生への支援		学校での国際理解教育		外国人市民への日本語学習支援	
	24	38.7%	19	30.6%	18	29.0%	17	27.4%	14	22.6%

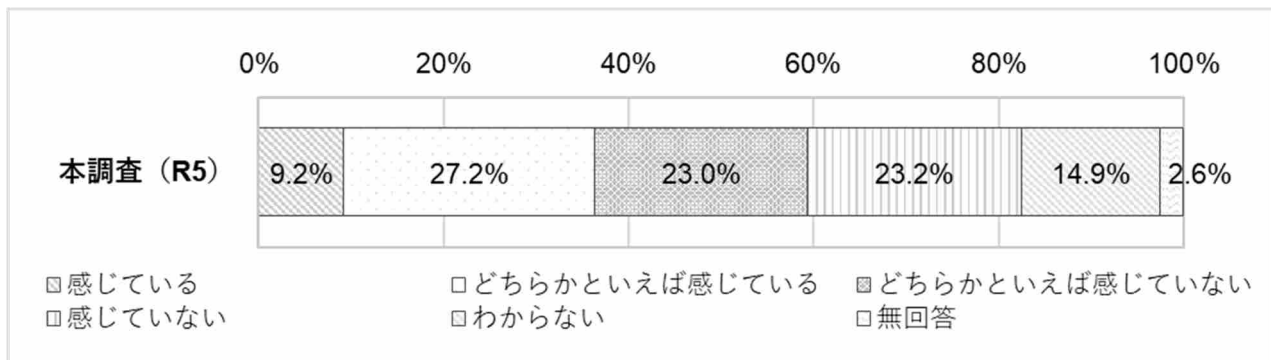
問 37 あなたは、世界中から多様な国籍の人が集まっているまちに住んでいる良さを感じていますか。 < は1つ >

全体集計の結果

世界中から多様な国籍の人が集まっているまちに住んでいる良さを、「感じている/どちらかといえば感じている」が3割半ば

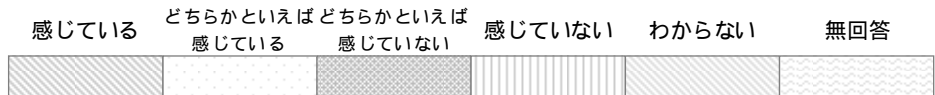
- ・世界中から多様な国籍の人が集まっているまちに住んでいる良さについて、「どちらかといえば感じている」が393人(27.2%)で最も多く、「感じていない」が335人(23.2%)、「どちらかといえば感じていない」が333人(23.0%)、「わからない」が216人(14.9%)が続いている。

選択肢	本調査(R5)	
	回答数(人)	構成比
感じている	133	9.2%
どちらかといえば感じている	393	27.2%
どちらかといえば感じていない	333	23.0%
感じていない	335	23.2%
わからない	216	14.9%
無回答	37	2.6%
全体	1,447	100.0%



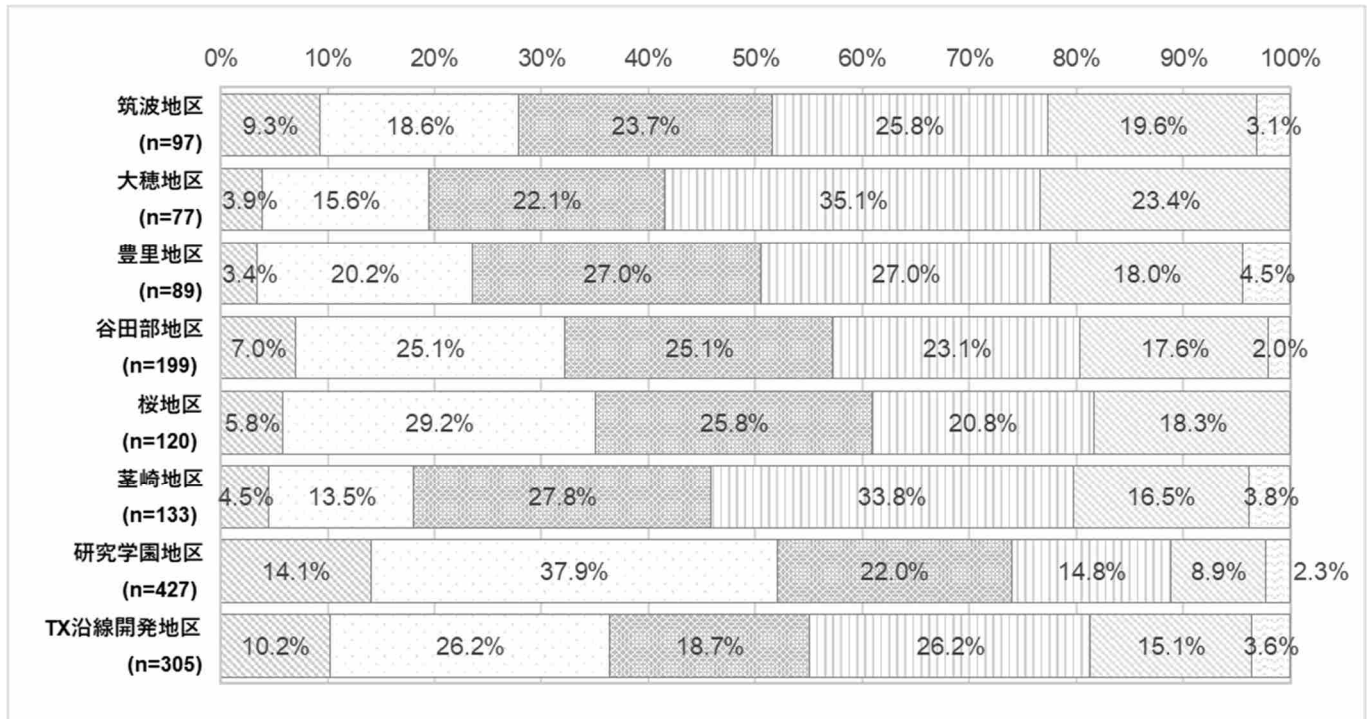
問 37 あなたは、世界中から多様な国籍の人が集まっているまちに住んでいる良さを感じていますか。 < は1つ >

クロス集計



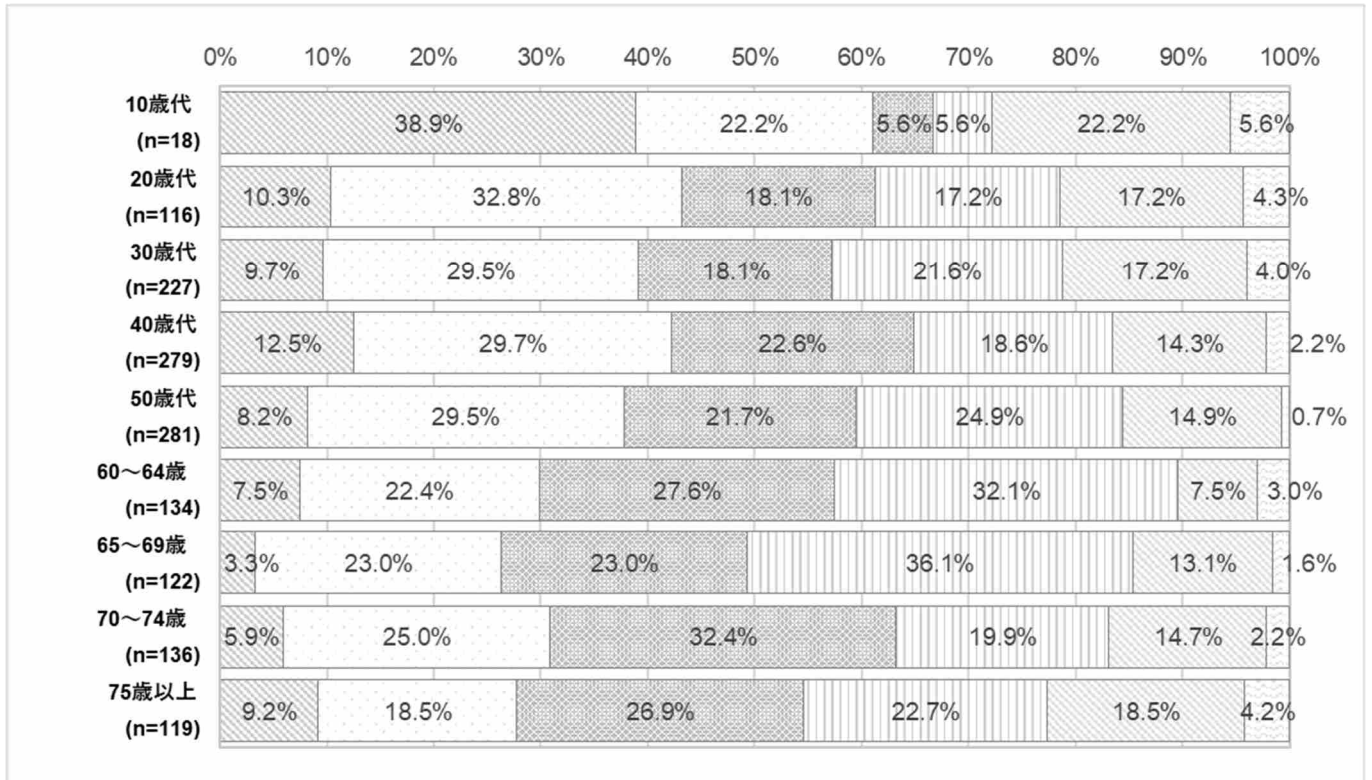
【地区別】

- ・「感じている/どちらかといえば感じている」は研究学園地区が50%を超えている。
- ・「感じていない/どちらかといえば感じていない」は荃崎地区が60%を超えている。



【年齢別】

- ・「感じている/どちらかといえば感じている」は10歳代が60%を超えている。
- ・「感じていない/どちらかといえば感じていない」は60～64歳、65～69歳で約60%と他の年代と比較して多い。



11 SDGs (持続可能な開発目標) について

問38 あなたのSDGsに関する認知度について、以下の選択肢の中から最も近いものを選んでください。

< は1つ >

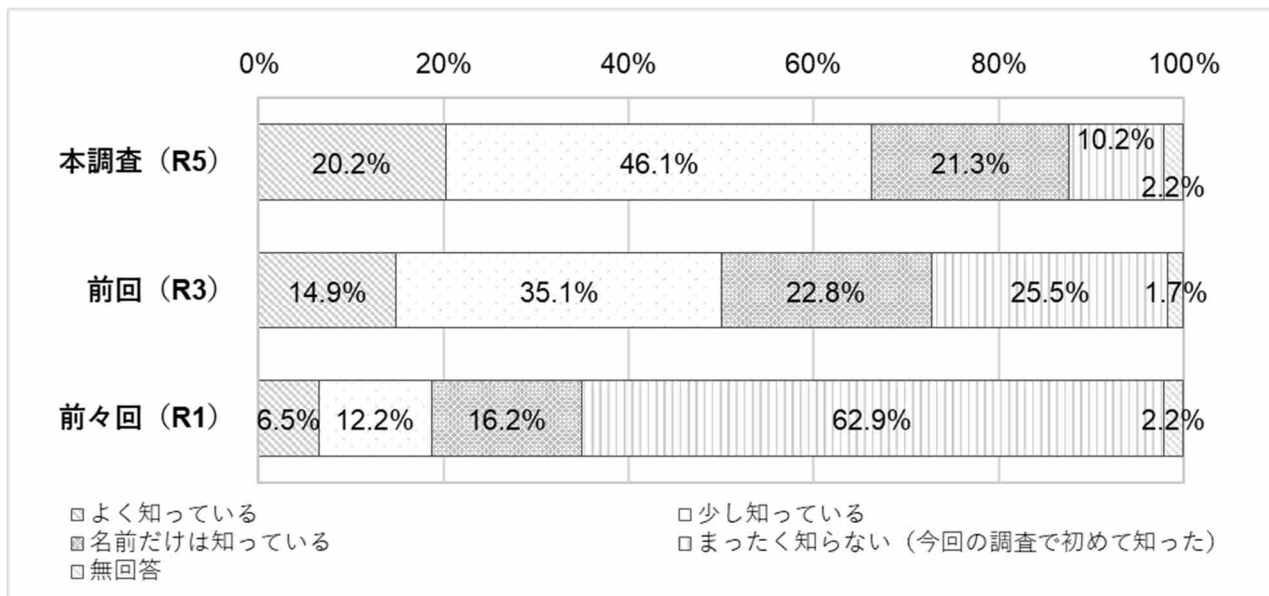
全体集計の結果

SDGsに関する認知度は、「少し知っている」が4割半ば

- SDGsに関する認知度については、「少し知っている」が667人(46.1%)で最も多く、「名前だけは知っている」が308人(21.3%)、「よく知っている」が293人(20.2%)、「まったく知らない(今回の調査で初めて知った)」が147人(10.2%)で続いている。

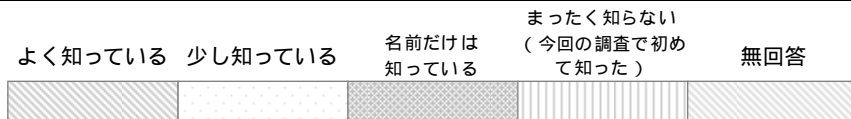
選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
よく知っている	293	20.2%	14.9%	6.5%
少し知っている	667	46.1%	35.1%	12.2%
名前だけは知っている	308	21.3%	22.8%	16.2%
まったく知らない(今回の調査で初めて知った)	147	10.2%	25.5%	62.9%
無回答	32	2.2%	1.7%	2.2%
全体	1,447	100.0%	100.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



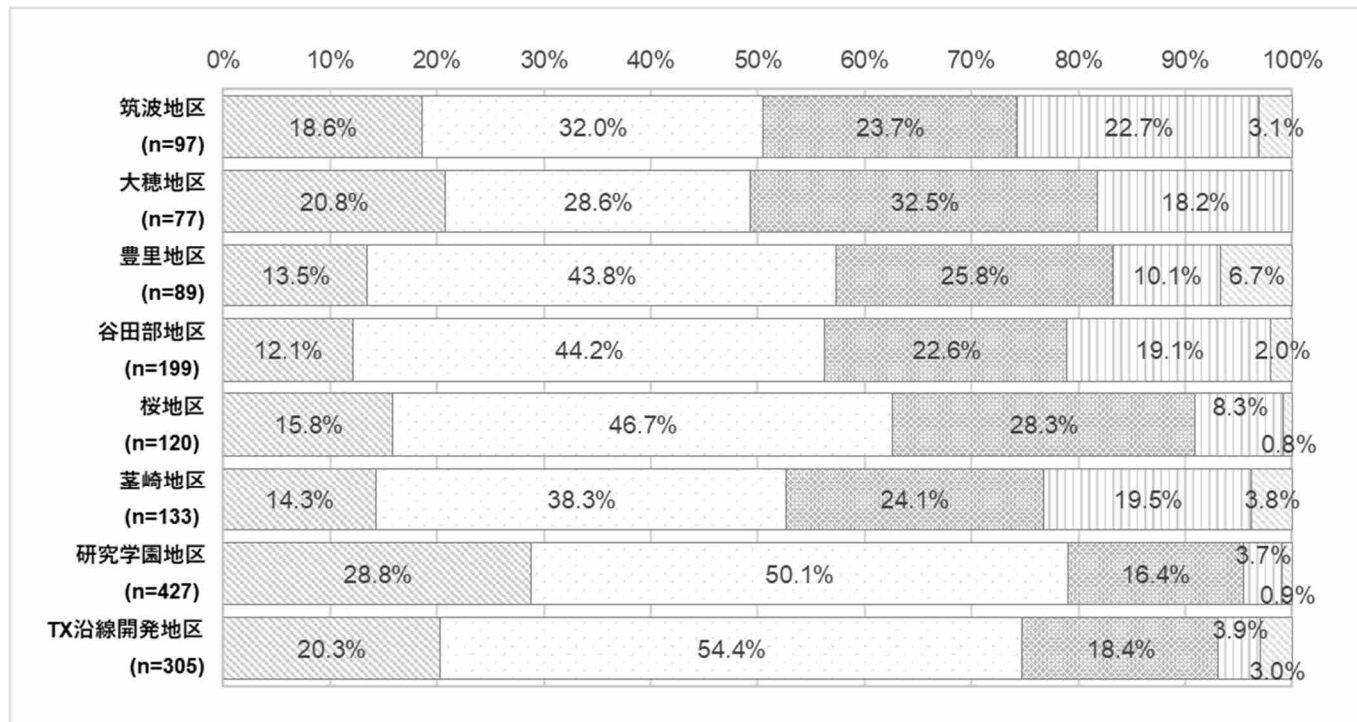
問 38 あなたの S D G s に関する認知度について、以下の選択肢の中から最も近いものを選んでください。
 < は 1 つ >

クロス集計



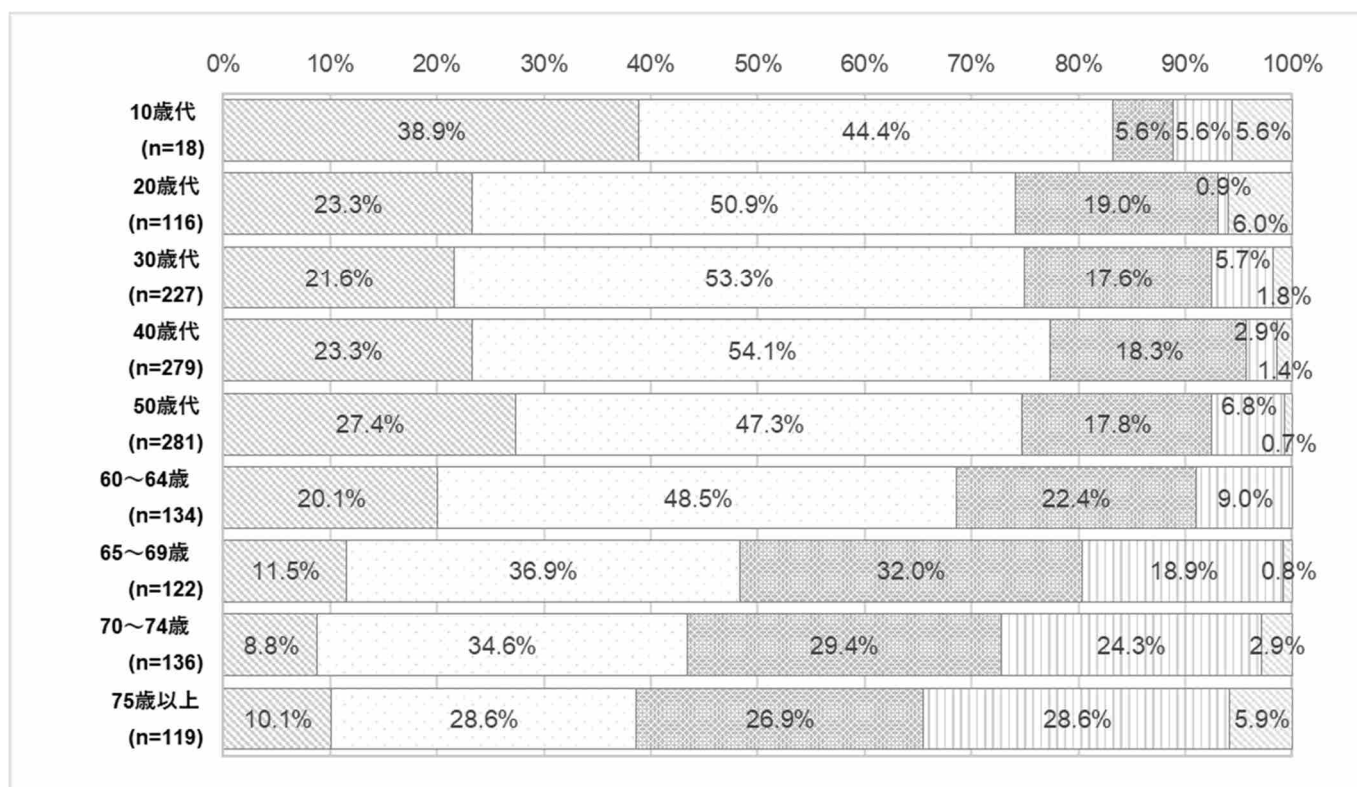
【地区別】

- ・大穂地区を除いた全ての地区で「少し知っている」の割合が最も多く、30%を超えている。
- ・大穂地区では「名前だけは知っている」の割合が32.5%で最も多くなっている。



【年齢別】

- ・10歳代から50歳代では「よく知っている/少し知っている」の割合が70%を超えており、10歳代では83.3%と最も多くなっている。
- ・75歳以上では「まったく知らない(今回の調査で初めて知った)」の割合が25%を超えている。



問 39 SDGs や持続可能都市に関することで、関心が高いものを選び、番号を以下の回答欄に3つまで記入してください。

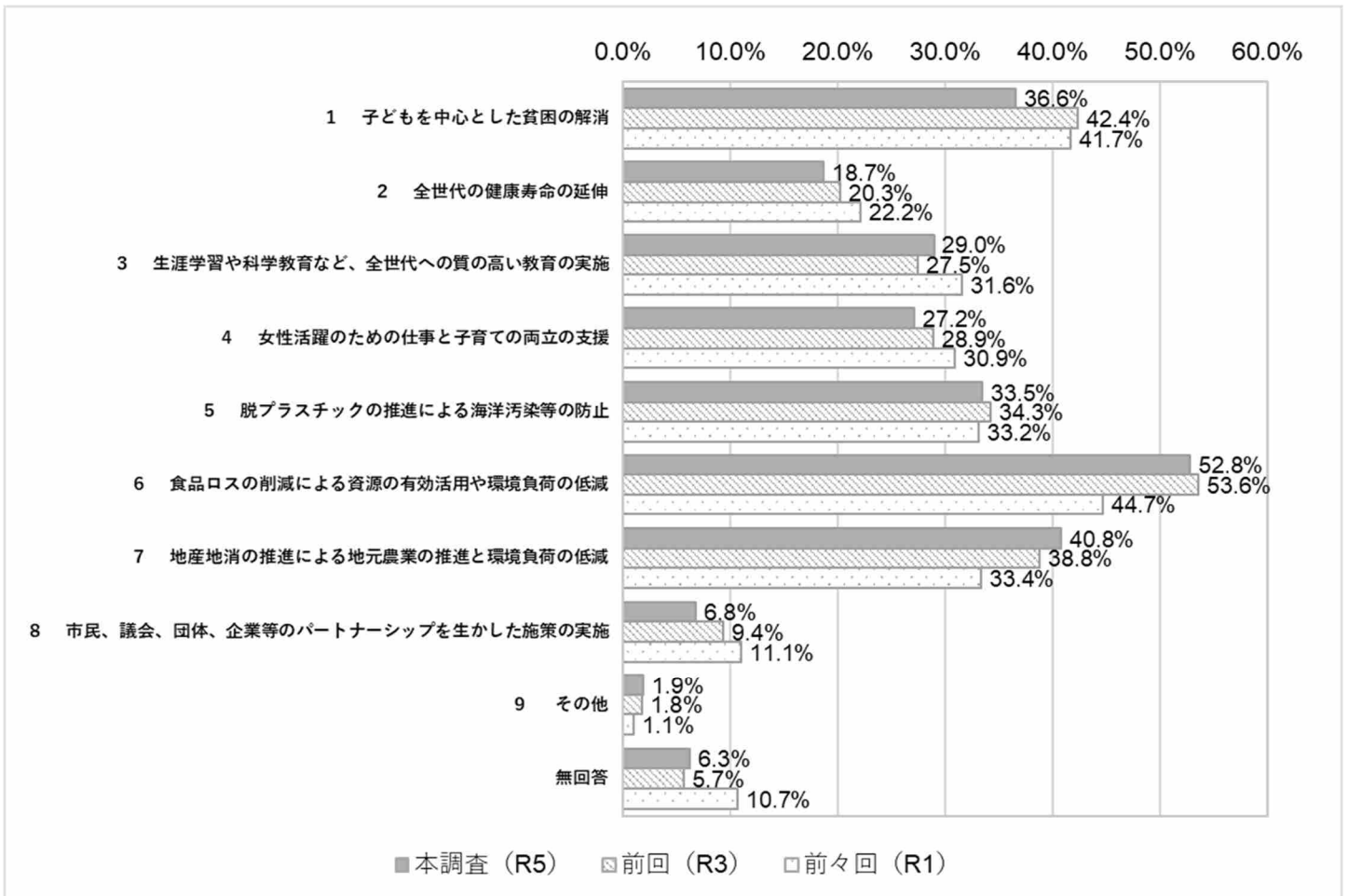
全体集計の結果

SDGs や持続可能都市に関することで関心が高いものは、「食品ロスの削減による資源の有効活用や環境負荷の低減」が約5割

・SDGs や持続可能都市に関することで関心が高いものは、「食品ロスの削減による資源の有効活用や環境負荷の低減」が764人(52.8%)で最も多く、「地産地消の推進による地元農業の推進と環境負荷の低減」が590人(40.8%)、「子どもを中心とした貧困の解消」が530人(36.6%)、「脱プラスチックの推進による海洋汚染等の防止」が485人(33.5%)で続いている。

選択肢	本調査 (R5)		前回 (R3)	前々回 (R1)
	回答数 (人)	構成比	構成比	構成比
1 子どもを中心とした貧困の解消	530	36.6%	42.4%	41.7%
2 全世代の健康寿命の延伸	271	18.7%	20.3%	22.2%
3 生涯学習や科学教育など、全世代への質の高い教育の実施	419	29.0%	27.5%	31.6%
4 女性活躍のための仕事と子育ての両立の支援	394	27.2%	28.9%	30.9%
5 脱プラスチックの推進による海洋汚染等の防止	485	33.5%	34.3%	33.2%
6 食品ロスの削減による資源の有効活用や環境負荷の低減	764	52.8%	53.6%	44.7%
7 地産地消の推進による地元農業の推進と環境負荷の低減	590	40.8%	38.8%	33.4%
8 市民、議会、団体、企業等のパートナーシップを生かした施策の実施	99	6.8%	9.4%	11.1%
9 その他	28	1.9%	1.8%	1.1%
無回答	91	6.3%	5.7%	10.7%
全体(有効回答数)	1,447			

< 過年度調査との比較 >



11

問 39 SDGs や持続可能都市に関することで、関心が高いものを選び、番号を以下の回答欄に3つまで記入してください。

クロス集計

【地区別】

・全ての地区で「食品ロスの削減による資源の有効活用や環境負担の低減」が最も多くなっている。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
筑波地区 (n=97)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	子どもを中心とした貧困の解消	女性活躍のための仕事と 子育ての両立の支援
	51 52.6%	42 43.3%	35 36.1%	29 29.9%	26 26.8%
大穂地区 (n=77)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	子どもを中心とした貧困の解消	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	全世代の健康寿命の延伸／生涯学習 や科学教育など、全世代への質の高い 教育の実施／女性活躍のための仕事 と子育ての両立の支援
	37 48.1%	30 39.0%	26 33.8%	24 31.2%	20 26.0%
豊里地区 (n=89)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	子どもを中心とした貧困の解消	女性活躍のための仕事と 子育ての両立の支援
	48 53.9%	40 44.9%	29 32.6%	27 30.3%	24 27.0%
谷田部地区 (n=199)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	子どもを中心とした貧困の解消	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	生涯学習や科学教育など、 全世代への質の高い教育の実施
	103 51.8%	79 39.7%	78 39.2%	63 31.7%	48 24.1%
桜地区 (n=120)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	子どもを中心とした貧困の解消	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	生涯学習や科学教育など、 全世代への質の高い教育の実施
	60 50.0%	54 45.0%	53 44.2%	43 35.8%	33 27.5%
荃崎地区 (n=133)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	子どもを中心とした貧困の解消	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	女性活躍のための仕事と 子育ての両立の支援
	76 57.1%	55 41.4%	48 36.1%	46 34.6%	38 28.6%
研究学園地区 (n=427)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	子どもを中心とした貧困の解消	生涯学習や科学教育など、 全世代への質の高い教育の実施	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止
	245 57.4%	191 44.7%	158 37.0%	146 34.2%	140 32.8%
TX沿線開発地区 (n=305)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	生涯学習や科学教育など、 全世代への質の高い教育の実施	子どもを中心とした貧困の解消	女性活躍のための仕事と子育ての両 立の支援／脱プラスチックの推進によ る海洋汚染等の防止
	144 47.2%	114 37.4%	112 36.7%	107 35.1%	94 30.8%

【年齢別】

・20歳代を除いた全ての年齢で「食品ロスの削減による資源の有効活用や環境負担の低減」が最も多くなっている。

・20歳代から40歳代では「子どもを中心とした貧困の解消」が上位に入っている。

回答順	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代 (n=18)	子どもを中心とした貧困の解消／食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	生涯学習や科学教育など、 全世代への質の高い教育の実施	女性活躍のための仕事と 子育ての両立の支援
	9 50.0%	8 44.4%	5 27.8%	4 22.2%	
20歳代 (n=116)	子どもを中心とした貧困の解消	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	女性活躍のための仕事と 子育ての両立の支援	生涯学習や科学教育など、 全世代への質の高い教育の実施	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減
	51 44.0%	47 40.5%	46 39.7%	42 36.2%	34 29.3%
30歳代 (n=227)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	子どもを中心とした貧困の解消	生涯学習や科学教育など、 全世代への質の高い教育の実施	女性活躍のための仕事と 子育ての両立の支援
	104 45.8%	89 39.2%	85 37.4%	83 36.6%	62 27.3%
40歳代 (n=279)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	子どもを中心とした貧困の解消	生涯学習や科学教育など、 全世代への質の高い教育の実施	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止
	155 55.6%	118 42.3%	117 41.9%	93 33.3%	83 29.7%
50歳代 (n=281)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	子どもを中心とした貧困の解消	生涯学習や科学教育など、 全世代への質の高い教育の実施
	153 54.4%	135 48.0%	98 34.9%	94 33.5%	87 31.0%
60～64歳 (n=134)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	子どもを中心とした貧困の解消	女性活躍のための仕事と 子育ての両立の支援
	84 62.7%	63 47.0%	56 41.8%	44 32.8%	34 25.4%
65～69歳 (n=122)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	子どもを中心とした貧困の解消	全世代の健康寿命の延伸／女性活躍 のための仕事と子育ての両立の支援
	69 56.6%	45 36.9%	43 35.2%	38 31.1%	33 27.0%
70～74歳 (n=136)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	子どもを中心とした貧困の解消	女性活躍のための仕事と 子育ての両立の支援
	80 58.8%	61 44.9%	56 41.2%	48 35.3%	35 25.7%
75歳以上 (n=119)	食品ロスの削減による 資源の有効活用や環境負担の低減	脱プラスチックの推進による 海洋汚染等の防止	地産地消の推進による 地元農業の推進と環境負担の低減	子どもを中心とした貧困の解消	女性活躍のための仕事と 子育ての両立の支援
	57 47.9%	49 41.2%	39 32.8%	38 31.9%	30 25.2%

12 幸福度について

問 40 あなたは、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、現在どの程度幸せだと思いますか。
あてはまる数字(点数)を選んでください。 < は1つ >

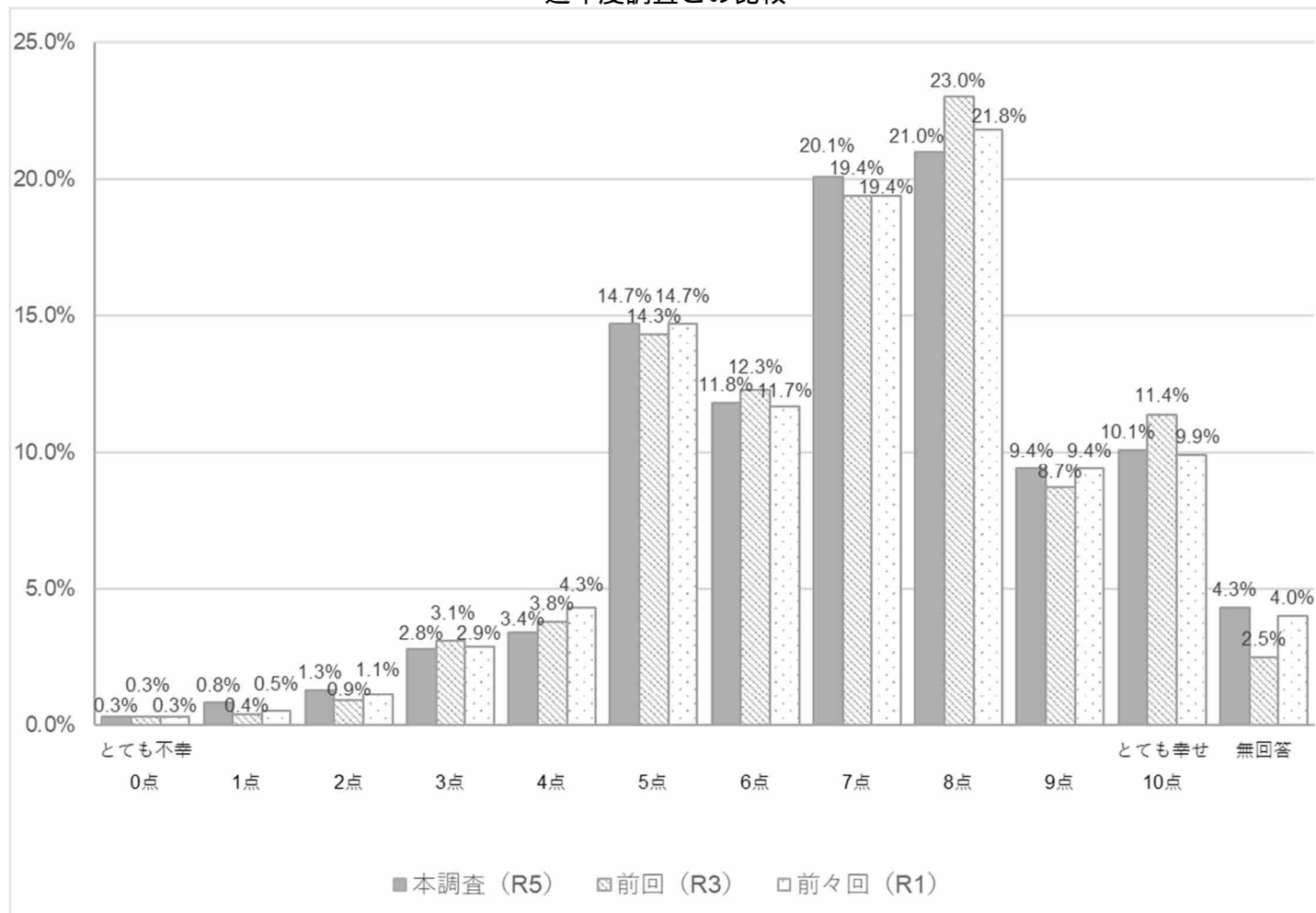
全体集計の結果

現在の幸福度は、全体の平均点は「6.94点」

・幸福度については、「8点」が304人(21.0%)で最も多く、「7点」が291人(20.1%)、「5点」が212人(14.7%)、「6点」が171人(11.8%)で続いている。

選択肢		ととも不幸 ←————→ ととも幸せ											無回答	全体
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点		
本調査(R5)	回答数(人)	5	12	19	40	49	212	171	291	304	136	146	62	1,447
	構成比	0.3%	0.8%	1.3%	2.8%	3.4%	14.7%	11.8%	20.1%	21.0%	9.4%	10.1%	4.3%	100.0%
前回(R3)	構成比	0.3%	0.4%	0.9%	3.1%	3.8%	14.3%	12.3%	19.4%	23.0%	8.7%	11.4%	2.5%	100.0%
前々回(R1)	構成比	0.3%	0.5%	1.1%	2.9%	4.3%	14.7%	11.7%	19.4%	21.8%	9.4%	9.9%	4.0%	100.0%

< 過年度調査との比較 >



1.2 幸福度について

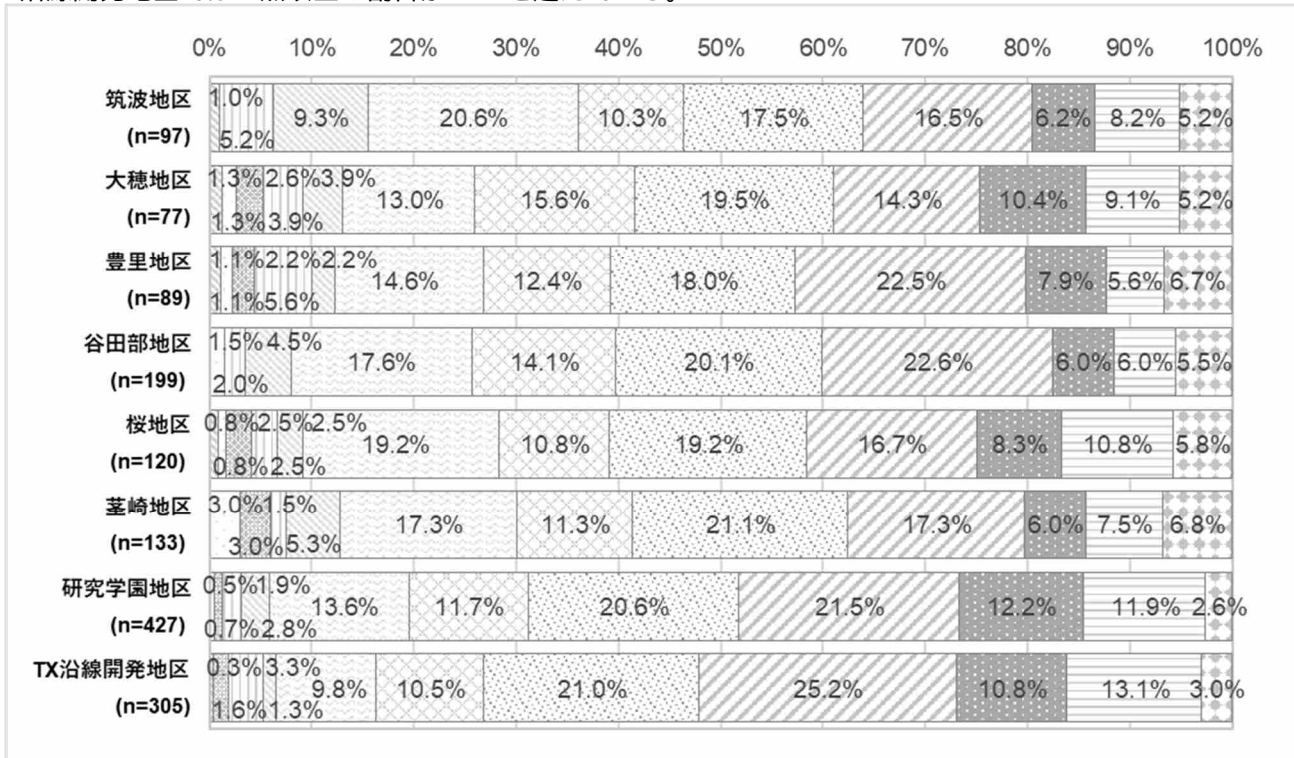
問 40 あなたは、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、現在どの程度幸せだと思いますか。
 あてはまる数字（点数）を選んでください。 < は1つ >

クロス集計



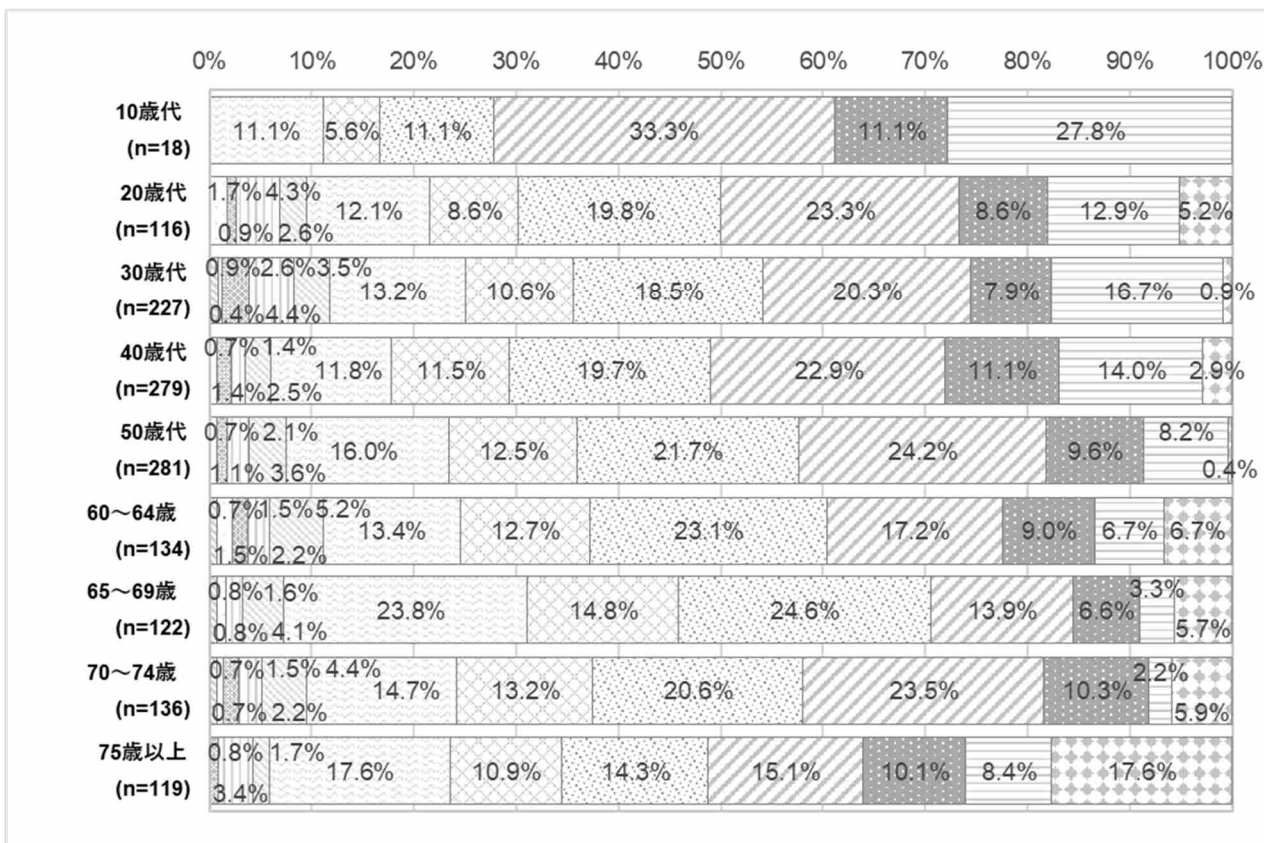
【地区別】

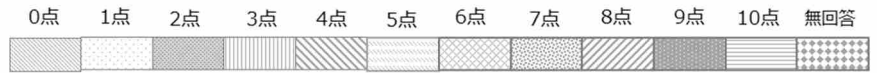
- ・筑波地区を除いた全ての地区で6点以上の割合が60%を超えている。
- ・TX沿線開発地区では6点以上の割合が80%を超えている。



【年齢別】

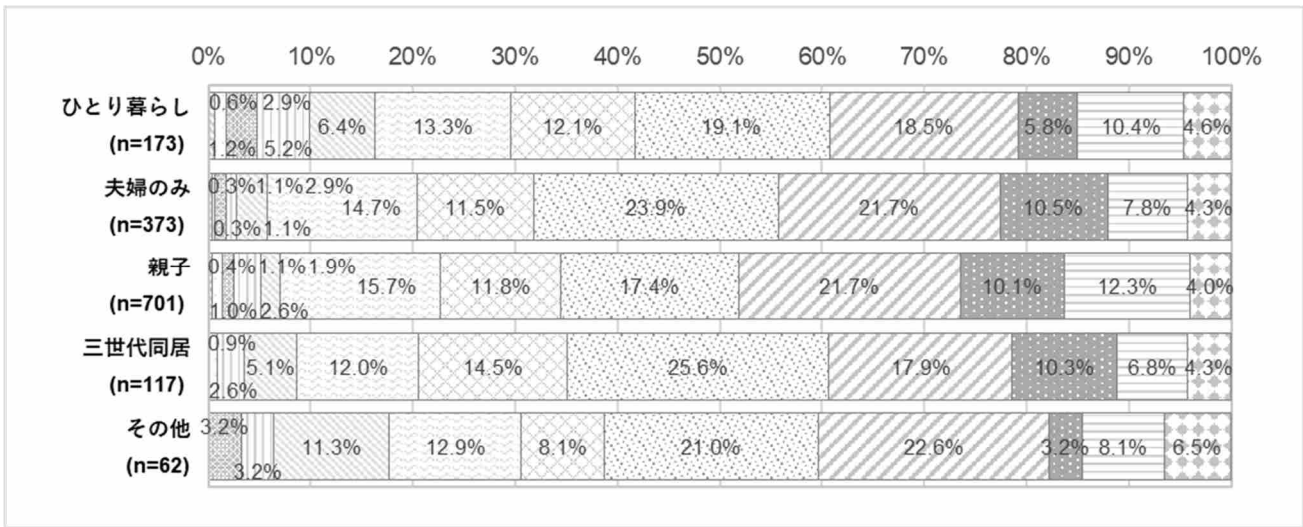
- ・75歳以上を除いた全ての年齢で6点以上の割合が60%を超えている。
- ・10歳代、20歳代、30歳代、40歳代では「9点/10点」の割合が20%を超えている。





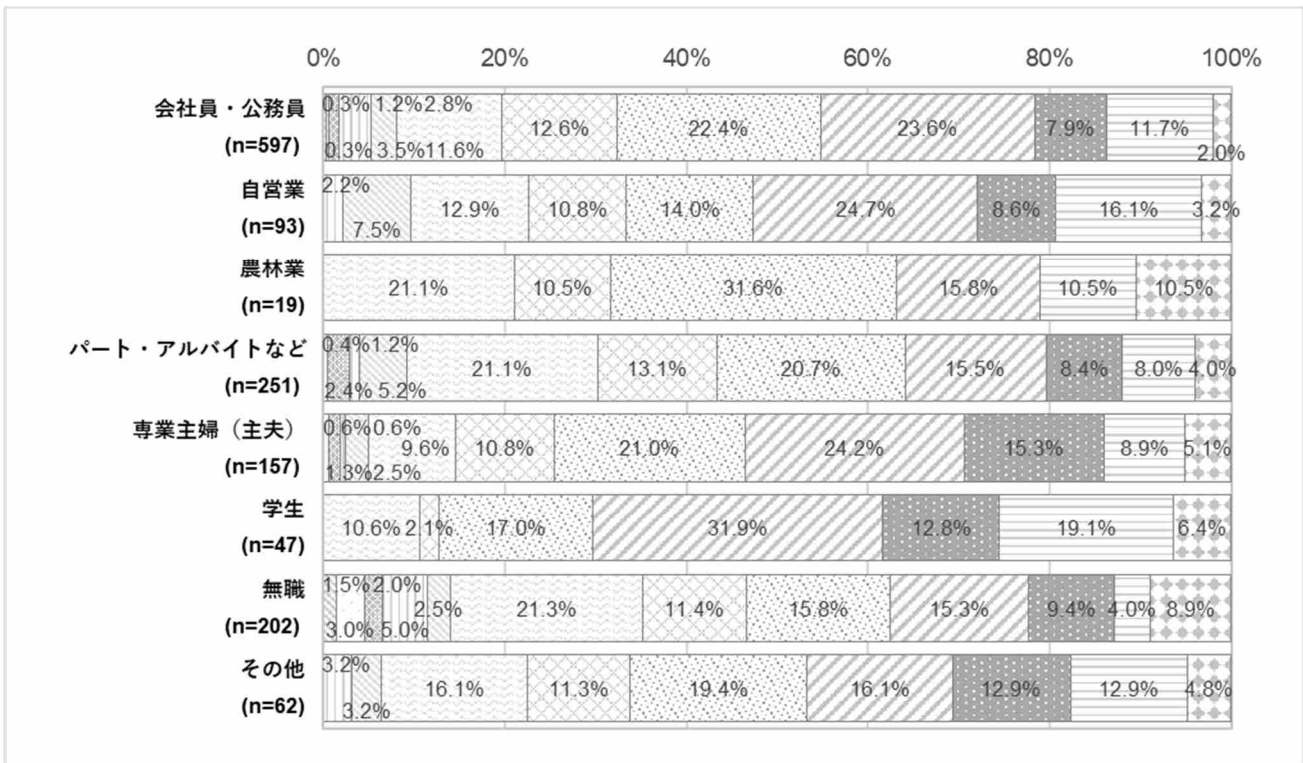
【世帯構成別】

- ・夫婦のみ、親子、三世同居では6点以上の割合が70%を超えている。
- ・ひとり暮らし、親子では10点の割合が10%を超えている。



【職業別】

- ・会社員・公務員、自営業、専業主婦（主夫）、学生、その他では6点以上の割合が70%を超えている。
- ・学生では10点の割合が19.1%で最も多くなっている。



問 41 あなたが、自分の幸福感を判断する際に特に重視することは何ですか。
 当てはまる番号を、右の回答欄に3つまで記入して下さい。

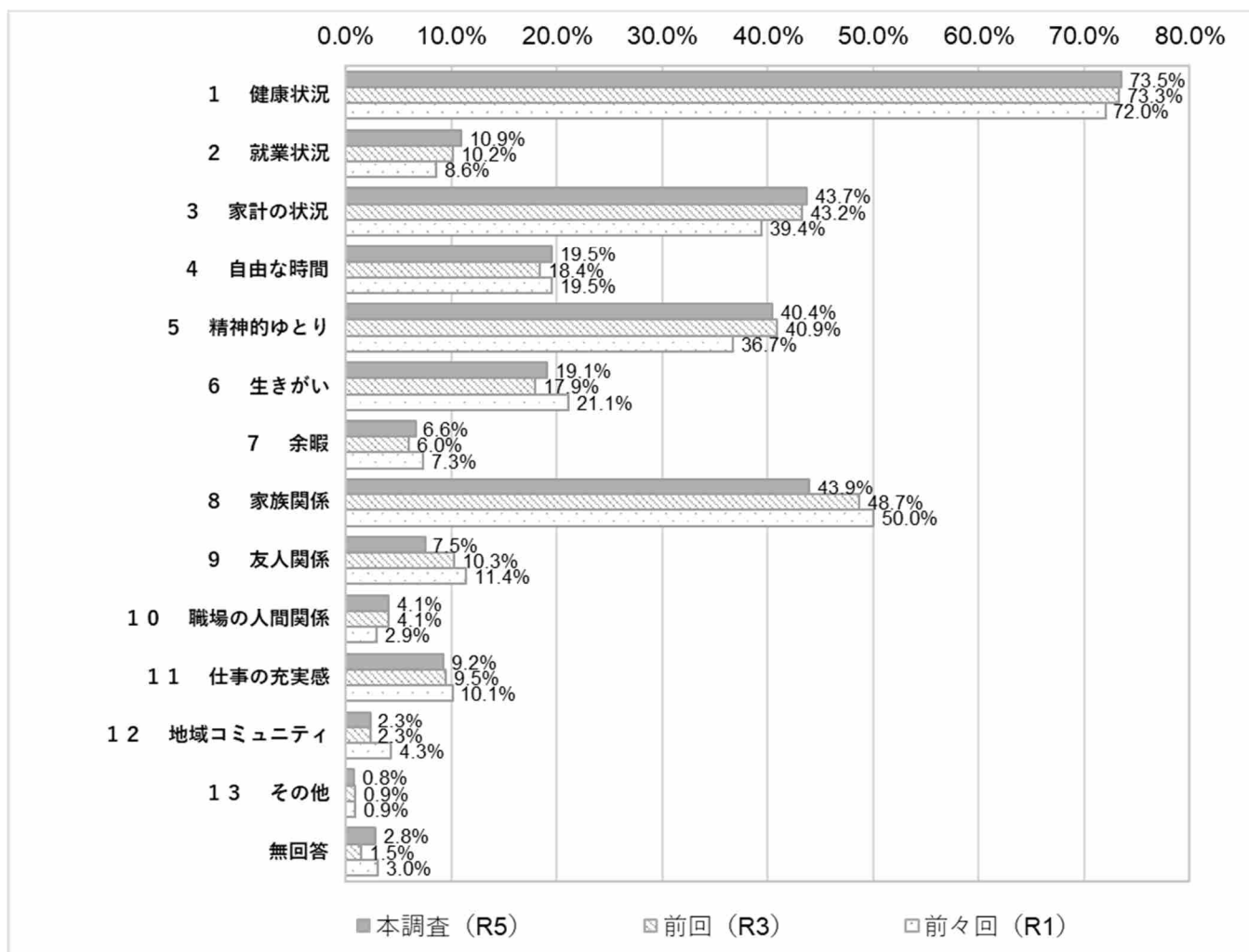
全体集計の結果

幸福度を判断する際に特に重視することは、「健康状況」が約7割

・幸福度を判断する際に特に重視することについては、「健康状況」が1,063人(73.5%)で最も多く、「家族関係」が635人(43.9%)、「家計の状況」が633人(43.7%)、「精神的ゆとり」が584人(40.4%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
1 健康状況	1,063	73.5%	73.3%	72.0%
2 就業状況	157	10.9%	10.2%	8.6%
3 家計の状況	633	43.7%	43.2%	39.4%
4 自由な時間	282	19.5%	18.4%	19.5%
5 精神的ゆとり	584	40.4%	40.9%	36.7%
6 生きがい	276	19.1%	17.9%	21.1%
7 余暇	95	6.6%	6.0%	7.3%
8 家族関係	635	43.9%	48.7%	50.0%
9 友人関係	108	7.5%	10.3%	11.4%
10 職場の人間関係	60	4.1%	4.1%	2.9%
11 仕事の充実感	133	9.2%	9.5%	10.1%
12 地域コミュニティ	34	2.3%	2.3%	4.3%
13 その他	11	0.8%	0.9%	0.9%
無回答	41	2.8%	1.5%	3.0%
全体(有効回答数)	1,447			

< 過年度調査との比較 (項目順) >



問 41 あなたが、自分の幸福感を判断する際に特に重視することは何ですか。
当てはまる番号を、右の回答欄に3つまで記入して下さい。

クロス集計

【地区別】

・全ての地区で「健康状況」が最も多く、「家族関係」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
筑波地区 (n=97)	健康状況		家族関係		家計の状況		精神的ゆとり		生きがい	
	69	71.1%	41	42.3%	39	40.2%	34	35.1%	24	24.7%
大穂地区 (n=77)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		自由な時間	
	52	67.5%	35	45.5%	32	41.6%	25	32.5%	19	24.7%
豊里地区 (n=89)	健康状況		家族関係		家計の状況／精神的ゆとり				自由な時間	
	61	68.5%	38	42.7%	33		37.1%		21	23.6%
谷田部地区 (n=199)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		生きがい	
	140	70.4%	89	44.7%	86	43.2%	75	37.7%	36	18.1%
桜地区 (n=120)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		自由な時間	
	90	75.0%	52	43.3%	51	42.5%	50	41.7%	21	17.5%
荃崎地区 (n=133)	健康状況		家計の状況／家族関係				精神的ゆとり		自由な時間	
	109	82.0%	57		42.9%		47	35.3%	30	22.6%
研究学園地区 (n=427)	健康状況		家族関係		精神的ゆとり		家計の状況		生きがい	
	322	75.4%	196	45.9%	189	44.3%	187	43.8%	90	21.1%
TX沿線開発地区 (n=305)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		自由な時間	
	220	72.1%	141	46.2%	134	43.9%	131	43.0%	60	19.7%

【年齢別】

・20歳代以外の全ての年齢で「健康状況」が最も多くなっている。20歳代では「精神的ゆとり」が最も多くなっている。

・10歳代から20歳代を除く全ての年齢で「家族関係」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
10歳代 (n=18)	健康状況／友人関係				自由な時間／精神的ゆとり				生きがい	
	9		50.0%		7		38.9%		6	
20歳代 (n=116)	精神的ゆとり		健康状況		家計の状況		自由な時間／家族関係			
	58	50.0%	55	47.4%	47	40.5%	32			
30歳代 (n=227)	健康状況		精神的ゆとり		家族関係		家計の状況		自由な時間	
	136	59.9%	105	46.3%	103	45.4%	96	42.3%	66	29.1%
40歳代 (n=279)	健康状況		家族関係		家計の状況		精神的ゆとり		自由な時間	
	196	70.3%	148	53.0%	129	46.2%	116	41.6%	49	17.6%
50歳代 (n=281)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		生きがい	
	218	77.6%	137	48.8%	124	44.1%	117	41.6%	45	16.0%
60～64歳 (n=134)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		生きがい	
	117	87.3%	57	42.5%	55	41.0%	54	40.3%	32	23.9%
65～69歳 (n=122)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		生きがい	
	98	80.3%	61	50.0%	50	41.0%	37	30.3%	21	17.2%
70～74歳 (n=136)	健康状況		家族関係		家計の状況		精神的ゆとり		生きがい	
	118	86.8%	65	47.8%	51	37.5%	46	33.8%	27	19.9%
75歳以上 (n=119)	健康状況		家計の状況／家族関係				精神的ゆとり		自由な時間／生きがい	
	106	89.1%	49		41.2%		37	31.1%	17	14.3%

【世帯構成別】

・全ての世帯構成で「健康状況」が最も多くなっており、「家計の状況」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
ひとり暮らし (n=173)	健康状況		精神的ゆとり		家計の状況		自由な時間		生きがい	
	111	64.2%	75	43.4%	68	39.3%	47	27.2%	45	26.0%
夫婦のみ (n=373)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		自由な時間	
	309	82.8%	184	49.3%	158	42.4%	152	40.8%	72	19.3%
親子 (n=701)	健康状況		家族関係		家計の状況		精神的ゆとり		生きがい	
	502	71.6%	349	49.8%	297	42.4%	276	39.4%	145	20.7%
三世代同居 (n=117)	健康状況		家族関係		家計の状況		精神的ゆとり		自由な時間	
	76	65.0%	68	58.1%	52	44.4%	45	38.5%	25	21.4%
その他 (n=62)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		就業状況／自由な時間	
	49	79.0%	28	45.2%	26	41.9%	25	40.3%	8	12.9%

【職業別】

・全ての職業で「健康状況」が最も多くなっている。
 ・学生以外の全ての職業で「家族関係」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
会社員・公務員 (n=597)	健康状況		家族関係		家計の状況		精神的ゆとり		自由な時間	
	399	66.8%	259	43.4%	258	43.2%	251	42.0%	123	20.6%
自営業 (n=93)	健康状況		家族関係		家計の状況		精神的ゆとり		仕事の充実感	
	63	67.7%	42	45.2%	41	44.1%	40	43.0%	21	22.6%
農林業 (n=19)	健康状況		精神的ゆとり		家族関係		家計の状況		生きがい	
	15	78.9%	9	47.4%	8	42.1%	7	36.8%	4	21.1%
パート・アルバイト など (n=251)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		自由な時間	
	189	75.3%	124	49.4%	105	41.8%	100	39.8%	52	20.7%
専業主婦(主夫) (n=157)	健康状況		家族関係		家計の状況		精神的ゆとり		生きがい	
	136	86.6%	80	51.0%	78	49.7%	64	40.8%	31	19.7%
学生 (n=47)	健康状況		精神的ゆとり		生きがい		家族関係		自由な時間／友人関係	
	27	57.4%	21	44.7%	17	36.2%	14	29.8%	12	25.5%
無職 (n=202)	健康状況		家族関係		家計の状況		精神的ゆとり		生きがい	
	174	86.1%	94	46.5%	87	43.1%	68	33.7%	38	18.8%
その他 (n=62)	健康状況		家計の状況		家族関係		精神的ゆとり		就業状況／自由な時間	
	46	74.2%	26	41.9%	25	40.3%	22	35.5%	12	19.4%

問42 あなたは、心配ごとや困っていることはありますか。

< は当てはまるものすべて >

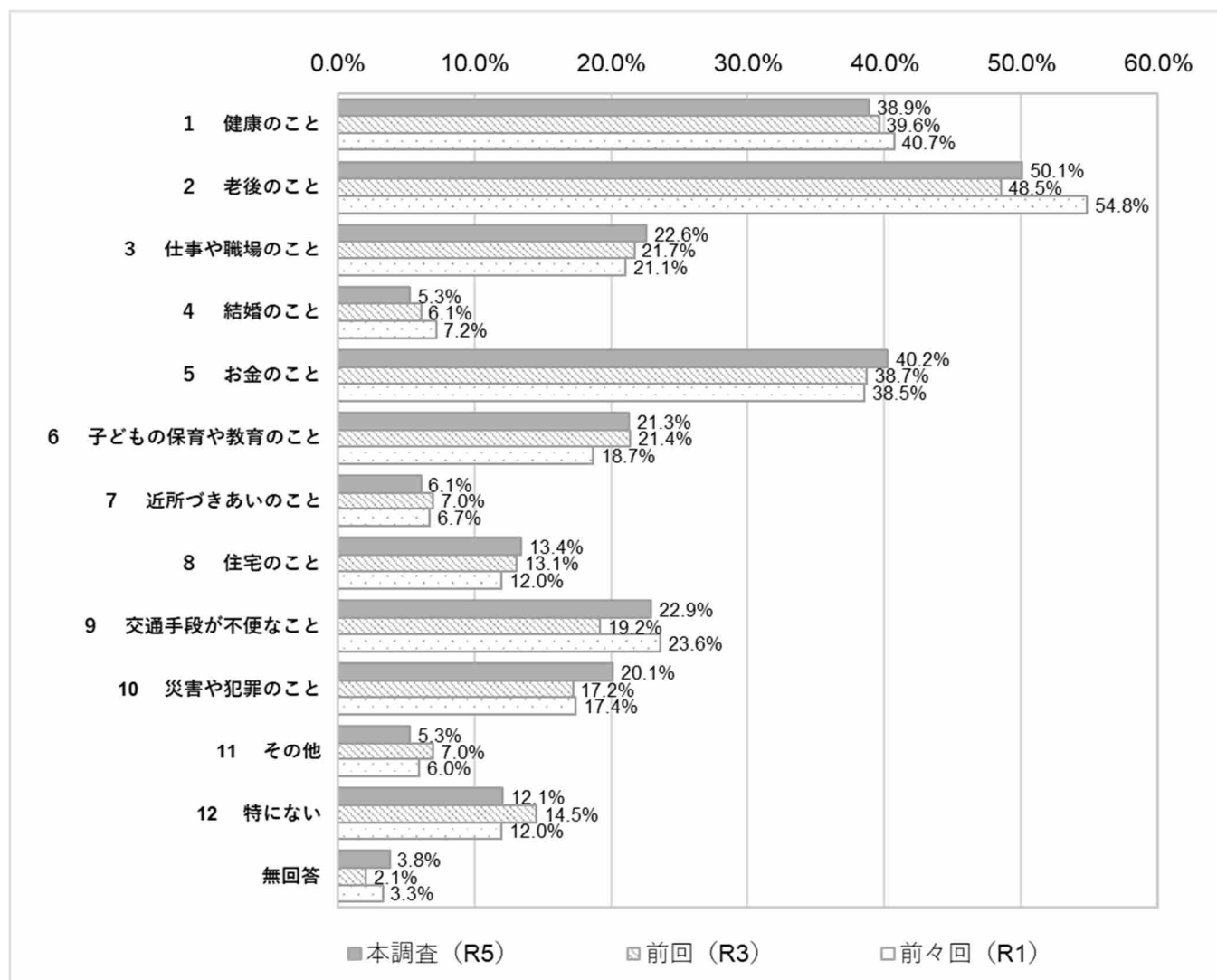
全体集計の結果

心配事や困っていることは、「老後のこと」が約5割

- ・心配事や困っていることについては、「老後のこと」が725人(50.1%)で最も多く、「お金のこと」が581人(40.2%)、「健康のこと」が563人(38.9%)、「交通手段が不便なこと」が332人(22.9%)で続いている。

選択肢	本調査(R5)		前回(R3)	前々回(R1)
	回答数(人)	構成比	構成比	構成比
1 健康のこと	563	38.9%	39.6%	40.7%
2 老後のこと	725	50.1%	48.5%	54.8%
3 仕事や職場のこと	327	22.6%	21.7%	21.1%
4 結婚のこと	77	5.3%	6.1%	7.2%
5 お金のこと	581	40.2%	38.7%	38.5%
6 子どもの保育や教育のこと	308	21.3%	21.4%	18.7%
7 近所づきあいのこと	88	6.1%	7.0%	6.7%
8 住宅のこと	194	13.4%	13.1%	12.0%
9 交通手段が不便なこと	332	22.9%	19.2%	23.6%
10 災害や犯罪のこと	291	20.1%	17.2%	17.4%
11 その他	77	5.3%	7.0%	6.0%
12 特にない	175	12.1%	14.5%	12.0%
無回答	55	3.8%	2.1%	3.3%
全体(有効回答数)	1,447			

< 過年度調査との比較(項目順) >



問42 あなたは、心配ごとや困っていることはありますか。 < は当てはまるものすべて >

クロス集計

【地区別】

・全ての地区で「老後のこと」が最も多く、「お金のこと」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位		
筑波地区 (n=97)	老後のこと		健康のこと		お金のこと		交通手段が不便なこと		災害や犯罪のこと		
	56	57.7%	51	52.6%	37	38.1%	36	37.1%	31	32.0%	
大穂地区 (n=77)	老後のこと／お金のこと				健康のこと		交通手段が不便なこと		子どもの保育や教育のこと／ 災害や犯罪のこと		
	36		46.8%		34		44.2%		22		28.6%
豊里地区 (n=89)	老後のこと		お金のこと		健康のこと		仕事や職場のこと		災害や犯罪のこと		
	49	55.1%	46	51.7%	42	47.2%	29	32.6%	26	29.2%	
谷田部地区 (n=199)	老後のこと		お金のこと		健康のこと		交通手段が不便なこと		仕事や職場のこと／ 災害や犯罪のこと		
	103	51.8%	90	45.2%	79	39.7%	43	21.6%	42	21.1%	
桜地区 (n=120)	老後のこと		健康のこと		お金のこと		交通手段が不便なこと		災害や犯罪のこと		
	66	55.0%	53	44.2%	52	43.3%	32	26.7%	27	22.5%	
荃崎地区 (n=133)	老後のこと		健康のこと		お金のこと		交通手段が不便なこと		災害や犯罪のこと		
	83	62.4%	61	45.9%	49	36.8%	48	36.1%	22	16.5%	
研究学園地区 (n=427)	老後のこと		健康のこと		お金のこと		仕事や職場のこと		子どもの保育や教育のこと		
	197	46.1%	149	34.9%	147	34.4%	99	23.2%	81	19.0%	
TX沿線開発地区 (n=305)	老後のこと		お金のこと		子どもの保育や教育のこと		健康のこと		仕事や職場のこと		
	135	44.3%	124	40.7%	114	37.4%	94	30.8%	87	28.5%	

【年齢別】

・10歳代では「特にない」、20歳代から30歳代では「お金のこと」、40歳代から70～74歳では「老後のこと」、75歳以上では「健康のこと」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
10歳代 (n=18)	特にない		仕事や職場のこと		健康のこと／結婚のこと／お金のこと					
	7	38.9%	6	33.3%	4					
20歳代 (n=116)	お金のこと		仕事や職場のこと		老後のこと		健康のこと		子どもの保育や教育のこと	
	63	54.3%	52	44.8%	30	25.9%	29	25.0%	28	24.1%
30歳代 (n=227)	お金のこと		子どもの保育や教育のこと		老後のこと		仕事や職場のこと		健康のこと	
	119	52.4%	98	43.2%	88	38.8%	79	34.8%	69	30.4%
40歳代 (n=279)	老後のこと		お金のこと		子どもの保育や教育のこと		仕事や職場のこと		健康のこと	
	145	52.0%	129	46.2%	111	39.8%	96	34.4%	95	34.1%
50歳代 (n=281)	老後のこと		健康のこと		お金のこと		交通手段が不便なこと		災害や犯罪のこと	
	178	63.3%	113	40.2%	112	39.9%	64	22.8%	59	21.0%
60～64歳 (n=134)	老後のこと		健康のこと		交通手段が不便なこと		お金のこと		災害や犯罪のこと	
	77	57.5%	54	40.3%	36	26.9%	35	26.1%	30	22.4%
65～69歳 (n=122)	老後のこと		健康のこと		お金のこと		交通手段が不便なこと		災害や犯罪のこと	
	75	61.5%	69	56.6%	45	36.9%	31	25.4%	30	24.6%
70～74歳 (n=136)	老後のこと		健康のこと		交通手段が不便なこと		お金のこと		災害や犯罪のこと	
	72	52.9%	66	48.5%	42	30.9%	35	25.7%	25	18.4%
75歳以上 (n=119)	健康のこと		老後のこと		交通手段が不便なこと		お金のこと		災害や犯罪のこと	
	59	49.6%	49	41.2%	43	36.1%	32	26.9%	26	21.8%

【世帯構成別】

・全ての世帯構成で「老後のこと」が最も多く、「健康のこと」「お金のこと」が上位に入っている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
ひとり暮らし (n=173)	老後のこと		お金のこと		健康のこと		交通手段が不便なこと		仕事や職場のこと	
	98	56.6%	72	41.6%	66	38.2%	42	24.3%	40	23.1%
夫婦のみ (n=373)	老後のこと		健康のこと		お金のこと		交通手段が不便なこと／災害や犯罪のこと			
	203	54.4%	167	44.8%	132	35.4%	89		23.9%	
親子 (n=701)	老後のこと		お金のこと		健康のこと		子どもの保育や教育のこと		仕事や職場のこと	
	317	45.2%	287	40.9%	248	35.4%	235	33.5%	184	26.2%
三世帯同居 (n=117)	老後のこと		お金のこと		健康のこと		交通手段が不便なこと		子どもの保育や教育のこと	
	58	49.6%	51	43.6%	45	38.5%	34	29.1%	31	26.5%
その他 (n=62)	老後のこと		お金のこと		健康のこと		交通手段が不便なこと		仕事や職場のこと	
	34	54.8%	28	45.2%	26	41.9%	16	25.8%	15	24.2%

【住まい別】

・社宅・官舎、その他を除いた全ての住まいで「老後のこと」が最も多く、「健康のこと」「お金のこと」が上位に入っている。

・社宅・官舎、その他では「お金のこと」が最も多くなっている。

回答順	1位		2位		3位		4位		5位	
一戸建(持ち家) (n=969)	老後のこと		健康のこと		お金のこと		交通手段が不便なこと		災害や犯罪のこと	
	481	49.6%	403	41.6%	369	38.1%	253	26.1%	209	21.6%
一戸建(借家) (n=24)	老後のこと		お金のこと		健康のこと		仕事や職場のこと		子どもの保育や教育のこと	
	16	66.7%	12	50.0%	11	45.8%	8	33.3%	7	29.2%
集合住宅(分譲) (n=127)	老後のこと		お金のこと		健康のこと		仕事や職場のこと		特にない	
	61	48.0%	39	30.7%	37	29.1%	28	22.0%	27	21.3%
集合住宅(賃貸) (n=251)	老後のこと		お金のこと		健康のこと／仕事や職場のこと				住宅のこと	
	120	47.8%	118	47.0%					64	
公営住宅(公社・ 県営・市営) (n=20)	老後のこと		健康のこと		お金のこと		住宅のこと		仕事や職場のこと	
	13	65.0%	10	50.0%	8	40.0%	7	35.0%	5	25.0%
社宅・官舎 (n=25)	お金のこと		老後のこと		仕事や職場のこと		健康のこと		住宅のこと	
	15	60.0%	13	52.0%	12	48.0%	10	40.0%	8	32.0%
その他 (n=10)	お金のこと		健康のこと／老後のこと／仕事や職場のこと／交通手段が不便なこと							
	8	80.0%			5				50.0%	

13 自由意見

(1) 記入者数と意見数

自由意見として、全回答者1,447人のうち、407人(28.1%)から588件の意見があった。

1人で複数の意見を記入している場合は、内容ごとに分けて集計した。

(2) つくば市未来構想に基づく意見の集計

「つくば市未来構想」の4つのまちづくりの理念ごとに集計し、いずれにも入らないものは「その他」として集計している。複数人からあった意見を「主な意見」として記載した。

理念ごとに見ると、「誰もが自分らしく生きるまち」に関する意見が最も多く、次いで「魅力をみんなで創るまち」に関する意見が多くなっている。

項目ごとに見ると、「市民のために科学技術をいかすまち」の「行政運営」に関する意見が最も多く、次いで「誰もが自分らしく生きるまち」の「公共交通」、「未来をつくる人が育つまち」の「教育」に関する意見が多くなっている。

魅力をみんなで創るまち

()は意見数

項目	主な意見(要約)
地域コミュニティ(40)	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の新設・整備、整備の拡充。 ・図書館の新設・設備・整備の拡充。 ・区会業務への支援。 など
農業振興(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・従来からあった農業の維持。 など
観光振興(10)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光PRが不足している。 ・観光施設の老朽化対策をしてほしい。 ・観光振興のための交通網改善。 など
スポーツ・レクリエーション・イベント(18)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設を増やしてほしい。老朽化対策もしてほしい。 ・科学とふれあうイベントを開催してほしい。 ・様々なジャンルの、全世代の興味を惹くようなイベント開催してほしい。 など
中心市街地活性化(34)	<ul style="list-style-type: none"> ・中心部と周辺地域との開発・整備の格差が大きい。 ・つくば駅周辺の開発・整備に力を入れて欲しい。 ・大型マンション乱立への不満。 など
情報発信(20)	<ul style="list-style-type: none"> ・市の取組が見えないため、市民が分かりやすいように情報発信して欲しい。 ・市の広報紙を、もっと充実させて欲しい。 ・SNS等をもっと活用してほしい。 など

誰もが自分らしく生きるまち

項目		主な意見(要約)
高齢者福祉(17)	高齢者の生活環境支援(16)	<ul style="list-style-type: none"> ・運転免許返納後の支援が不足している。 ・高齢者支援が充実していない。 ・高齢者の参加できる地方のサロンなどを増やしてほしい。 など
	介護(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護を充実させてほしい。 など
医療・健康診断(6)		<ul style="list-style-type: none"> ・受診を希望する科を標榜する医療機関が少ない。 ・かかりつけとするための個人医院が少ない。 など
障害・福祉(4)		<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者支援に詳しい人材を支援業務に回してほしい。 ・福祉をもっと充実させてほしい。 など
防災対策(2)		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災に関する協力体制をつくりたい。 ・災害の際にペットと避難できる場所を確保してほしい。 など
防犯(21)	街路灯整備(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯がとてもしないため、安全のためにも街灯を設置して欲しい。 ・街灯があっても、灯りがつかない。 ・夜は暗くて怖い。 など
	防犯対策(9)	<ul style="list-style-type: none"> ・交番や監視カメラの設置、パトロール等の防犯対策を強化して欲しい。 ・人口増加等で犯罪増加、事故の多角化の懸念。 ・空き巣・車の盗難が多い。 ・空き家や廃墟が多く、防犯面が不安である。 など
都市計画(47)	景観(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝も夜も景色が美しい。 ・マンションや大型商業施設の誘致によって、景観を損ねている。 ・放置されている廃校、官舎を整備してほしい。 など
	公園・緑地(16)	<ul style="list-style-type: none"> ・洞峰公園のグランピング誘致計画が中止されて良かった。 ・公園が多く、住みやすい。 ・公園、遊具が古く、整備されていない。 など
	都市計画全般(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所が撤退して、物流配送センターに変わっていくのが不満。 ・調整区域が多く、土地が無駄になっている。 ・国内、海外に限らず大企業の研究機関を誘致し、国内でのスマートシティのモデルシティにしてほしい。 など
上下水道(5)	上下水道整備(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・水道水が臭い。 ・下水道が整備されていない。 など
	上下水道料金(0)	意見なし
道路整備・維持管理(27)	道路整備(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の整備状況が悪い。整備してほしい。 ・道路の白線が消えていて危険。 ・歩道が確保されていない道や整備されていない道が多い。 など
	道路環境(8)	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹や雑草等が運転の妨げになっていて、危ない。 など
公共交通(56)	バス・タクシー(16)	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの経路を拡充し、本数やバス停を増やして欲しい。 ・バスの時間帯を見直してほしい。 ・中学校にもバス通学導入を検討してほしい。 など
	つくばエクスプレス(10)	<ul style="list-style-type: none"> ・つくばエクスプレスを延伸してほしい。 ・つくばエクスプレスの停車駅を減らしてほしい、延伸しないでほしい。 ・つくばエクスプレスの料金を安くして欲しい。 など
	公共交通網(30)	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通をの拡充を検討してほしい。 ・車がないと生活が不便である。 ・駅までバスが走っていない、走らなくなった。 など
自動車・自転車交通(27)	自動車交通(20)	<ul style="list-style-type: none"> ・車の運転マナーが悪い。 ・交通量が多く、自動車渋滞が多い。 ・車線が不足している。 など
	自転車交通(7)	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車専用道路の整備が不十分である。 ・自転車のマナーが悪い。 など
自然環境の保全(1)		<ul style="list-style-type: none"> ・原生林をもう少し残した都市開発をしてほしい。

1 3 自由意見

未来をつくる人が育つまち

項目		主な意見(要約)
子育て(28)		<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯への支援が不足している。 ・保育園や児童館等の施設が少ない。 ・子育てしやすい環境づくりをしてほしい。 ・他自治体で実施されている支援を参考にしてほしい。 など
教育(52)	学校施設(31)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校を増やしてほしい。 ・校舎が老朽化している。 ・中間層を受け入れる高校が少ない。 ・学校整備に地域格差がある。 など
	教育環境(21)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境が充実している。 ・教育現場の人材が不足している。 ・地域格差等なく教育環境を充実させて欲しい。 ・どの層の子どもも平等に教育を受けられると良い。 など
国際化の推進(13)		<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に住む外国人の生活態度に不満がある。 ・外国人居住者に対する支援の充実。 など

市民のために科学技術をいかすまち

項目		主な意見(要約)
科学技術振興(1)		<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットと人間が共存する街にしてほしい。
商業振興(26)		<ul style="list-style-type: none"> ・商業、娯楽施設を誘致してほしい。 ・商業施設が老朽化している。 ・小さな会社が発展できない。 など
雇用対策(1)		<ul style="list-style-type: none"> ・資格を活かした仕事に就けない。
行政運営(57)	行政サービス(18)	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンを持たない人にも手続き手段を確保してほしい。 ・窓口の時間短縮等、働く世代に優しくない。 など
	行財政改革(39)	<ul style="list-style-type: none"> ・税金が高い。 ・税金の無駄遣いを減らしてほしい。 ・恩恵を受けていると感じない。 など
生活環境(21)		<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民の騒音に悩んでいる。 ・公園の雑草が多いことが不満。 ・バイクや車の騒音が改善されない。 など

その他

項目		主な意見(要約)
アンケート(25)		<ul style="list-style-type: none"> ・今後もアンケートを行ってほしい。 ・項目への不満。 ・質問数が多い。 など
つくば市について(26)		<ul style="list-style-type: none"> ・とても住みやすい。より住みやすい街になってほしい。 ・都会と自然とが共存しているところに魅力がある。 ・市政の柔軟な対応が魅力。 など

Ⅲ 調査票

令和5年(2023年)度つくば市民意識調査

《アンケートご協力をお願い》

つくば市では市民の皆様、市の現状やまちづくりの取組に対する満足度、及び市が進める主要な施策に対するご意見をお伺いするために、市民意識調査を実施いたします。

この調査の集計結果は、今後の市政を進める基礎資料とし、「つくば市に住んでいて本当によかった、これからもつくば市に住み続けたい」と思えるまちづくりを、皆様と実現していきたいと考えております。

調査の趣旨をご理解いただき、本調査にご協力をお願いいたします。

令和5年(2023年)8月

つくば市長 五十嵐立青



8月31日(木)までに、ご回答をお願いします。

スマホまたはパソコンを持っていますか？

はい → インターネットで回答 ログインパスワード:

 ◀◀ アクセスはこちらから
※ログインパスワードを入力してアンケートに回答してください。
<専用ウェブサイト URL>
<https://medivoice2.jp/index.php/351763> 

いいえ → 紙の調査票で回答

調査票に回答を記入し、同封の返信用封筒(切手不要)に入れてポストに投函してください

◆◆調査票のご記入にあたって◆◆

- ・本調査票は、2年に一度、住民基本台帳から無作為抽出したつくば市在住の18歳以上の方3,000人を対象にご協力をお願いするものです。
- ・調査の回答は、あて名のご本人が行ってください。それが難しい場合は、ご家族の方がお答えいただいても結構です。
- ・調査結果は、広報つくば、市ホームページで公表いたします。
- ・お名前やご連絡先をご記入いただく必要はございません。すべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、他の目的には利用いたしません。
- ・ウェブ回答との重複を防ぐため、調査票ごとにIDを設定しておりますが、ランダムに付与しており回答者個人を特定できないようにしています。また、返信用封筒の受取人あて先の下にある「バーコード」は料金受取人払のために郵便局が使用するもので、個人を特定するためのものではありません。

〈お問合せ先〉

つくば市政策イノベーション部統計・データ利活用推進室
TEL 029-883-1111 (代表) 内線 6281 FAX 029-828-4708

あなたご自身のことについて

お答えは、当てはまる番号に○印をつけてください。

- 1 あなたの性別を教えてください。いずれにもあてはまらないと考える場合は○印をつけなくても差し支えありません。 <○は1つ>

1 男性	2 女性
------	------

- 2 あなたの年齢を教えてください。 <○は1つ>

1 10歳代	4 40歳代	7 65～69歳
2 20歳代	5 50歳代	8 70～74歳
3 30歳代	6 60～64歳	9 75歳以上

- 3 あなたの世帯構成を教えてください。 <○は1つ>

1 ひとり暮らし	4 三世帯同居
2 夫婦のみ	5 その他
3 親子	

- 4 あなたの世帯（あなた自身も含めて）には、次に当てはまる方はいますか。 <○は当てはまるものすべて>

1 6歳未満の乳幼児	3 65～74歳の方
2 小中学生	4 75歳以上の方

- 5 あなたの職業（兼業の方は主たる職業）を教えてください。 <○は1つ>

1 会社員・公務員	5 専業主婦（主夫）
2 自営業	6 学生
3 農林業	7 無職
4 パート・アルバイトなど	8 その他（具体的に：_____）

- 6 あなたの現在のお住まいを教えてください。 <○は1つ>

1 一戸建（持ち家）	5 公営住宅（公社・県営・市営）
2 一戸建（借家）	6 社宅・官舎
3 集合住宅（分譲）	7 その他
4 集合住宅（賃貸）	

現在の住環境について

お答えは、当てはまる番号に○印をつけてください。

問1 あなたは、つくば市にお住まいになって何年ぐらいになりますか。
※合併前の旧市町村も含めてお答えください。

<○は1つ>

- 1 1年未満
- 2 1年以上5年未満
- 3 5年以上10年未満
- 4 10年以上20年未満
- 5 20年以上30年未満
- 6 30年以上

問2 あなたは、つくば市以外に住んでいたことがありますか。

<○は1つ>

- 1 ある
- 2 ない

問3 あなたは、これからもつくば市に住み続けたいと思いますか。

<○は1つ>

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 住み続けたい | 3 どちらかといえば住み続けたくない |
| 2 どちらかといえば住み続けたい | 4 住み続けたくない |
| | 5 どちらともいえない |

問4 あなたは、つくば市の「住み心地」についてどう感じていますか。

<○は1つ>

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 住みやすい | 3 どちらかといえば住みにくい |
| 2 どちらかといえば住みやすい | 4 住みにくい |
| | 5 どちらともいえない |

▶▶【問4で「1 住みやすい」「2 どちらかといえば住みやすい」とお答えの方にお聞きします】

問5 住みやすいと感じる主な理由は何ですか。

<○は当てはまるものすべて>

- | |
|--------------------|
| 1 豊かな自然 |
| 2 日常生活が便利 |
| 3 通勤・通学先が近い |
| 4 交通の便が良い |
| 5 教育・文化環境が良い |
| 6 居住環境が良い |
| 7 充実した医療機関・福祉サービス |
| 8 充実した公共施設 |
| 9 暮らしていて安全 |
| 10 家族が近くにいる |
| 11 住み慣れている |
| 12 その他（具体的に：_____） |

▶▶【問4で「3 どちらかといえば住みにくい」「4 住みにくい」とお答えの方にお聞きします】

問6 住みにくいと感じる主な理由は何ですか。

<○は当てはまるものすべて>

- | |
|--------------------|
| 1 自然が少ない |
| 2 日常生活が不便 |
| 3 通勤・通学先が遠い |
| 4 交通の便が悪い |
| 5 教育・文化環境が悪い |
| 6 居住環境が悪い |
| 7 医療機関・福祉サービスが不足 |
| 8 公共施設が不足 |
| 9 暮らしていて不安 |
| 10 家族が遠くにいる |
| 11 住み慣れていない |
| 12 その他（具体的に：_____） |

問7 あなたは、つくば市の景観をどう思いますか。

<○は1つ>

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 優れている | 3 どちらかといえば優れていない |
| 2 どちらかといえば優れている | 4 優れていない |
| | 5 わからない |

問8 つくば市の景観として、次の項目について、どう思いますか。

<1～5のいずれか1つに○>

項目	優れている	どちらかといえば優れている	どちらかといえば優れていない	優れていない	わからない
1 筑波山・宝篋山	1	2	3	4	5
2 牛久沼	1	2	3	4	5
3 田園風景	1	2	3	4	5
4 里山・平地林	1	2	3	4	5
5 研究学園都市の街並み	1	2	3	4	5
6 つくばエクスプレス駅周辺の街並み	1	2	3	4	5
7 農村集落の街並み	1	2	3	4	5
8 筑波山麓の街並み	1	2	3	4	5
9 西部・北部工業団地の街並み	1	2	3	4	5
10 ペDESTロリアンデッキ (歩行者・自転車専用道路)	1	2	3	4	5
11 公園	1	2	3	4	5
12 街路樹	1	2	3	4	5
13 電線・電柱が地中化されている風景	1	2	3	4	5
14 その他(具体的に: _____)	1	2	3	4	5

問9 あなたは、つくば市に愛着を持っていますか。

<○は1つ>

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 愛着がある | 3 どちらかといえば愛着がない |
| 2 どちらかといえば愛着がある | 4 愛着がない |
| | 5 どちらともいえない |

つくば市の現状やまちづくりへの取組について

お答えは、当てはまる番号に○印をつけるか、または番号をお選びください。

問 10 あなたは、ふだんの生活の中で、次の 1)～42)の項目について、どの程度満足していますか。

<○は1つずつ>

満足度		満足	どちらかと		不満	わからない
			い	ど		
項 目		1	2	3	4	5
健康・福祉	1) 高齢者の福祉	1	2	3	4	5
	2) 子育て環境	1	2	3	4	5
	3) 障害者の福祉	1	2	3	4	5
	4) 生活困窮者の福祉	1	2	3	4	5
	5) 健康づくりの支援	1	2	3	4	5
	6) 病院・診療所などの医療機関	1	2	3	4	5
生活環境・防犯・防災	7) 生活環境（騒音・悪臭・ごみなど）対策	1	2	3	4	5
	8) 防犯対策	1	2	3	4	5
	9) 防災対策	1	2	3	4	5
	10) 交通安全環境（通学路の安全など）	1	2	3	4	5
	11) 住宅環境	1	2	3	4	5
教育・スポーツ・文化	12) 小中一貫教育の充実	1	2	3	4	5
	13) ICT教育や科学教育の充実	1	2	3	4	5
	14) 教育環境の整備（施設の老朽化対策、設備の充実など）	1	2	3	4	5
	15) 児童生徒の支援体制整備	1	2	3	4	5
	16) スポーツ・レクリエーション	1	2	3	4	5
	17) 文化・芸術の振興	1	2	3	4	5
	18) 文化財の保護	1	2	3	4	5
	19) 男女共同参画	1	2	3	4	5
	20) 国際化の推進	1	2	3	4	5
	21) 生涯学習の推進	1	2	3	4	5
	22) 地域交流センター、図書館等の文化施設の充実	1	2	3	4	5

項目		満足度				
		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	わからない
まちづくり	23) つくば駅周辺のにぎわい	1	2	3	4	5
	24) 地球温暖化防止の推進（温室効果ガスの削減など）	1	2	3	4	5
	25) 環境意識の啓発	1	2	3	4	5
	26) 自然環境や資源の保全・活用	1	2	3	4	5
	27) 公園・広場・遊び場の数	1	2	3	4	5
	28) 公共交通	1	2	3	4	5
	29) 道路整備	1	2	3	4	5
	30) 上水道整備	1	2	3	4	5
	31) 下水道整備	1	2	3	4	5
産業・観光	32) 農業の振興	1	2	3	4	5
	33) 商工業の振興	1	2	3	4	5
	34) 観光の振興	1	2	3	4	5
	35) 筑波山地域ジオパークの取組	1	2	3	4	5
地域・行政	36) 広報紙（かわら版含む）による情報発信	1	2	3	4	5
	37) ホームページ・SNS 等による情報発信	1	2	3	4	5
	38) 行政改革	1	2	3	4	5
	39) 区会・ボランティアなどの地域活動	1	2	3	4	5
	40) 科学技術の振興（研究開発支援、成果普及など）	1	2	3	4	5
	41) ロボットの街つくばの取組 （生活支援ロボット実用化促進など）	1	2	3	4	5
	42) 情報通信技術（ICT）を活用した行政サービス	1	2	3	4	5

▶【問 10 で「3 どちらかといえば不満」または「4 不満」とお答えの方にお聞きします】

問 11 特に不満と感じる項目番号 1)～42) と、その理由を教えてください。

<3 つまで>

	項目番号	理 由
1		
2		
3		

問 12 あなたは、つくば市は自分らしく、自分のやりたいことができるまちであると思いますか。

<〇は1つ>

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 そう思わない |
| | 5 わからない |

問 13 あなたが、市外の友人に紹介したい（自慢したい）と思うつくば市の魅力は何ですか。

<1~5のいずれか1つに〇>

項目	自慢である	紹介したい、 紹介したい、 自慢である	どちらかといえ ば、紹介したい	あまり紹介した いとは思わない	紹介したいと 思わない	知らない
1 自然（筑波山、宝篋山、牛久沼など）	1	2	3	4	5	
2 科学（研究学園都市、研究機関の見学施設など）	1	2	3	4	5	
3 自然体験施設 （豊里ゆかりの森、筑波ふれあいの里、こもれば六斗の森、 フォレストアドベンチャー・つくばなど）	1	2	3	4	5	
4 筑波山地域ジオパーク	1	2	3	4	5	
5 史跡（平沢官衙遺跡、小田城跡など）	1	2	3	4	5	
6 学校教育	1	2	3	4	5	
7 子育て環境	1	2	3	4	5	
8 公園	1	2	3	4	5	
9 農産物	1	2	3	4	5	
10 特産品（北条米、ブルーベリー、福来みかんなど）	1	2	3	4	5	
11 物産品 （つくば産品を使った菓子や酒などの加工食品）	1	2	3	4	5	
12 まつり（まつりつくば、筑波山梅まつり、 つくばフェスティバルなど）	1	2	3	4	5	
13 自転車の街（つくば霞ヶ浦りんりんロードなど）	1	2	3	4	5	
14 ロボットの街	1	2	3	4	5	
15 つくばエクスプレス	1	2	3	4	5	
16 その他 （具体的に： _____)						

問 14 あなたは、つくば市には、市政に市民が参加できる環境が整っていると思いますか。
＜○は1つ＞

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 そう思わない |
| | 5 わからない |

問 15 あなたは、市政に対する自分の意見等を、以下の方法で市に伝えたことがありますか。
＜○は当てはまるものすべて＞

- | |
|--|
| 1 「市長へのたより」等の手紙 |
| 2 「市長へのメール」等の電子メール |
| 3 要望書や意見書等 |
| 4 電話 |
| 5 窓口での会話・筆談等 |
| 6 市が実施したアンケートの回答 |
| 7 「タウンミーティング」や「意見交換会」、「ワークショップ」等市が主催する会合での発言 |
| 8 PTA を経由した意見表明 |
| 9 区会・自治会を經由した意見表明 |
| 10 市が開催する委員会・審議会などでの市民委員としての発言 |
| 11 パブリックコメント |
| 12 その他（具体的に：_____） |
| 13 市に伝えたい意見がない |

問 16 あなたは、つくば市の市政には、市民の声が活かされていると思いますか。
＜○は1つ＞

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 そう思わない |
| | 5 わからない |

少子高齢化への取組について

お答えは、当てはまる番号や欄に○印をつけてください。

問17 あなたは、つくば市には安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると思いますか。

<○は1つ>

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 そう思わない |
| | 5 わからない |

問18 安心して子どもを産み育てられる環境として、つくば市で充実していると思うものと不足していると思うものは何ですか。

<○は1つずつ>

項目		充実している	不足している	わからない
1)	子育て世帯への経済的支援（予防接種への支援、医療福祉費支給制度等）			
2)	保育施設			
3)	一時預かり			
4)	病児の保育			
5)	子育て支援施設			
6)	放課後児童クラブ			
7)	産婦人科・小児科医・子ども医療電話相談#8000			
8)	子育てに関する相談体制（保健師訪問、メール案内、チャットボット等）			
9)	地域で子育てを支える仕組み			
10) その他	充実	（具体的に：_____）		
	不足	（具体的に：_____）		

問19 あなたは、つくば市には高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思いますか。

<〇は1つ>

1	そう思う	3	どちらかといえばそう思わない
2	どちらかといえばそう思う	4	そう思わない
		5	わからない

問20 高齢者が安心して住み続けられる環境として、つくば市で充実していると思うものと不足していると思うものは何ですか。

<〇は1つずつ>

項目		充実している	不足している	わからない
1)	健康づくりや介護予防事業			
2)	高齢者の生きがいづくり支援（通いの場づくり等）			
3)	日常生活支援（移動・送迎、買い物等）			
4)	地域で高齢者を支える仕組み（シルバークラブや民生委員等）			
5)	利用できる介護保険サービス			
6)	在宅で介護する家族への支援			
7)	クリニック・かかりつけ医・救急安心センター事業#7119			
8)	緊急時や災害時の対策（認知症見守り訓練等を通じた見守り支援等）			
9)	情報提供（チャットボットによるよくある質問への回答等）			
10) その他	充実	（具体的に：_____）		
	不足	（具体的に：_____）		

問21 あなたが、地域包括支援センターの次の取組のうち知っているものをお答えください。

<○は当てはまるものすべて>

- 1 高齢者の生活や介護等の困り事相談
- 2 高齢者虐待の対応や成年後見制度の活用等の支援
- 3 在宅医療と在宅介護の普及啓発
- 4 地域での支え合いや高齢者の社会参加支援
- 5 認知症の人とその家族を支える相談
- 6 介護予防教室の開催や家庭訪問
- 7 上記は知らないが、地域包括支援センターの名前だけは知っている
- 8 全く知らない

防災対策・防犯活動について

お答えは、当てはまる番号に○印をつけてください。

問22 あなたが、防災対策として実践しているものはありますか。

<○は当てはまるものすべて>

- 1 防災用品や食料・水の備蓄
- 2 タンスやテレビ、電子レンジの転倒（落下）防止措置
- 3 住まいの耐震（免震）構造
- 4 その他（具体的に：_____）
- 5 何もしていない

問23 あなたは、地域の住民が協力して行う防犯活動（防犯ボランティアなど）に参加していますか。

<○は1つ>

- 1 いつも参加
- 2 ときどき参加
- 3 参加していない

▶【問23で「3 参加していない」とお答えの方にお聞きします】

問24 防犯活動に参加しない理由は何ですか。

<○は1つ>

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 時間がない | 5 組織があるかわからない |
| 2 活動がわずらわしい | 6 必要だと思わない |
| 3 人間関係がわずらわしい | 7 わからない |
| 4 組織がない | 8 その他（具体的に：_____） |

交通環境について

お答えは、当てはまる番号に○印をつけてください。

問 25 あなたが、日常利用する交通手段は何ですか。

<○は当てはまるものすべて>

- | | |
|--------|-------------------|
| 1 鉄道 | 6 自家用車 |
| 2 路線バス | 7 オートバイ |
| 3 つくバス | 8 自転車 |
| 4 つくタク | 9 その他（具体的に：_____） |
| 5 タクシー | |

問 26 あなたは、現在のつくば市において、歩行者と自転車と自動車が共に安全で快適に通行できていると思いますか。

<○は1つ>

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 できている | 3 どちらかといえばできていない |
| 2 どちらかといえばできている | 4 できていない |
| | 5 わからない |

問 27 あなたは、つくば市の交通環境がどのようになっていることが望ましいですか。

<○は1つ>

- | |
|----------------------------|
| 1 公共交通が便利で、自動車がなくても生活できるまち |
| 2 自動車がスムーズに走行できるまち |
| 3 自転車を安心・便利に利用できるまち |
| 4 安心・便利に歩くことができるまち |

運動習慣について

お答えは、当てはまる番号に○印をつけてください。

問 28 あなたは、この一年間に運動やスポーツをどのくらいしましたか。なお、運動やスポーツには、散歩や軽い体操なども含みます。

<○は1つ>

- | |
|------------|
| 1 週に3日以上 |
| 2 週に1～2日 |
| 3 月に1～3日 |
| 4 3か月に1～2日 |
| 5 年に1～3日 |
| 6 しなかった |

つくば駅周辺地区の活性化について

お答えは、当てはまる番号に○印をつけるか、または番号をお選びください。

問29 あなたは、どれぐらい、つくばセンター地区（つくば駅周辺）を訪れますか。

<○は1つ>

- | | |
|-----------|------------|
| 1 ほぼ毎日 | 4 月1、2回程度 |
| 2 週2、3回程度 | 5 年数回程度 |
| 3 週1回程度 | 6 まったく訪れない |

●●●●●▶【問29で1～5を選択した方にお聞きします】

問30 主にどのような目的でつくばセンター地区を訪れますか。

<○は1つ>

- | |
|-------------------|
| 1 娯楽 |
| 2 趣味 |
| 3 日常の用事 |
| 4 仕事 |
| 5 移動・乗り換え |
| 6 その他（具体的に：_____） |

問31 あなたは、にぎわいのあるつくばセンター地区（つくば駅周辺）にするためには、どのような取組が必要だと思いますか。

当てはまる番号を、右の回答欄に3つまで記入してください。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
----------------------	----------------------	----------------------

- | | |
|----|---|
| 1 | ペDESTリアンデッキ（歩行者・自転車専用道路）を活用した歩きやすい空間づくり |
| 2 | 商業施設や公共施設を周遊するバスの運行 |
| 3 | 子どもが遊べる広場の設置 |
| 4 | オープンカフェや朝市の設置 |
| 5 | 路上パフォーマンスやイベントなど広場等でのエンターテインメントの提供 |
| 6 | 科学技術を展示・体験できる場の提供 |
| 7 | 商業施設の誘致 |
| 8 | 駐車場の拡充 |
| 9 | 公共交通でのアクセスの向上 |
| 10 | バーベキューなどが楽しめる広場 |
| 11 | その他（具体的に：_____） |
| 12 | 特に必要ない（今のままで十分） |

科学のまちについて

お答えは、当てはまる番号に○印をつけてください。

問 32 あなたは、つくばが「科学のまち」であることの恩恵を感じることがありますか。
 <○は1つ>

- | | |
|--------------|---------|
| 1 ある | 3 あまりない |
| 2 どちらかといえばある | 4 ない |
| | 5 わからない |

問 33 あなたにとって、つくばが「科学のまち」であることの恩恵とは何ですか。
 <○は当てはまるものすべて>

- | |
|--|
| 1 数多くの研究機関が集積し、まちの賑わいにつながる |
| 2 研究機関等のイベントに参加でき、様々な体験ができる |
| 3 研究成果が社会実装（社会に普及）され、日常生活に役立つ |
| 4 学校等で科学教育の機会が提供される |
| 5 質の高い市民サービスが受けられる |
| 6 研究機関で働ける |
| 7 まちがスマートシティ化（先端技術を活用して地域課題を解決し、利便性が高く暮らしやすい街をつくる取組）する |
| 8 研究成果をベースとして技術系起業者が市内で次々に生まれる |
| 9 多くの研究者が在住し、交流できる |
| 10 多くの外国人研究者が来訪し、国際共同研究が活発に進められるなど国際化が進む |
| 11 その他（具体的に：_____） |

問 34 あなたは、つくば市は科学のまちならではの先端的な製品・サービスが、いち早く暮らしの中に活かされていると思いますか。
 <○は1つ>

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 そう思わない |
| | 5 わからない |

問 35 あなたは以下のモバイル機器を保有していますか。
 <○は当てはまるものすべて>

- | |
|---------------|
| 1 スマートフォン |
| 2 携帯電話 |
| 3 いずれも保有していない |

国際都市つくばについて

お答えは、当てはまる番号をお選びください。

問36 あなたは、「国際都市」として、つくば市が今後、強化すべき取り組みは何だと思えますか。当てはまる番号を、右の回答欄に3つまで記入してください。

- 1 相談・交流拠点整備等による外国人市民への生活支援
- 2 外国人市民への日本語学習支援
- 3 留学生への支援
- 4 案内表示・施設窓口での多言語対応
- 5 学校での国際理解教育
- 6 外国人住民と交流・協働する機会の提供
- 7 世界に向けたつくば市の魅力の発信
- 8 海外の芸術・文化・芸能公演
- 9 国際関係機関・団体との連携による国際化推進体制の充実
- 10 姉妹都市との交流の機会の提供
- 11 その他（具体的に：_____）
- 12 特に必要ない（今のままで十分）

問37 あなたは、世界中から多様な国籍の人が集まっているまちに住んでいる良さを感じていますか。

<○は1つ>

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 感じている | 3 どちらかといえば感じていない |
| 2 どちらかといえば感じている | 4 感じていない |
| | 5 わからない |

SDGs（持続可能な開発目標）について

お答えは、当てはまる番号に○印をつけるか、または番号をお選びください。

問 38 あなたのSDGs（※1）に関する認知度について、以下の選択肢の中から最も近いものを選んでください。

<○は1つ>

- 1 よく知っている
- 2 少し知っている
- 3 名前だけは知っている
- 4 まったく知らない（今回の調査で初めて知った）

※1 SDGsとは

Sustainable Development Goalsの略。2015年の国連サミットで採択された2030年までに達成するための「持続可能な開発目標」です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。つくば市は、SDGsの理念を「持続可能都市ビジョン」として反映し、取組を進めています。

問 39 SDGsや持続可能都市に関することで、関心が高いものを選び、番号を以下の回答欄に3つまで記入してください。

- 1 子どもを中心とした貧困の解消
- 2 全世代の健康寿命の延伸
- 3 生涯学習や科学教育など、全世代への質の高い教育の実施
- 4 女性活躍のための仕事と子育ての両立の支援
- 5 脱プラスチックの推進による海洋汚染等の防止
- 6 食品ロスの削減による資源の有効活用や環境負荷の低減
- 7 地産地消の推進による地元農業の推進と環境負荷の低減
- 8 市民、議会、団体、企業等のパートナーシップを生かした施策の実施
- 9 その他（具体的に：_____）

幸福度について

お答えは、当てはまる番号に○印をつけるか、または当てはまる番号をお選びください。

問 40 あなたは、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、現在どの程度幸せだと思いますか。当てはまる数字（点数）を選んでください。

<○は1つ>

とても 幸せ	←									とても 不幸
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

問 41 あなたが、自分の幸福感を判断する際に特に重視することは何ですか。当てはまる番号を、右の回答欄に3つまで記入してください。

- | | |
|----|-----------------|
| 1 | 健康状況 |
| 2 | 就業状況 |
| 3 | 家計の状況 |
| 4 | 自由な時間 |
| 5 | 精神的ゆとり |
| 6 | 生きがい |
| 7 | 余暇 |
| 8 | 家族関係 |
| 9 | 友人関係 |
| 10 | 職場の人間関係 |
| 11 | 仕事の充実感 |
| 12 | 地域コミュニティ |
| 13 | その他（具体的に：_____） |

問 42 あなたは、心配ごとや困っていることはありますか。

<○は当てはまるものすべて>

- 1 健康のこと
- 2 老後のこと
- 3 仕事や職場のこと
- 4 結婚のこと
- 5 お金のこと
- 6 子どもの保育や教育のこと
- 7 近所づきあいのこと
- 8 住宅のこと
- 9 交通手段が不便なこと
- 10 災害や犯罪のこと
- 11 その他（具体的に：_____）
- 12 特にない

令和5年（2023年）度つくば市民意識調査報告書

令和5年（2023年）年12月

発行 つくば市

調査・編集 つくば市 政策イノベーション部

統計・データ利活用推進室

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1

電話 029-883-1111（代表）
